

資料編

1 章の資料

2 章の資料

5 章の資料

文献資料リスト

1 章の資料

1.5.2 関連計画の詳細

(1) 滝山公園基本計画（昭和61年度）

【全体方針】

史跡滝山城跡を含め、滝山公園の計画にあたっては、史跡整備の関係、公園利用に伴う計画等、総合的な立案が必要とされる。

公園計画は、復元、展示等を含めた史跡整備方針、遺構の確認等調査方針、遺構の保存方針、公園整備、及びそれに伴う施設方針等に分けられる。

全体的には、将来的な公園計画決定区域内について検討を行うが、史跡指定地区内においては史跡整備、調査保存等の方針を、運動公園を含めた史跡指定区域外については、公園整備として方針を検討する。

【個別方針】

① 史跡整備方針

史跡整備については、視覚的な整備を心掛けるとともに、当時の縄張の意図を明確にする意味でも、現在不明確になっている主要な郭の範囲、虎口、土塁、堀の復元、防御施設としてより重要な塀や柵、門など可能な限り復元を行うものとする。又、曲輪内部については、兵溜りや倉庫などの空間と生活空間との範囲を明確にし、仕上げの仕様などを変える必要がある。又、建物については、その性格に応じた景観を疎外しない範囲での計画とする。その他、各主要な曲輪に取り付く腰曲輪は、調査経過等も踏まえ将来的な整備として計画する。

② 調査方針

発掘調査は、整備のための確認調査を主とし、トレンチ調査等による構造把握を目的とする。ただし、枡形、虎口の調査については、その範囲を全掘し構造把握を行い整備の対象とする。

③ 遺構の保存方針

枡形虎口や通路については、安全を考慮し、盛土を保存的に30cm内外の層状締固めを行った上で砕石等による締固めを行い、整備のための基盤とする。建物、施設等が上部に乗る個所についても同様とする。又、それ以外の所については、盛土を締固めのみとする。

土塁などの復元に際しては、当時の方法を踏襲し、層状締固めによるものとし、斜面などに芝張などを施し、安定させるものとする。

④ 公園施設整備方針

史跡範囲内においては、復原展示施設以外のものは、設置しない計画とし、史跡指定地外に公園利用のための駐車場、管理施設等を置くものとする。

樹木については、あまりにも現状が雑木林として城の形態や景観を疎外している所が多く、史跡整備にあたっては、主要な曲輪内部や土塁や堀のため、最小限の伐採を行うものとする。虎口や主要な園路となる武者走りの範囲についても、伐採するものとする。

その他の地区については、下草など整理が今後必要とされる。施設については、最小限のものとして計画する。ただし、説明板等の案内施設については、史跡の内容等を知らせるための重要な手段であり、総合的な案内施設を導入部に設け、各主要な曲輪や遺構について、それぞれ説明板等で表示を行う。又、順路などを明記する上で導標なども統一的なものとする。

(2) 「滝山公園基本設計」東京都建設局西部公園緑地事務所（平成7年度）

先の昭和61年度の基本計画は、遺構の保存・整備を第一とし、遺構の調査の方向性、及び遺構とその景観の復元的整備の方向性を示すものであった。しかしその後、平成8年度に策定された基本設計では、下記のように、計画地の自然環境の保全を第一とし、樹林地については一部レクリエーション・フィールドとして確保しつつ、薪炭林利用をキーワードに樹林地の維持管理方策を将来検討していくこと。また、遺構については、樹林地内の遺構は基本的に現状保全、その他滝山城跡において「最も特徴的」とされる馬出や虎口の遺構については、整備及び「再生」（復元ではなく再生）を図るものとされている。

① 全体計画

【全体方針】

滝山公園整備においては、その基礎的条件から明らかなように、丘陵地としての良好な自然環境を維持することが最も基本的な整備方針である。その上で歴史性やレクリエーション・ニーズに応えることで、より魅力ある公園づくりを目指す。自然環境の保全を最優先事項とし、次の3つの環境整備を図ることとしている。

【個別方針】

A 自然環境：「丘陵地の自然環境の保全」

1. 樹林地の保全

滝山公園の樹林地は丘陵地の緑の骨格を形成するものであり、特に公園外からの景観にも配慮して現況保全を基本とする。

2. レクリエーション・フィールドの確保

丘陵地公園に相応しい良好な自然環境を維持するとともに、各種レクリエーションのフィールドとなる自然地（樹林地、草地、等）を確保する。

3. 樹林地の活用と維持管理

旧来よりの利用形態であった薪炭林利用をキーワードに、自然との触れ合いを通じて行う樹林地の維持管理方策を将来検討する。

4. 自然環境保護区域の設定

丘陵地の貴重な自然環境を保全するために、多様性のある豊かな自然を保有している部分は保護区域とし、利用を制限する。

B 歴史環境：「滝山城跡の遺構の保護と再生」

1. 遺構の保護

滝山城跡の遺構は、原則として現況のまま保存する。

遺構への侵入防止のため、遺構の縁部には柵、低木植栽を行う。

遺構の保護のため、再生した法面等には、草本、あるいは低木植栽を行う。

2. 遺構の再生（復元ではなく、遺構をより見えやすくするための整備）

遺構の再生に当たっては、確認調査を行う。

遺構をより見えやすくするため、一部の樹木を伐採する。

滝山城跡の最も特徴的な遺構の一部で、かつての形態を再生する。

C レクリエーション環境：「レクリエーション・ニーズへの対応」

1. 広域的なレクリエーション・ネットワークの形成

歴史性に着目した広域的レクリエーション・ネットワークを検討する。

2. 公園内ネットワークの形成

公園内のネットワークとして現道を尊重しながら実用性の高い園路をめぐらし、その利用の利便性を図るサイン類を設置する。

眺望箇所として重要な箇所では、その眺望を確保する。

3. 駐車場の設置

車利用者に配慮し、駐車場を整備するが、史跡指定範囲への車両侵入を最小限にするため、公園縁辺部に分散して設置する。

4. 各種レクリエーションへの対応

遺構の観察を補完する説明板を設置する。

自然地でのレクリエーション・フィールドとして、現況の雑木林を維持し、一部を開放する。

樹林地で利用や各種活動（ex.自然教室）を支援する施設を整備する。

広域的レクリエーション・ネットワークの拠点に相応しい拠点施設（ex.ビジターセンター）を設置する。

5. 施設の改修

老朽化した施設を改修する。

園路脇の崩壊地等、公園利用上危険な箇所に対しては適切な措置を施す。

車両の侵入を制限する車止め等、管理上新たに必要な施設を設置する。

①全体計画 出典：「滝山公園基本設計報告書」H8.3 41-42 頁

② 基本設計

以上の指針にもとづき、基本設計では、次の A の遺構に関する地形保存整備等について設計の方針を示しているほか、その他②～④の施設整備に関する設計方針を示している。

A 地形保存整備

1. 角馬出の再生

滝山城跡の遺構において最も特徴的なものの1つに、二の丸跡を囲む3つの角馬出が挙げられる。角馬出の部分の景観は、城跡景観を形成する上で最も必要なものであり、遺構の形態が十分に確認できることが求められる。

2. 枅形虎口の再生

中世城郭の遺構の特徴の一つであり、それが良好に残るものとして、本丸を守る2つの枅形虎口が挙げられる。そのうち引橋と一体となったものは城跡散策のクライマックスを演出するものであり、従ってその枅形虎口を再生する。

3. 曲輪内の整備

曲輪内の整備に関しては、現況地形の改変は行わず、植栽・樹林地整備のみを行うものとする。

4. 現況地形の保全

現況で堀や土塁、帯廓の連続が良好に確認できる一帯に対し、その地形を保全するとともに、より確認しやすくするための整備を行う。

出典：「滝山公園基本設計報告書」H8.3 68-74 頁

なおこれらの遺構の再生に当たっては、確認調査を行い、その結果を踏まえた検討を通じ、保護措置や工法等の整備の詳細を決定するものとする、としている。

出典：「滝山公園基本設計報告書」H8.3 69 頁

その他、②園路・広場整備（管理用園路と歩行者用園路、多目的広場、芝生広場、草花広場等）、③施設整備（引橋、園路橋、車止め、柵、擁壁、休養施設、拠点施設の整備等）、④植栽・樹林地整備（現況林の保全、雑木林整備、樹木の一部伐採、植栽整備等）、⑤案内・説明板整備（案内サイン、説明板、広域サイン等）に関する設計方針が示されている。

出典：「滝山公園基本設計報告書」H8.3 78-102 頁

(3) 「滝山公園基本計画資料作成委託」東京都建設局公園緑地部計画課（令和2年度）

平成7年度の「滝山公園基本設計」から20年程度が経過し、文化財である滝山城跡の敷地現況の課題（老朽化等）の解決や史跡を取り巻く社会環境の変化（文化財保護法の改正、続日本100名城の選定、日本遺産への登録等）なども踏まえ、過年度の「滝山公園基本設計」における設計方針を見直し、本計画地の整備の方向性や目標像が改めて示された。

出典：「滝山公園基本計画資料作成委託」R3.3 報告書概要版 ii 頁 要約

① 上位関連計画と公園計画の見直し

- S61年度「滝山公園基本計画」とH7年度「滝山公園基本設計」の見直し

今日的な観点から、保存・活用すべき空間について再考を図ることが必要。

人が大地に刻んだ、ダイナミックな遺構の構造そのものが、土の山城城跡の魅力である。

最も変化に富む、本丸・中の丸・千畳敷・小宮曲輪と、それらに取囲まれ、池跡へと連なっていく遺構のダイナミックで複雑な構造、それらが築かれた意味、それを自らが歩いて体感できる素晴らしさは、他の公園では味わえない魅力であろう。本公園は、美しい丘陵地の自然とともに、戦国の歴史を見るだけでなく、体感できる貴重な公園でもある。

- 国や地方自治体の施策の動向

国の文化財に対する保存と活用の視点、自治体の公園の魅力アップ戦略や都民・企業とのパートナーシップの視点なども、そうした体験できる公園づくりへの変化を後押しするものであろう。

② 基本計画の策定

本公園は、「多摩川に接する加住丘陵南端の豊かな自然環境の中に在って、自然の要塞・戦国平山城の歴史を今に伝える公園」であり、豊かな自然と戦国の歴史、その両者の魅力を都民に提供できる貴重な都立公園である。本計画は、本公園が有する自然と歴史、その両者の魅力を引き出し、これを都民に体感してもらう公園づくりを計画の基本テーマとし、計画の各コンセプトが次のように定める。

- 計画のコンセプト

A 丘陵地の貴重な自然環境を守りながら、魅力的な季節の風景をつくる。

貴重な動植物の生息・生育環境でもある丘陵地の自然環境を保全しながら、既に園内の季節の風景として親しまれているサクラの景、ツツジの景、ススキや野草花の景など、季節の自然の景をより鮮明に整え、かつてあったアカマツの景を再生するなど、城跡を彩る美しく魅力的な風景を創出する。

- 動植物の生息・生育環境を維持・保全する
- サクラの名所としての魅力をさらに向上させる
- サクラ・ヤマツツジ・草花の景を保全、再生する
- アカマツの景を再生する

B 城跡の空間構造の魅力を引き出し、見て、歩いて、体感できる場をつくる。

本城跡の魅力は、ダイナミックな地形構造にある。北条氏の城郭にしばしば見られる枅形虎口や馬出、直線的でおおがかりな横堀や土塁、高低差のある曲輪や帯曲輪の重層的な連なりなど、城造りの技術やその巧みな空間構造を、間近に見て、歩いて、体感できるよう、樹林地を整理し、園路等を整備する。また、かつて見えたであろう、富士山や高月城を遠望する展望場や、ダイナミックな城跡の空間全体を見渡せる展望場など城跡の魅力を高める新たな展望場を創出する。

- 樹林地整備・園路整備により、城跡の空間構造の魅力を引き出す
- 遺構を巡る回遊路を創出し、公園全体の周遊性を高める
- 城跡の魅力を高める新たな展望場を創出する

C 新たな利用者ニーズへの対応を図る。

続 100 名城の選定等を契機に城跡の見学者が急増し、利用者の年齢・性別等にも変化が生じている。また、城跡の見学会や自然の観察会などイベントが増加し、ボランティア活動も活発化している。夏季休暇中の利用者も増加しており、屋根のある休憩場等の要望もある。老朽した施設の改修とともに、このような新たな利用者ニーズに対応した、安全で、快適な施設整備を図る。

- 園路の破損箇所、土塁流出・倒木危険箇所等を整備
- 歩きやすい安全な歩行ルートの確保
- 多様なリクレーション・ニーズ（城跡見学、自然観察、散策、展望、休憩など）に応じ、各種施設の改修・整備を図る

②基本計画の策定 出典：「滝山公園基本計画資料作成委託」R3.3 180-181 頁

③ 基本計画案の作成

こうした基本テーマとコンセプトをもとに、1)遺構の保存、2)園路・広場、3)駐車場、4)建築施設、構造物等（トイレ、休息舎、木橋等）5)展望施設・休息施設 6)管理施設・案内施設、などの導入施設とその規模の検討がなされ、基本計画案・平面図（基本構想図）が作成された。

③基本計画案の作成 出典：「滝山公園基本計画資料作成委託」R3.3 194-201 頁

基本計画案・平面図の作成 出典：「滝山公園基本計画資料作成委託」R3.3 207-211 頁

1.5- 東京都の関連計画

(1) 「滝山公園マネジメントプラン」東京都建設局(R4.3)

「滝山公園マネジメントプラン」は、今後新たな10年間を見据えた公園づくりに必要な目標を設定し、当該目標を実現するための計画・整備・管理に係る基本的な取組方針を定めたものである。公園の目標と取組の方針は、次のとおり。

● 「滝山公園マネジメントプラン」滝山公園の目標

目標1：安全・快適な公園づくりを行う都立公園

- ・ 適正な樹木剪定や植生管理等とともに、日常的な施設清掃や巡回、マナーアップの呼びかけ等により、安全性や防犯性に考慮しながら快適な公園づくりを行っていく。
- ・ 主な取組確認項目：植栽管理の取組、施設管理の取組

目標2：水と緑のネットワークを形成する都立公園

- ・ 本公園は加住丘陵に位置し、小宮公園等の都立公園とともに東京の緑の骨格として広域に渡る緑のネットワークを形成している。隣接する雑木林などの自然地や加住丘陵に位置する他の公園緑地と連携しながら、一体の自然豊かな丘陵地として保全を図っていく。
- ・ 主な取組確認項目：植栽管理・施設管理の取組

目標3：東京の水と緑の骨格軸の形成に寄与する都立公園

- ・ 東京をうるおいのある緑豊かな都市としていくため、水と緑の骨格を形成する公園の整備を進めていく。
- ・ 主な取組確認項目：新規開園に向けた取組

目標4：多様な生物の貴重な生息・生育空間となる都立公園

- ・ 本公園を良好な生物の生息・生育空間として機能させるために、多様な生物の生息・生育環境に配慮した環境整備を進めるとともに、公園内の動植物の保全・育成活動を充実させていく。
- ・ また、様々な体験を通して利用者に自然の大切さを体感してもらうため、この公園独自の自然的環境を利用した取組を行っていくとともに、ボランティア等の協力を得ながら、雑木林等の自然環境の保全・回復を図っていく。
- ・ 主な取組確認項目：生物生息・生育空間整備の取組、生物の保全・育成の取組、自然体験等の取組、雑木林更新等の取組

目標5：独自の魅力づくりに取り組む都立公園

- ・ 公園の魅力を向上させ、利用促進につなげるため、国指定史跡である滝山城跡について、保存活用計画の策定に取組、適切に保存・活用し、公園独自の魅力をアピールしていく。また、より多くの方々に公園の魅力を伝えるため、デジタル技術の活用などを通して情報や魅力の発信を強化する。
- ・ 主な取組確認項目：魅力発掘の取組

目標6：子どもたちの健やかな成長の場となる都立公園

- ・ 子どもたちの健やかな成長や多世代の交流のために、公園の豊かな自然環境を活かした野外体験などの機会を提供していく。
- ・ 主な取組確認項目：子どもの育成・多世代交流の取組

目標7：都民や企業等とのパートナーシップを推進する都立公園

- ・ 都立公園の魅力をさらに高め、都民にとって都立公園をより身近な空間とするため、都民や公園ボランティア、NPO、地元自治体や地域住民、民間事業者等の多様な主体とともに公園の管理運営を進めていく。また、デジタル技術の活用などを通じた情報や魅力発信や、利用者間や公園管理者と利用者などの多世代の交流を促進していく。
- ・ 主な取組確認項目：都民協働の取組、地域との連携の取組、企業との連携の取組

● 「滝山公園マネジメントプラン」滝山公園の取組方針

(1) ゾーン別基本方針

管理運営や改修整備等を重点的・効率的に実施していくために、園内の各ゾーンについて現況等も踏まえ機能・目的・自然的環境等により類型化し、ゾーン毎の基本方針を定める。なお、ゾーン別基本方針は、原則として開園区域を対象に定めるものとし、新規開園区域があった場合は、整備内容等を踏まえ、必要に応じ追記等を行う。

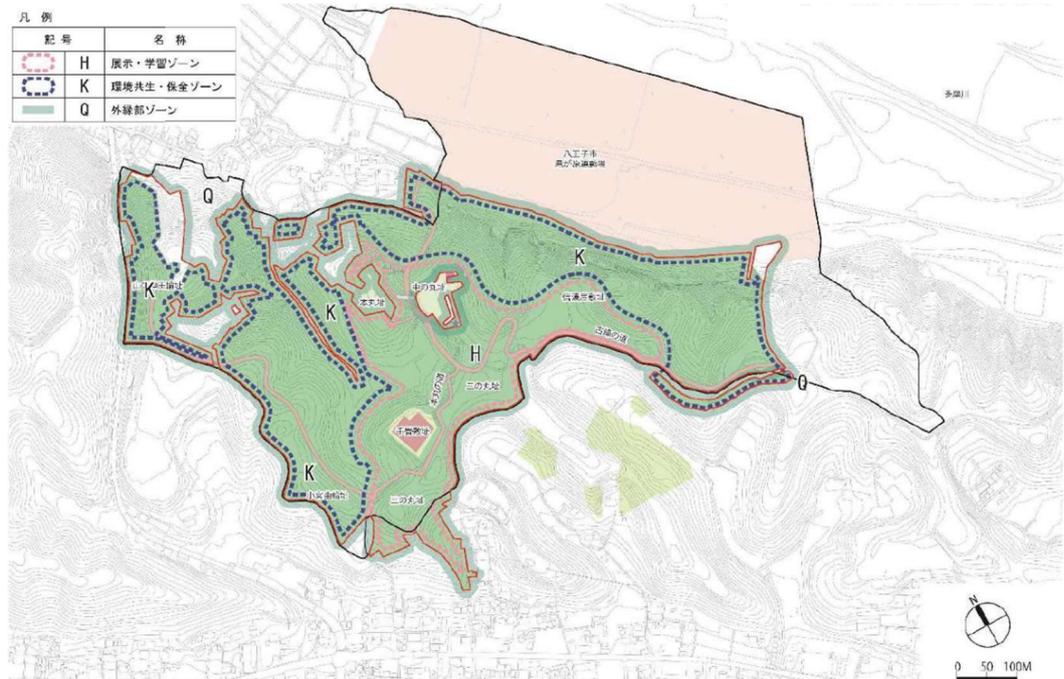


図 滝山公園のゾーン別基本

H：展示・学習ゾーン

- ・ 国指定史跡滝山城跡の二の丸址・千畳敷・三の丸址・信濃屋敷址などがあるゾーン
- ・ 園路等から堀や土塁等の遺構を観覧できる。周辺の樹林や法面の植栽管理を行い、園路等から遺構を観覧しやすい状態を保つとともに、史跡として適切に保全していく。

K：環境共生・保全ゾーン

- ・ 雑木林のあるゾーン
- ・ 生物多様性を確保するため、樹林地の自然環境を保全していくとともに、散策路を整えることで、四季折々の彩りのある姿を見せるよう工夫し、自然観察や散策、休息などの利用に対応していく。

Q：外縁部ゾーン

- ・ 民有地等や公道に接する公園外縁部
- ・ 本公園は、住宅地や民有林等と境界を接している。住宅地等と境界を接する所では、落ち葉や落枝、越流水などに対応していく。

(2) 維持管理の取組方針

維持管理の取組方針については、すべての公園・緑地に共通する基本的考え方として基本事項を示し、当該公園・緑地の維持管理において、特に留意すべき事項を留意事項として提示する。

1) 維持管理の基本事項

- ・ 都立公園は、自然環境保全、防災、景観形成、レクリエーションなど多くの機能を有しており、首都東京の風格を高め、安全で快適な都民生活に不可欠な都市施設である。こうした機能を発揮させるため、各公園においては、基本的な維持管理に加え、公園の特性に応じた維持管理を行い、より質の高い公園を作り上げていく。そのためにも、公園の中心的・特徴的要素となる植物をはじめ、その基盤となる土や水、そこに生息する動植物なども含め、総体として守り育ていく。あわせて、公園利用者に対しては、公園を清潔に保ち、ユニバーサルデザイン化された施設も含めて快適な利用を提供するとともに、日常的な点検等を通じて、病害虫被害や枯損等による樹木の異常、斜面・施設の異常等を早期に発見し、速やかに対応していくことで安全を確保し、安心して利用してもらう。
- ・ また、防災関連施設や排水施設、貯留浸透施設等は、非常時においても円滑に使用・機能できるよう、日頃から点検・清掃等を行っていく。
- ・ さらに、効率的で質の高い維持運営管理のため、樹木や公園施設等のデータベースのクラウド化等のデジタル技術の活用推進も検討していく。

2) 本公園の維持管理における留意事項

① 雑木林の管理

- ・ 里山景観の保全のため、雑木林の択伐等による萌芽更新や下草刈り、もや分けなどを行う。下草刈りでは、均一に行うのではなく、林床の植生状況を考慮の上、草刈区域や草刈時期を分けるなど、多様な環境の創出を図る。また、園路等から滝山城址の遺構である堀や土塁等を観覧することができるよう、周辺の樹林や法面の植栽管理を行っていく。

② サクラの保全・更新

- ・ 滝山公園の園内には多くの染井吉野があり、「桜まつり」が主要な行事となっていることから、サクラの保全・更新を図り、特徴的な景観を守っていく。

③ 文化財に配慮した維持管理

- ・ 維持管理作業を行うに当たり、国指定史跡を含む区域にあることから、所在地の文化財担当課（教育委員会事務局等）と事前協議等を行い、適切に行う。

④ 動植物の保全・育成

- ・ 環境共生・保全ゾーンなど、貴重な動植物が生息・生育する区域について、生物多様性を保全するための整備や管理の計画に基づき、主要な動植物のモニタリング調査を行うとともに、その結果を活用し、多様な生物の生息・生育環境に配慮した順応的な維持管理を行うことにより、動植物の保全と育成を進めていく。

⑤斜面崩壊等の対応

- ・ 滝山城址本丸の西北側、斜面地（崖線）及び丹木三丁目付近は、土砂災害防止法の土砂災害特別警戒区域、土砂災害警戒区域に指定されている。民家や道路に隣接している斜面地の地盤状況や雨水流出の状況について確認し、適切な管理を行う。過去、斜面地が崩壊した箇所等を中心に、梅雨の時期前に点検を行い、斜面崩壊の再発を防止し、安全を確保する。沢沿いは定期的に点検を行い、堆積した土砂や落ち葉は除去し安全を確保する。

（3）運営管理の取組方針

運営管理の取組方針については、すべての公園・緑地に共通する基本的考え方として基本事項を示し、当該公園・緑地の運営管理において、特に留意すべき事項を留意事項として提示する。

1) 運営管理の基本事項

① 基本的な事項

- ・ 都民のライフスタイルの多様化や高度化、少子高齢化の進展、新型コロナウイルス感染症の拡大による利用変化等、新たな時代のニーズに応じた公園の管理運営が求められている。公園やその周辺地域の特性を踏まえ、地域団体や民間事業者などと連携し、環境の変化や新たなニーズに応えるための運営管理を行う。

② 公園の適正な管理

- ・ 都市公園法や東京都立公園条例等に基づき、公の施設として公平・公正な取扱いをするとともに、公園利用者が安全かつ快適に公園を利用できるよう、不適正な公園利用の是正、感染症や社会状況変化等に応じた利用ルールの変更及び迅速な周知徹底、受動喫煙防止対策、利用マナーの普及啓発等の適正な運営管理を行う。

③ 利用促進

- ・ 公園利用者から寄せられる様々な要望や苦情等を通じてニーズを的確に把握し、幅広い利用者層や利用目的に応じた質の高いサービスを継続的に提供するとともに、デジタル技術等も活用した利便性の向上や公園の魅力の発信に取り組む。また、利用ニーズの変化に対応し快適な利用を促進するため、屋外テレワークの場となる環境・空間やキッチンカー等を活用した飲食空間等の創出について検討していく。

④ 管理運営における多様な主体との連携

- ・ 公園の活性化や魅力向上のため、地元自治体や地域住民、民間事業者等の多様な主体との継続的なパークミーティングや管理運営協議会等を設置開催し、各公園を特徴づけるような各種活動や地域に根付いたイベント等について連携して推進するとともに、管理運営の方針検討の場などにおいて、子供等を含めた幅広い意見を反映できるような仕組みづくりに取り組む。

2) 本公園の運営管理における留意事項

①都民やNPO等との協働による公園づくり

- ・ 丘陵地としての良好な自然環境と歴史性の高い史跡の城跡景観との共存を図りながら、樹林地における草刈や間伐、枝打ちなどの森林作業や環境学習、滝山城址という歴史的資源を活用した説明会や総合学習等の取組を充実し、郷土の自然とともに歴史や文化とふれあえる公園づくりを、都民やNPO等との協働で進めていく。

(4) 安全・安心な公園への取組について

地震・台風・大雨などによる被害や感染症等の発生、落枝・倒木や公園施設の老朽化に起因する事故の発生を未然に防ぎ、公園の利用者や周辺住民が安心して公園を利用できるよう、次の通り対応していく。

1) 地震災害

- ・ 巡回点検・応急対応等のマニュアルの理解と実践
- ・ 発災時を想定した参集訓練や通信訓練等の実施

2) 気象災害（台風、大雨、積雪等）

- ・ 巡回点検・応急対応等のマニュアルの理解と実践
- ・ 情報連絡体制の構築
- ・ 被害軽減のための事前処置の準備
- ・ 風水害時の園外への誘導等の内容も含んだ防災訓練の実施
- ・ 法面保護施設や貯留浸透施設等の維持保全
- ・ 樹林地等の保全や踏圧による地表面の踏み固め防止

3) 感染症など

- ・ 関係部署と連携しつつ迅速・適切に対応
- ・ 基本的感染対策の徹底
- ・ 感染状況に応じた利用ルールの変更及び迅速な周知

4) 落枝・倒木

- ・ 日常的巡回時の異常把握と応急処置
- ・ 倒木等の恐れのある樹木の定期点検
- ・ 計画的な樹木手入れ等の実施
- ・ 環境対策や快適な利用のため、樹木剪定等の植栽管理を強化

5) 施設の損壊等

- ・ 日常的巡回時の異常把握と応急処置
- ・ 公園利用者とのコミュニケーションによる不具合の把握
- ・ 計画的な補修や取り換え等の実施

(5) 改修・再整備の取組について

公園の改修・再整備については、本園の性格・役割や目標に照らし、長期的な視点に立つことを基本とし、改修・再整備の対象となる施設の現況特性等に応じ、個別に方針を定めて行うものとする。

①多様な生物が生息・生育するための環境整備

- ・ 多様な生物が生息・生育する都立公園とするため、生物多様性を確保するための方針を定め、計画的に整備を行う。

(2) 「東京の自然公園ビジョン」東京都環境局

「東京の自然公園ビジョン」は、「東京都環境基本計画」（2016年3月）、「緑施策の新展開」（2012年5月）で示された緑や生物多様性に対する考え方や、「都民ファーストでつくる「新しい東京」～2020年に向けた実行プラン～」(2016年12月)を踏まえた、自然公園に関する総合的なビジョンである。

このビジョンは、東京の自然公園の持つ魅力をさらに拡充し、豊かな自然を守りながら、国内外の人々がその素晴らしさを体感できるように自然公園の目指す姿を明示することを目的に、計画期間は、おおむね10年を目途に、策定されている。

出典：「東京の自然公園ビジョン」H29.5 2-3頁

滝山公園に関するビジョンは、次のとおりであり、自然環境の保全活動の推進、農村景観（高月村の水田景観のことであろう）の保全、城跡の歴史性の伝承、観光的利活用の促進等が挙げられている。

- 都立滝山自然公園の目指すビジョン
 1. 多様性と連続性が織りなす自然環境を育む自然公園
 - ・ 他の自然公園や都立公園等と連携した自然環境保全活動が進んでいる
 - ・ 周辺の農地や河川と一体となった農村景観が保全されている
 2. 人と自然との関係をとりもつ自然公園
 - ・ 歴史的史跡等を活用し、自然と結びついた文化や歴史が広く認識されている
 3. 誰もが訪れ、誰もが関われ、誰からも理解される自然公園
 - ・ 滝山公園や滝山城跡等の観光スポットを活用した利用が進み知名度が向上している

出典：「東京の自然公園ビジョン」H29.5 75-76頁

(3) 「緑の東京計画」東京都環境局(H12.12)

「緑の東京計画」は、21 世紀の東京を、環境と共生し、持続的発展が可能な都市とするために、「東京構想 2000」と連携しつつ、緑の面からとらえた施策展開の道筋を総合的・体系的に示すことを目的として策定されている。計画期間はおおむね 15 年間とし、取り組むべき緑づくりの目標と施策の方向や推進策などを明らかにしている。

出典：「緑の東京計画」H12.12 4 頁

滝山公園が位置する多摩・丘陵地ゾーンの施策方針は次のとおりであり、基本的に樹林地の自然環境を保全し、現況のみどり率を維持しつつ、活用を進めていくものとされている。

- 多摩における緑の計画目標

市街化の進行に対して、区部と同様、緑化を推進するとともに、樹林地の保全や農地の活用などを行い、みどり率の低下を抑えて現状のみどり率約 80%を維持する。

出典：「緑の東京計画」H12.12 32 頁

- 緑の東京計画における多摩・丘陵ゾーンの施策方針

このゾーンは農地、樹林地などの豊かな緑が残されている一方で市街化の圧力により喪失する恐れがあるところのため、調和の取れた市街化とともに、地域の緑を保全・活用して緑の安定的な確保を図っていく。

【施策の方向】

- ・ 湧水、崖線、樹林地などの自然資源の保全・活用を進める
- ・ 谷戸、里山など丘陵の外縁部分に残る自然地の保全・活用を図る
- ・ 農業の活性化、農業の継続による農地の保全を図る

出典：「緑の東京計画」H12.12 100 頁

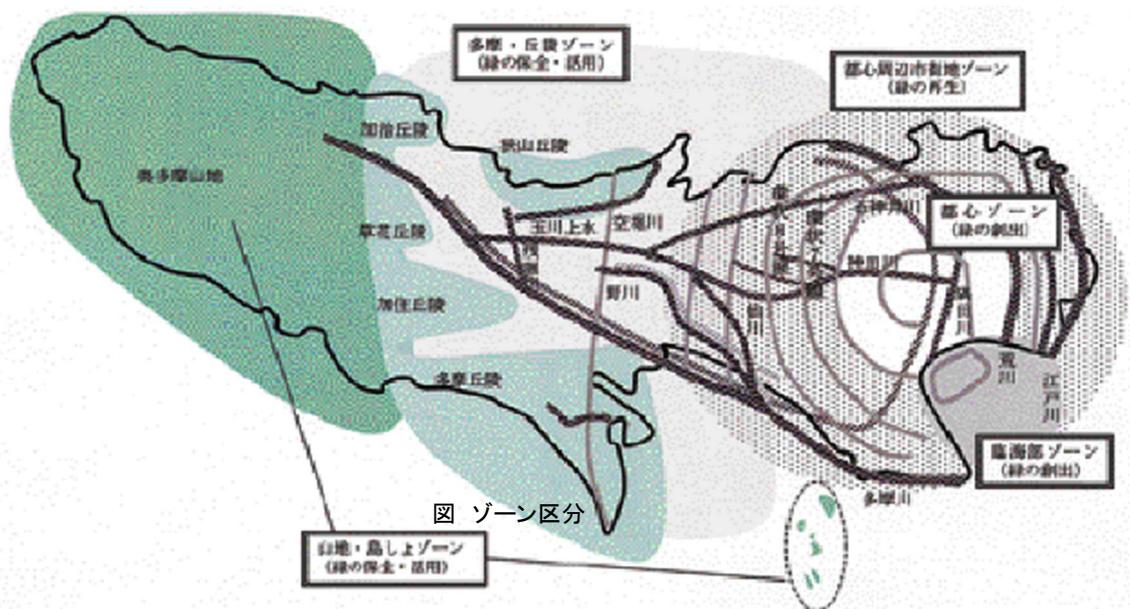


図 ゾーン区分

(4) 「都市計画公園・緑地の整備方針」東京都都市整備局(R2.7)

「都市計画公園・緑地の整備方針」は、「東京が新たに進めるみどりの取組」（令和元年5月東京都）や「緑確保の総合的な方針」（令和2年7月東京都・特別区・市町村）などに示すみどりの保全・創出に係る施策と一体となって、「未来の東京」戦略ビジョン」やランドデザインが目指す都市像を効果的かつ効率的に実現していくために、都市計画公園・緑地の計画的な整備促進と、整備効果の早期発現に向けた取組の方針を明らかにするものである。

出典：「都市計画公園・緑地の整備方針」R2.7 1頁

滝山公園は、東京都事業の中で「重点化を図るべき公園・緑地」とされている。なお、評価の基準は次のとおりである。

- 東京都事業「重点化を図るべき公園・緑地」

今後、計画的に事業を進める優先整備区域は、重点化を図るべき公園・緑地において、「区域の重要性」と「整備効果」の面から総合的に評価して設定している。

区域の重要性については、公園・緑地の機能や役割とネットワークの形成に関する「防災」「環境保全」「レクリエーション」「景観・魅力」の4つの機能・役割から評価し、整備効果については、これまでの整備・開園状況と、既に取得した用地の状況や今後対象となる用地の敷地規模や用地取得に関わる地権者等を勘案して評価している。

出典：「都市計画公園・緑地の整備方針」R2.7 27-29頁

(5) 「緑確保の総合的な方針(改定)」東京都都市整備局 (R2.7)

「緑確保の総合的な方針」は、特に減少傾向にある私有地の既存の緑やあらゆる都市空間への緑化等の課題に対し、都と区市町村とが合同で、都市計画を基本としたまちづくりの取組の方向性を明らかにし、計画的に東京の緑を確保していくことを目的に策定された。「都市計画公園・緑地の整備方針」（令和2年7月）とともに、主に既存の緑をまちづくりの観点から保全していくことを取りまとめている計画である。

出典：「緑確保の総合的な方針」R2.7 20頁

そのなかで、滝山公園が位置する加住丘陵については、下記の水準1を確保するものと位置付けられている。

- 緑地の確保地の水準と確保候補地

- ・ 確保地 : 令和11年度までに以下のいずれの水準により確保するもの
 - 水準1 : 計画期間内に、緑地の買収により保全するもの、又は、法や条例に基づいて、強い規制をかけることにより、確実に保全していくもの
 - 水準2 : 計画期間内に、法や条例等に基づいて、許可による行為制限や税の優遇などにより保全していくもの
 - 水準3 : 計画期間内に、行為の届け出や緑地の所有者との間で保全に関する協定を結ぶなど、緩い制限により、保全に取り組むもの
- ・ 特定生産緑地 : 計画期間内に、特定生産緑地に指定することにより保全していく農地（生産地）
- ・ 確保候補地 : 計画期間にとらわれず、保全を目指していく〈水準1〉から〈水準3〉のいずれかに上げていく考えのあるもの

出典：「緑確保の総合的な方針」R2.7 32、34頁

(6) 「東京都景観計画」東京都都市整備局（H30.8 改定）

「東京都景観計画」は、都民や事業者、区市町村等と連携・協力しながら、美しく風格のある首都東京を実現するための具体的な施策を示すものである。2040 年代の目指すべき東京の都市の姿とその実現に向けた、都市づくりの基本的な方針と具体的な方策を取りまとめた「都市づくりのランドデザイン」との整合を図りつつ、景観法や都市計画法、建築基準法に基づく諸制度、屋外広告物規制とも連携した施策を体系化して示している。

出典：「東京都景観計画」H30.8 2頁

その中で、加住丘陵および滝山公園は、多摩広域拠点域に位置し、丘陵地の緑の景観を保全し、東京の骨格的な景観形成に寄与するとともに、丘陵地の特性や歴史的・文化的資源を活かした景観の形成を図っていくものとされている。

出典：「東京都景観計画」H30.8 83頁

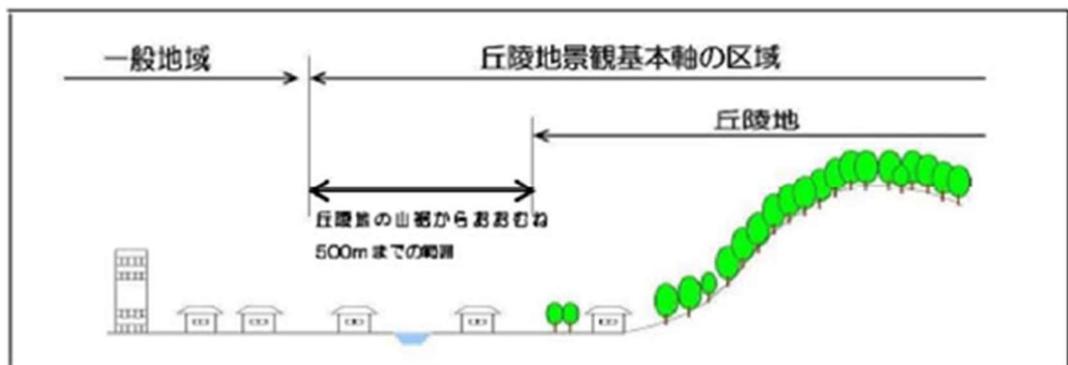
- 多摩広域拠点域の特徴

この地域は、多摩の山地から突き出た丘陵地とそれに続く台地で構成され、その間を多摩川、浅川などの中小河川が流れている。台地部の多くは市街化し、多様な機能が集積する立川や八王子などの拠点が賑わいを見せている。また、丘陵地においても開発が及んでいるが、丘陵を覆う雑木林、丘陵斜面に開かれた畑、谷底平野に並ぶ水田、丘陵の低地部に連なる古い集落などが一体となっている地域も多く残されており、緑豊かな景観が特徴的な地域である。

出典：「東京都景観計画」H30.8 23頁

- 丘陵地景観基本軸の景観形成の方針

- 1.丘陵地の緑の景観を保全し、東京の骨格的な景観を形成
- 2.丘陵地の緑に続く緑豊かな市街地の景観を形成
- 3.丘陵地の特性や歴史的・文化的資源を活かした景観の形成
- 4.地域のまちづくりと連携した景観の形成



図：丘陵地景観基本軸の位置

出典：「東京都景観計画」H30.8 82-84頁

1.5- 八王子市の関連計画

(1) 「都市づくりビジョン八王子」八王子市 都市計画部土地利用計画課（H27.3）

「都市づくりビジョン八王子」は、基本構想・基本計画「八王子ビジョン 2022」と東京都「多摩部 19 都市計画都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」に即して定められる、八王子市の都市計画に関する長期的な基本の方針である。この計画では、「目指すべき 20 年後の都市ビジョン」を示した上で、これを実現するための「都市づくりの基本的な方向性」を定めている。

出典：「都市づくりビジョン八王子」H27.3 1-4 頁

滝山公園が位置する、八王子市北部地域の都市づくりの基本的な方向性が示されている計画であり、整抜粋整理すると、次のとおりである。

① 北部地域の地域づくり方針

＜地域の将来像＞ 出典：「都市づくりビジョン八王子」H27.3 81 頁

- ・ 「緑豊かな自然環境と田園風景に抱かれた人々が集う潤いと賑わいが調和する交流と活力のあるまち」
- ・ 加住丘陵一帯に広がるみどり豊かな自然環境、まとまりのある農地の景観を守り、活しながら、交通環境のポテンシャルを活かして人々が集い、賑わいと活力のあるまちづくりを目指す。

② 自然環境

＜北部地域におけるみどり＞ 出典：「都市づくりビジョン八王子」H27.3 82 頁

- ・ 谷地川は、災害時の延焼遮断等の多面的な機能を有する水辺の軸と位置付け、自然環境を活かした市民が憩える親水空間として保全・活用を促進する。
- ・ 小宮公園や滝山公園は、多面的な機能を有するオープンスペース拠点として位置付け、市民が憩えるレクリエーションの場として整備・拡充・有効利用を促進する。

③ 交通

＜北部地域における交通の方針＞ 出典：「都市づくりビジョン八王子」H27.3 81-82 頁

- ・ 北部幹線道路の整備を図り、圏央道八王子西 IC を起点に、西部地域との拠点間・地域間連携と、市内へ流入する自動車交通の適切な分散・誘導を図る。
- ・ 公共交通では、路線バスの充実など、地域特性を考慮した多様な交通手段の最適な組み合わせによる移動しやすい環境づくりを地域の理解と協力を得ながら進める。

④ 景観

＜北部地域における都市景観の方針＞ 出典：「都市づくりビジョン八王子」H27.3 83 頁

- ・ 滝山公園では、多摩川方向への眺望の確保を図るとともに、季節感のある人々の憩いの場として、滝山城跡の歴史的環境の維持・保全とともに、周辺の自然環境と一体となった景観形成を図る。
- ・ 加住丘陵の穏やかで潤いが感じられる山並みや自然環境は、地域の貴重な景観資源として保全・活用を図る。

⑤ 水系・防災

＜北部地域における都市防災の方針＞ 出典：「都市づくりビジョン八王子」H27.3 83 頁

- ・ 谷地川の河川整備事業を促進するとともに、丹木・滝山地区を対策地区として浸水被害対策を進める。

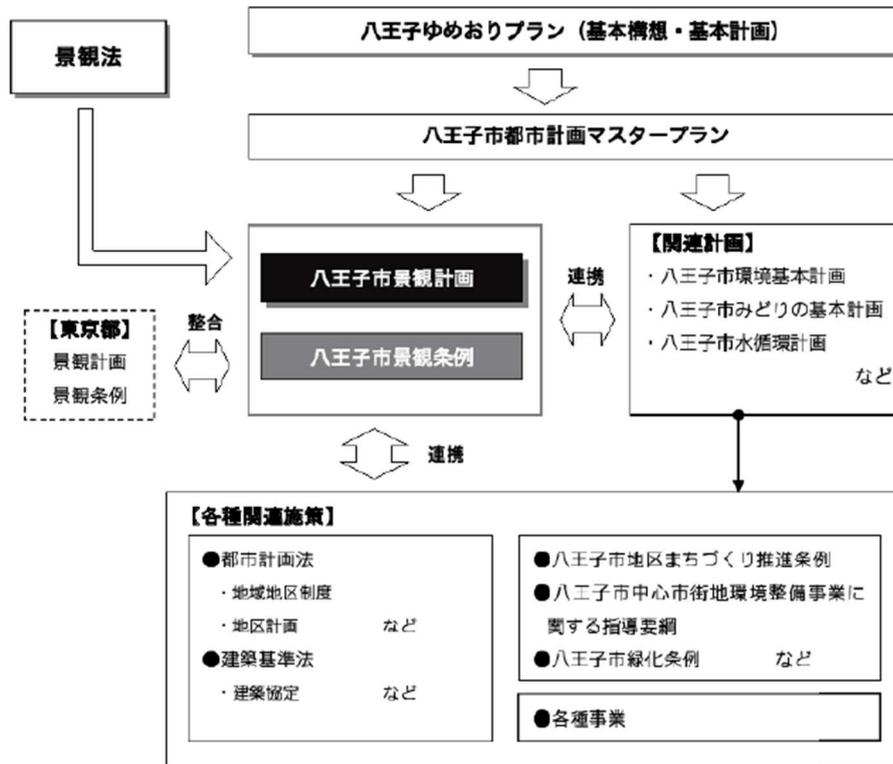
(2) 「八王子市景観計画」八王子市 まちなみ整備部まちなみ景観課（H30.9）

「八王子市景観計画」は、八王子らしい景観づくりを進めるために、八王子のまちづくりに関わる市民・事業者・市が協働により、持続的に都市の魅力づくりや良好な景観づくりに取り組んでいくための基本的な計画として、景観法第 8 条第 1 項に基づき策定されている。

出典：「八王子市景観計画」H30.9 3-4 頁

滝山公園については、丘陵景観と歴史的資源の保全を基本とし、観光資源となる景観形成を図るものとされている。

出典：「八王子市景観計画」H30.9 180 頁



図：八王子景観計画の位置付け 出典：「八王子市景観計画」H30.9 4 頁

- 景観に配慮した公共施設の整備

- ① 景観重要河川としての多摩川

「多摩川水系河川整備計画」等に基づき、河川や周辺環境が織りなす個性的な魅力づくりを意識した整備や、生態系に配慮した自然環境の保全・創出等を進め、多様な自然の表情を持つ多摩川らしい河川景観を形成する。

出典：「八王子市景観計画」H30.9 179 頁

- ② 景観重要都市公園としての滝山公園

滝山公園は、丘陵景観の保全と貴重な歴史的資源の保全を基本としつつ、観光資源となる景観の形成を図る。

出典：「八王子市景観計画」H30.9 180 頁

(4) 「第2次八王子市環境基本計画 改訂版」八王子市 環境部環境政策課 (H31.3)

「第2次八王子市環境基本計画」は、市民・事業者の自発的な環境保全活動と市の環境施策とを総合的かつ計画的に推進することにより、八王子の望ましい環境像の実現を目指すものである。この計画は、市が中心となって推進する「基本施策」と市民・事業者が市と協働して取り組む「協働プロジェクト」、市民・事業者が中心となって地域での環境保全に取り組む「地域の行動」で構成していることが特徴である。

出典：「第2次八王子市環境基本計画」H31.3 7頁

滝山公園周辺の北部地区のあるべき姿が次のように計画されている。

● 北部地区のあるべき姿

谷地川の豊かで清らかな水が流れ、川の周辺や加住丘陵では豊かなみどりが適正に管理され、水源涵養をはじめ、CO₂の吸収や四季折々の景観などが持続的に保全されるよう町会・自治会などの地区内の各種団体と連携が図られ、環境学習や美化活動が活発に取り組まれているまち。



図：北部区域内の環境現況マップ

出典：「第2次八王子市環境基本計画」H31.3 56-57頁

(5) 「八王子市歴史文化基本構想」八王子市教育委員会 (R2.1)

「八王子市歴史文化基本構想」では、これまで長い歴史の中で保存・継承されてきた文化財を適切に次世代へと継承するために、指定・未指定に関わらず、市内の文化財とそれに関わる周辺環境を含め、社会全体で総合的に保存・活用するための考え方や方針を示している。八王子市は、この基本構想によって市民の郷土愛の醸成や、地域の活性化やブランド化、産業交流都市の推進につなげていけるよう、文化財や関連文化財群の価値・魅力を市内外に広く積極的に発信することを目指している。

出典：「八王子市歴史文化基本構想」R2.1 3-4 頁を要約

国史跡・滝山城跡については、その保存・活用を図り、国史跡・滝山城跡の文化財としての魅力の向上や周辺の歴史文化資源と関連づけた情報発信に取り組むこととしている。

出典：「八王子市歴史文化基本構想」R2.1 222 頁

① 関連文化財群の活用と歴史文化保存活用区域の設定

八王子市では、文化財が集積している区域及びその周辺で、地域住民等による歴史文化資源の保存・活用の取組や、行政による観光まちづくりや景観形成、都市計画、地域振興などの既存の施策と結びつけて歴史文化資源の保存・活用に取り組む区域を、「歴史文化保存活用区域」として設定し、地域住民や団体と市の協働による取組を通じて、市の歴史を知り、体験する環境を整え、文化財の保存・活用を推進していく場となることを目指している。



図：八王子市の歴史文化保存活用区域図

② 高月・滝山城跡エリアにおける文化財の保存・活用の方向性

高月・滝山城跡エリアでは、国史跡・滝山城跡や高月の田園風景などの歴史文化資源を、市の景観計画との連動による文化的景観の形成や農業等の産業と関連づけて、その保存・活用に取り組むこととし、国史跡・滝山城跡の文化財としての魅力の向上や周辺の歴史文化資源と関連づけた情報発信に取り組むとともに、高月の沿道集落におけるまちづくりの活動と歴史文化資源の保存・活用を連動させていくものとしている。

出典：「八王子市歴史文化基本構想」R2.1 220-221 頁

(6) 「八王子市文化財保存活用地域計画」八王子市生涯学習スポーツ部文化財課 (R4.7)

「八王子市歴史文化基本構想」(R2.1) を実効的に発展させた計画が「八王子市文化財保存活用地域計画」であり、マスタープランとアクションプランの機能も併せ持つ。

本計画では、同構想における関連文化財群や基本理念・基本方針を継承し、文化財の保存・活用のための様々な取組を、取組時期・主体を明確にして、設定している。

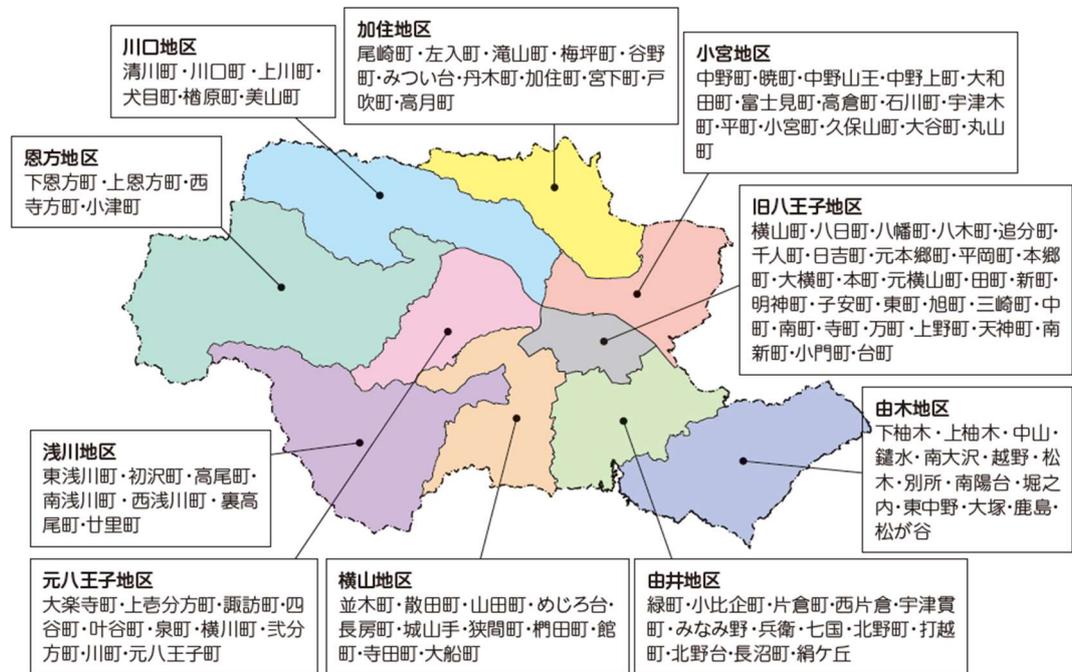
取組の実施を通し、継続性・一貫性のある総合的な文化財の保存・活用を実現するとともに、市民の郷土愛の醸成や地域の活性化・ブランド化、産業交流都市の推進につなげていくことを目指している。

出典：「八王子市文化財保存活用地域計画」R4.7 3-4 頁を要約

本計画の計画期間は、令和 4 年度 (2022 年度) から令和 12 年度 (2030 年度) までの 9 年間である。

① 地区の傾向

同計画は、八王子市域を 10 町村の「地区」で分け、地区ごとの傾向をまとめている。



滝山城址があるのは「加住地区」で、この地区の傾向は次の通りである。

- ・ 滝山城跡を中心として、それに関わる文化財が数多く所在
- ・ 高月の田園風景 (都内最大の田園) が所在

出典：「八王子市文化財保存活用地域計画」R4.7 80-81 頁を要約

② 地域の歴史文化を知るためのキーワード

同計画は、地区ごとに“地域の歴史文化を知るためのキーワード”をまとめている。滝山城跡のある「加住地区」のキーワードは次の4つ。

①加住の遺跡と遺物

- ・ 寺前遺跡の旧石器時代の石器、谷地川の上中流域の古代の鍛冶に関連する遺跡、櫛谷遺跡の住居跡と鉄塊・鉄製鏃・帯金具など多様な金属製品、南谷遺跡の斜面地を切り崩して屋敷が造られた中世の遺構

②中世城郭 滝山城

- ・ 加住北丘陵に築かれた滝山城は、全国でも有数の中世城郭です。自然の地形を利用して堀や土塁などが計画的に配置され、防御性を高めていることがよくわかります。近くには大石氏が築城したと伝わる高月城跡もあります。滝山城の南には東西に滝山街道が通り、道筋に滝山城下が形成され、横山・八日市・八幡宿の地名が伝えられています。鎌倉道といわれる南北をつなぐ道筋の存在も伝わっており、戦国時代には滝山城を中核として交通の要衝となっていたことがわかります。滝山城跡の東には北条氏照開基の少林寺があります。滝山城跡は現在、都立滝山公園となり都内有数の桜の名所になっています。

③加住の信仰と伝統文化

- ・ 梅坪町：戦国時代から舞われてきたとされる「梅坪の彫ささら獅子舞」（昭和44年（1969年）休止）
- ・ 加住町 龍源寺：室町時代に建てられた「龍源寺の文安の板碑」。豊作を祝って月を祀る月待（つきまち）供養の際に建てられた板碑。
- ・ 高月町滝地区：伝統行事「福の神」子どもたちが、背中に正月飾りを背負い、福俵を持って家々を訪れ、家に福の神が入り貧乏神を追い出すうたを唄う。
- ・ 宮下町：重松流を伝承している囃子連があり、滝山城跡桜まつりや若松神社の祭礼などで演奏される。

④加住の生業

- ・ 良質な水環境に恵まれた高月町には都内最大の田園が広がり、八王子の米所となっている。
- ・ 米・野菜・果物・花き・畜産・しいたけなどとの複合経営が特徴の農業。
- ・ 東京の地域特産豚肉「TOKYO X（東京エックス）」の生産。アイガモを利用した稲作、八王子ショウガ、パッションフルーツの栽培。
- ・ 高月町の樹齢400年と推定される「高月のクワ」。
- ・ 高月町の伝統工芸品「多摩織」、加住町の養蚕農家による繭の生産・出荷。

出典：「八王子市文化財保存活用地域計画」R4.7 94-96 頁を要約

③ 歴史文化の特徴

同計画は、各地区のキーワードの共通性を整理して、10個の「歴史文化の特徴」を抽出している。「加住地区」のキーワード「中世城郭 滝山城」は、以下2つの「歴史文化の特徴」の構成要素になっている。

・東西南北いにしえの道

- ・ 中世には鎌倉、小田原、甲州などへ続く道が成立、近世以降は織物の一大集散地として八王子宿が甲州道中最大の宿駅に発展。さらに開港地横浜へとつながり、いにしえから現在まで交通の要衝となっている。
- ・ (キーワード) 甲州街道の宿場町・多摩川の渡し場・中世城郭 滝山城・南北の交通の要衝・東西南北の交通の要衝

・中世の武士たちと「まちづくり」の礎

- ・ 中世城郭が市内各地に成立、それを拠点に集落・道が形成される。氏照の支配下で滝山城・八王子城に城下町がつけられ、市も開かれるなど、人が集まりまちを形成する基盤となった。
- ・ (キーワード) 北条氏照と八王子城・大石氏と浄福寺城・中世城郭 滝山城・南北の交通の要衝

出典：「八王子市文化財保存活用地域計画」R4.7 103-105 頁を要約

④ 関連文化財群「はちおうじ物語」

同計画は、「歴史文化の特徴」をわかりやすく市民に伝え、文化財の保存・活用につなげていくため、歴史文化の特徴を構成する個々の文化財をその周辺環境を含め一体的に捉えた「関連文化財群」を設定している。市民にも親しみやすいものとするため、関連文化財群を「はちおうじ物語」と名付けている。前述の「歴史文化の特徴」をテーマとして、10個の物語とし、さらに令和2年度(2020年度)に日本遺産に認定された「霊気満山 高尾山～人々の祈りが紡ぐ桑都物語～」を加え、11個の「はちおうじ物語」を設定している。滝山城跡は、以下のはちおうじ物語の構成文化財となっている。

- ・ 其の一 『霊気満山 高尾山 ～人々の祈りが紡ぐ桑都物語～』

ストーリー概要	戦国時代に関東を治めた北条氏の名将・北条氏照が八王子に居城を築いたことから始まり、霊山・高尾山への人々の祈りが、この地に生まれた豊かな文化を未来へと紡いでいく物語
課題	ストーリーや構成文化財の観光・まちづくり等での活用 多様な主体が参画したストーリー・構成文化財の活用
方針	日本遺産認定のブランドを活用した多方面でのストーリーや構成文化財に関する事業の推進 日本遺産「桑都物語」推進協議会によるストーリーや構成文化財に関する事業の活発な展開

・ 其の四 『中世の武士たちと「まちづくり」の礎』

ストーリー概要	八王子は江戸時代以降、多摩地域における代表的な商業都市として発展してきた。その発展の礎は、中世以降に八王子で活躍した武士たちによって築かれたといえる。武士たちが覇権を争った戦乱の中で、八王子のまちづくりの礎として残したものを探る。
課題	大石氏や北条氏等、中世に八王子市域で活躍した武士に関する歴史の研究 八王子城跡などの史跡やその周辺に所在する関連文化財の一体的な理解や見学の促進
方針	八王子城跡をはじめとする中世城跡の発掘調査や古文書等の中世に関する歴史資料の調査・研究の推進 八王子城跡などの中世の史跡やその周辺の関連文化財を周遊できるマップ等の作成

出典：「八王子市文化財保存活用地域計画」R4.7 205-212 頁を要約

⑤ 歴史文化保存活用ゾーンと文化財保存活用区域

文化財の保存・活用に取り組むため、歴史文化のまとまりを踏まえて「歴史文化保存活用ゾーン」を設定している。歴史文化保存活用ゾーンが目指すことは、地域住民・団体と市の協働によって、市の歴史を知り、体験する環境を整え、文化財の保存・活用を推進していく場となることである。範囲に明確な境界線はなく、各ゾーンの文化財の保存・活用の成果が、他のゾーンの文化財の保存・活用に関係していくような展開も望ましいと考えられる。

さらに、歴史文化保存活用ゾーンのうち、文化財の集積している区域で、まとまりをもったテーマのもと文化財の保存・活用が見込める区域について、「文化財保存活用区域」として設定を行う。文化財保存活用区域については、課題と方針を明らかにして、区域として必要な取組を行う。なお、滝山城跡は文化財保存活用区域に含まれていない。八王子城跡の国史跡の指定範囲が文化財保存活用区域に設定されている。

滝山城跡のある高月・滝山城跡ゾーンは、下記のように文化財の保存・活用の方向性を定めている。

- ・ 国史跡・滝山城跡や高月の田園風景などの文化財を、本市景観計画との連動による文化的景観の形成や農業等の産業と関連づけて、その保存・活用に取り組む区域です。
- ・ 国史跡・滝山城跡の文化財としての魅力の向上や周辺の文化財と関連づけた情報発信に取り組むとともに、高月の沿道集落におけるまちづくりの活動と文化財の保存・活用を連動させていきます。

出典：「八王子市文化財保存活用地域計画」R4.7 213 頁を要約

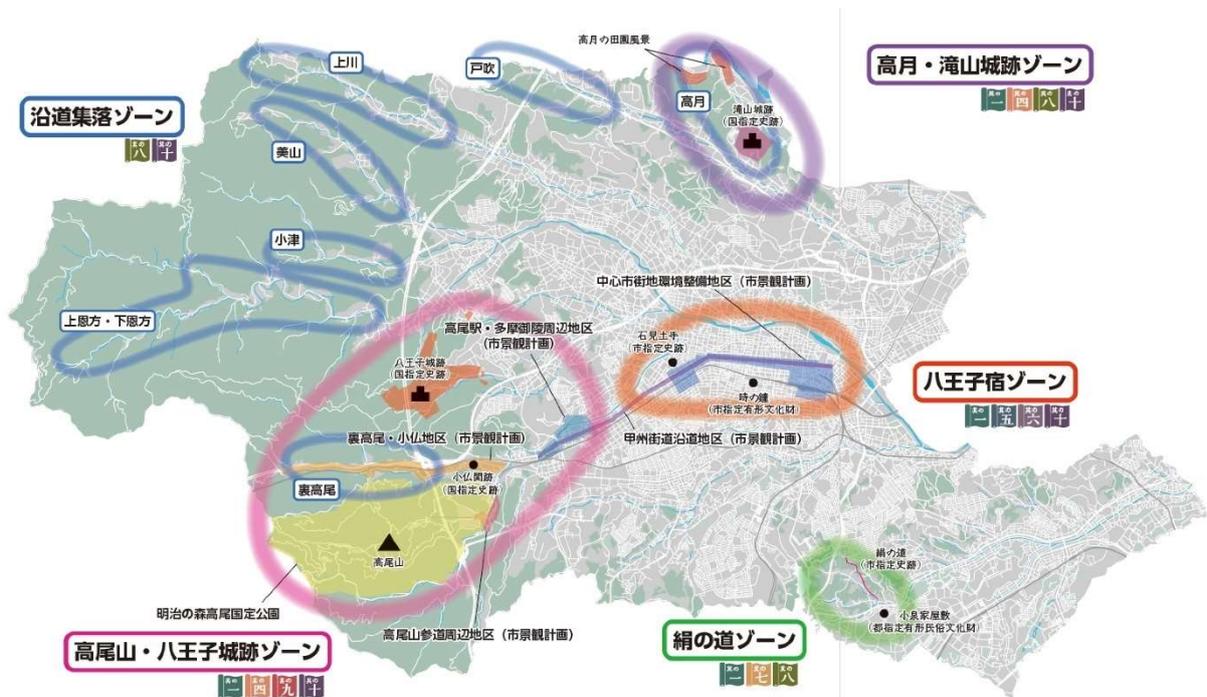


図 出典：「八王子市文化財保存活用地域計画」R4.7 213-214 頁

⑥ 文化財の保存・活用の方針

基本理念は下記の通り。

わたしたちが守り育てるみんなのふるさと八王子
～「知と技」を伝える歴史文化を未来へ～

- ・ 八王子市民が地元の歴史や文化を知り、誇りや愛着をもち、守り、未来に受け継いでいくことを目指している。

出典：「八王子市文化財保存活用地域計画」R4.7 221 頁を要約

文化財の保存・活用の基本目標・基本方針は下記の通り。

	課題	基本方針
1	把握に関する課題	文化財の継続的な調査・研究
2	保存・管理の状況に関する課題	文化財の適切な保存・管理
3	担い手に関する課題	文化財の担い手の育成・支援
4	普及・啓発・活用に関する課題	文化財の普及・啓発・活用
5	まちづくりへの活用に関する課題	文化財を活用したまちづくりの推進

出典：「八王子市文化財保存活用地域計画」R4.7 234 頁を要約

⑦ 文化財の保存・活用の取組

文化財の適切な保存・管理のため、保存活用計画の策定が推進されている。

滝山城跡は、令和 4 年から令和 12 年の間、保存活用計画や整備計画の作成が推進されている。

出典：「八王子市文化財保存活用地域計画」R4.7 247 頁を要約

2章の資料

2.1.3 人口の詳細

(1) 人口の推移

八王子市とその周辺市町村における令和5年4月現在の世帯数及び人口は下表の通りである。

表：八王子市及びその周辺市町村の世帯数、人口

(出典：住民基本台帳(令和5年4月現在))

	世帯	人口(人)
八王子市	281,232	561,894
昭島市	56,423	114,279
町田市	206,128	431,018
日野市	92,822	187,180
福生市	30,350	56,055
多摩市	74,760	148,107
あきる野市	36,877	79,648
檜原村	1,127	2,038
相模原市	352,444	717,811

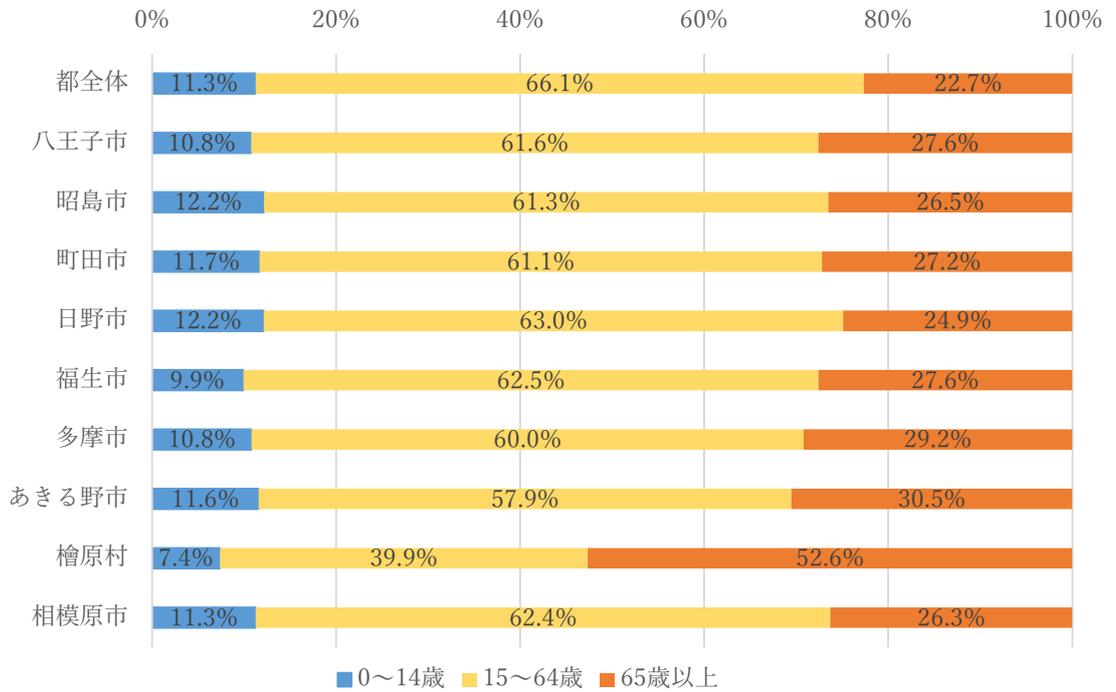


図：八王子市及びその周辺市町村の総人口の推移

出典：東京都の統計データ(昭和31年～令和3年)、「相模原市令和2年版統計書」

(2) 年齢別構成

令和5年で人口年齢3区分による人口構成をみると、八王子市と都全体における0～14歳（年少人口）の比率は同じ割合だが、65歳以上（高齢者人口）は八王子市の方が、その割合が高くなっている。



図：八王子市及びその周辺市町村と都全体の年齢3区分による人口構成比率

出典：住民基本台帳(令和5年1月現在)

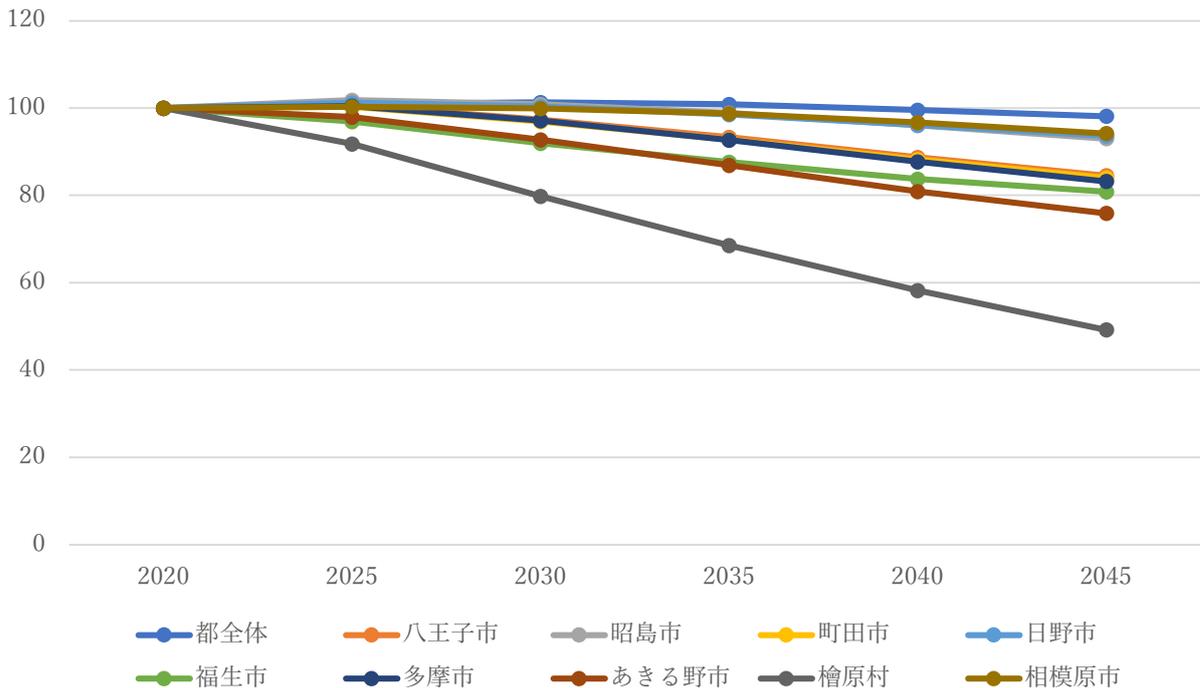
(3) 将来人口予測

八王子市と都全体の将来人口予測（下表）を比較してみると、都全体の人口は2030年をピークに減少に転じるとされているのに対し、八王子市は2025年以降人口が減少していくと予測されている。

	2020	2025	2030	2035	2040	2045
都全体	14,047,594	14,184,099	14,236,333	14,169,123	13,982,728	13,785,944
八王子市	579,355	583,358	564,140	540,582	513,903	489,887
昭島市	113,949	116,024	114,947	112,680	109,464	106,009
町田市	431,079	432,580	417,749	399,708	380,306	362,185
日野市	190,435	192,857	191,101	187,658	183,011	178,318
福生市	56,414	54,667	51,852	49,423	47,245	45,615
多摩市	146,951	147,642	142,705	136,206	128,936	122,319
あきる野市	79,292	77,677	73,545	68,888	64,138	60,192
檜原村	2,003	1,839	1,599	1,373	1,167	986
相模原市	725,493	728,042	725,087	716,342	701,773	683,343

表 八王子市及びその周辺市町村と都全体の将来人口予測

出典：将来の区市町村、男女、年齢（5歳階級）別人口—東京都の統計（令和5年3月）、
令和2年国勢調査に基づく相模原市の将来人口推計（令和5年）



図：八王子市及びその周辺市町村と都全体の将来人口予測（2020年を100とした指数）

出典：将来の区市町村、男女、年齢（5歳階級）別人口—東京都の統計（令和5年3月）、
令和2年国勢調査に基づく相模原市の将来人口推計（令和5年）

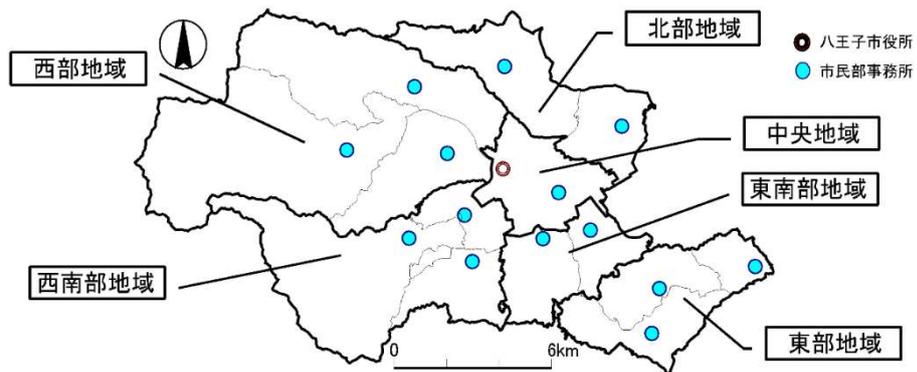
(4) 八王子市の地域別人口構造、将来人口推移

八王子市の中央地域、北部地域、西部地域、西南部地域、東南部地域、東部地域の6つの地域に区分される。それぞれの地域における令和2年の世帯数及び人口は下表の通りである。

表 八王子市の地域別の世帯数、人口

(出典：出典：「統計八王子(令和4年版)」)

	世帯数	人口(人)
中央地域	70,524	128,135
北部地域	23,385	46,335
西部地域	46,092	95,262
西南部地域	49,169	98,291
東南部地域	38,854	82,474
東部地域	51,603	111,648
八王子市全体	279,627	562,145



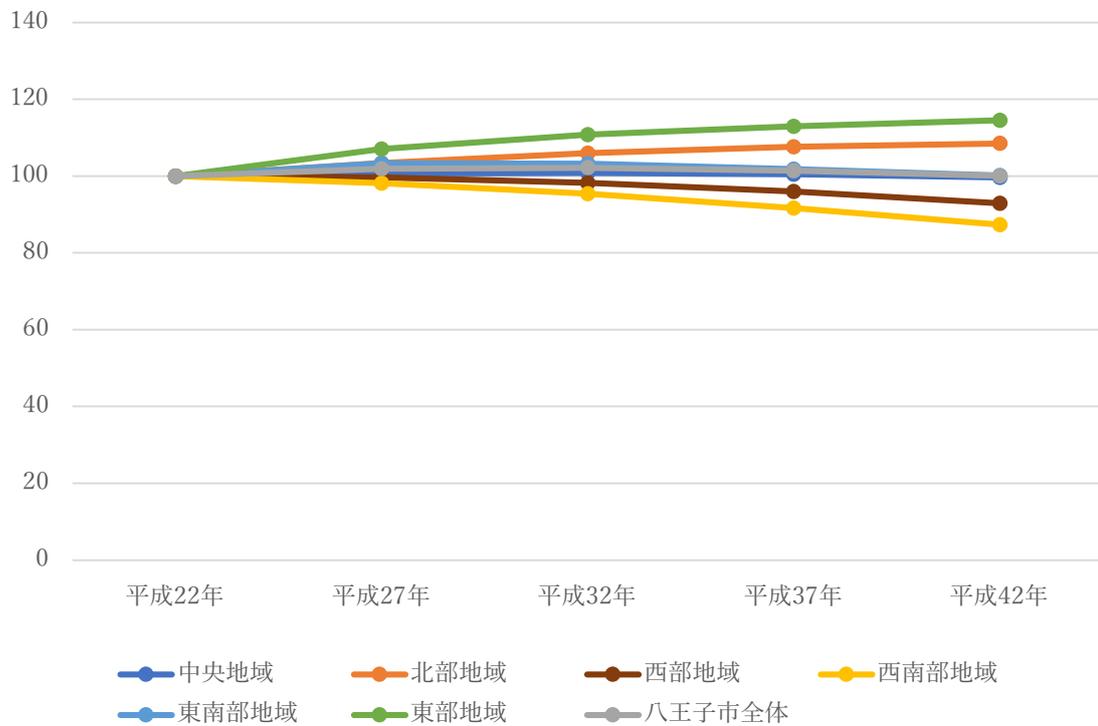
図：八王子市の6地域（出典：八王子市 Web サイト）

また、八王子市の地域別の将来人口予測は以下の通りである。

表：八王子市地域別の将来人口予測

(出典：住民基本台帳(令和3年1月現在))

	平成22年	平成27年	平成32年	平成37年	平成42年
中央地域	126,783	127,572	127,850	127,365	126,311
北部地域	49,073	50,731	51,996	52,814	53,248
西部地域	100,702	100,295	98,933	96,643	93,585
西南部地域	105,223	103,284	100,344	96,396	91,881
東南部地域	81,822	84,560	84,457	83,319	81,925
東部地域	116,450	124,659	129,035	131,519	133,394
八王子市全体	580,053	591,101	592,615	588,056	580,344



図：八王子市地域別の将来人口予測（平成22年を100とした指数）

出典：「都市づくりビジョン八王子」

2.1.5 観光の詳細

(1) 滝山公園の景観ポイント

公園利用者から日常的に親しまれている重要な景観ポイントについて、「桜まつり」(平成31年4月6日開催)でのイベントとして人気投票が催された。172票の投票から選ばれた滝山公園の景観(「みんなで選んだ滝山公園 10景!」)は以下のとおりである。

第1位 中の丸址からの眺望	第6位 本丸跡からの眺望
第2位 引橋	第7位 霞神社
第3位 大池址の桜	第8位 古峯が原(こぶがはら)のヤマツツジ
第4位 千畳敷址	第9位 中の丸址
第5位 山の神曲輪からの眺望	第10位 石畳の道

その他には、<古峰の道沿いのススキ><二の丸址南の空堀><信濃屋敷の紅葉><信濃屋敷からの眺望><金毘羅社><三の丸跡西の黄葉>なども選ばれている。

みんなで選んだ滝山公園十景!

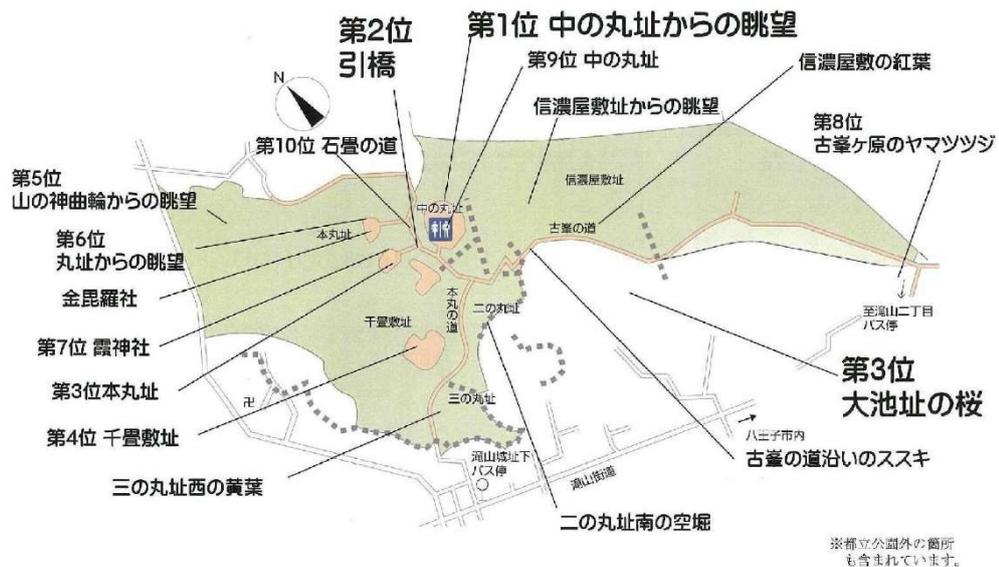


図 みんなで選んだ滝山公園 10景

第1位 中の丸址からの眺望



第2位 引橋



第 3 位 大池址の桜



第 4 位 千畳敷址



第 5 位 山の神曲輪からの眺望



第 6 位 本丸跡からの眺望



第 7 位 霞神社



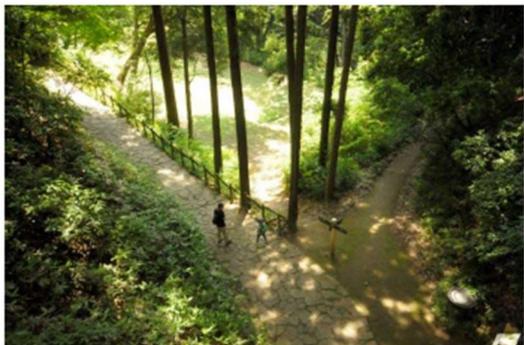
第 8 位 古峯が原（こぶがはら）のヤマツツジ



第 9 位 中の丸址



第 10 位 石畳の道



出典：「多摩部の公園十景報告書」みんなで選んだ滝山公園 10 景

(2) ご当地キャラクター

たき坊（たきぼう）は、東京都八王子市のご当地キャラクターで、八王子観光 PR 特使も務めている。

東日本大震災（2011 年）や、そごう八王子店閉店（2012 年）など、八王子を取り巻く暗い話題を払拭しようと、八王子市滝山町の寺院・少林寺の副住職が中心となり「八王子のゆるキャラを作ろう会」が結成され、そこから生み出されたいはずが大好きなタヌキのキャラクターである。仲間に短気でツンデレな女の子「この姫」と、たき坊の師匠でお寺の住職「おしょさん」がいる。



名 前：たき坊(たきぼう)

性 別：男の子

出身地：八王子の滝山

名 前：この姫(このひめ)

性 別：女の子

出身地：八王子

名 前：おしょさん

性 別：おじいちゃん

出身地：八王子

©たき坊楽市

引用：<http://takibou.jp/pages/chara.html>

2.2.5 気候の詳細

計画地の気温、降水量などの気象特性について、都心部との比較により特徴を整理すると、次のとおりである。

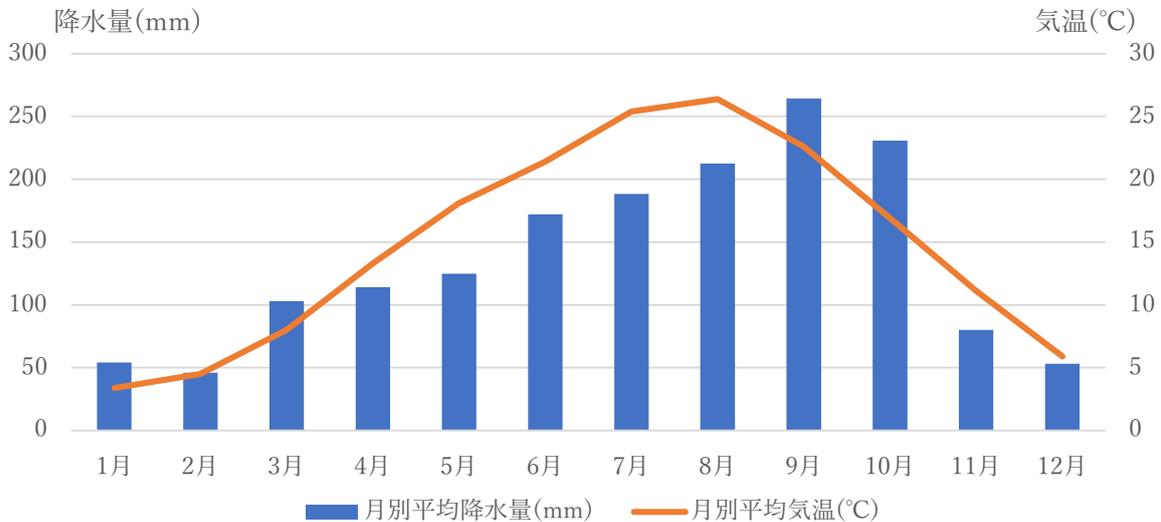
(1) 気温、降水量

① 計画地周辺の月別平均気温、月別平均降水量

計画地周辺(八王子観測所データ)の過去30年間の月別平均気温(1991-2020年)をみると、最も高いのが8月で26.4℃、最も低いのが1月で3.4℃となっている。

表：八王子市の過去30年間の月別平均気温、月別平均降水量（出典：気象庁気象データ）

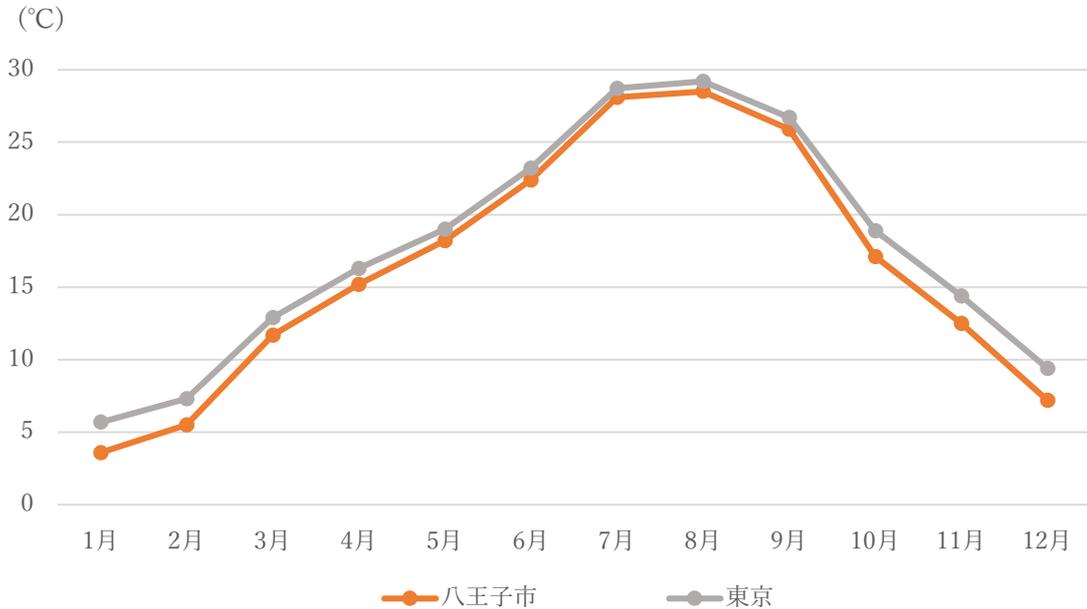
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年平均気温	年間降水量
月別平均降水量(mm)	54.1	46.1	102.9	114.1	124.7	172.0	188.3	212.5	264.4	230.8	80.1	53.1	—	1643.0
月別平均気温(℃)	3.4	4.5	8.0	13.3	18.1	21.4	25.4	26.4	22.6	16.9	11.1	5.9	14.7	—



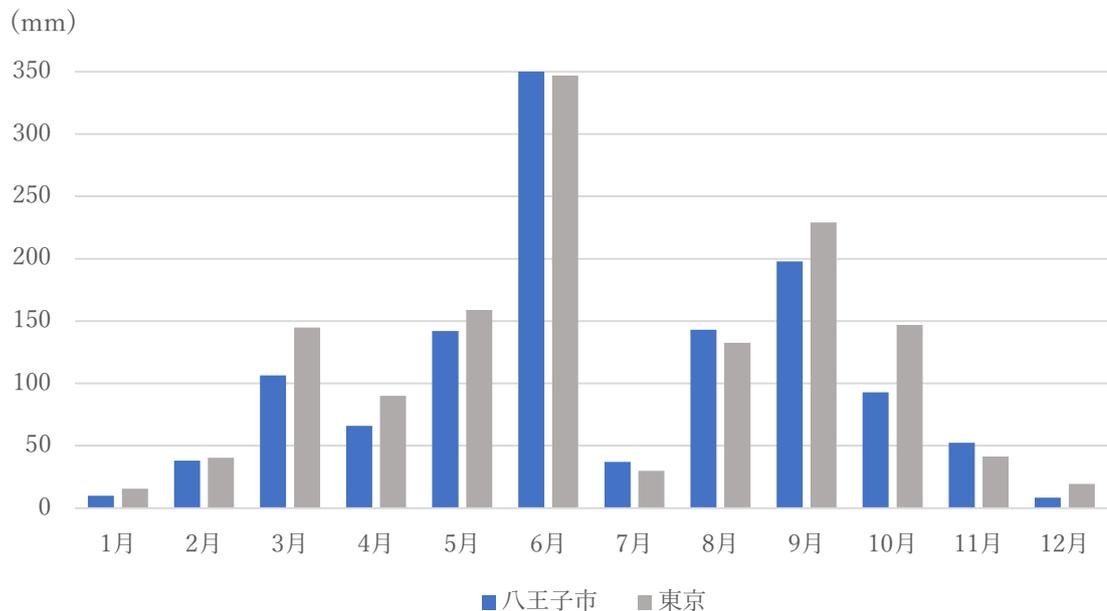
図：過去30年間の月別平均気温、月別平均降水量（出典：気象庁気象データ）

② 2020年の計画地周辺の気温、降水量の都心との比較

計画地周辺(八王子)の気温と都心(東京)の気温を比較すると、計画地周辺の気温は、ほぼ同じ値で推移しているが、冬期の気温は都心に比べて1~2℃低くなる。降水量も、ほぼ同じ値、もしくは都心の降水量よりも少ない傾向にあるが、6~8月、11月に都心の降水量を上回っている。



図：八王子市と都心の月別平均気温の推移（出典：気象庁気象データ）

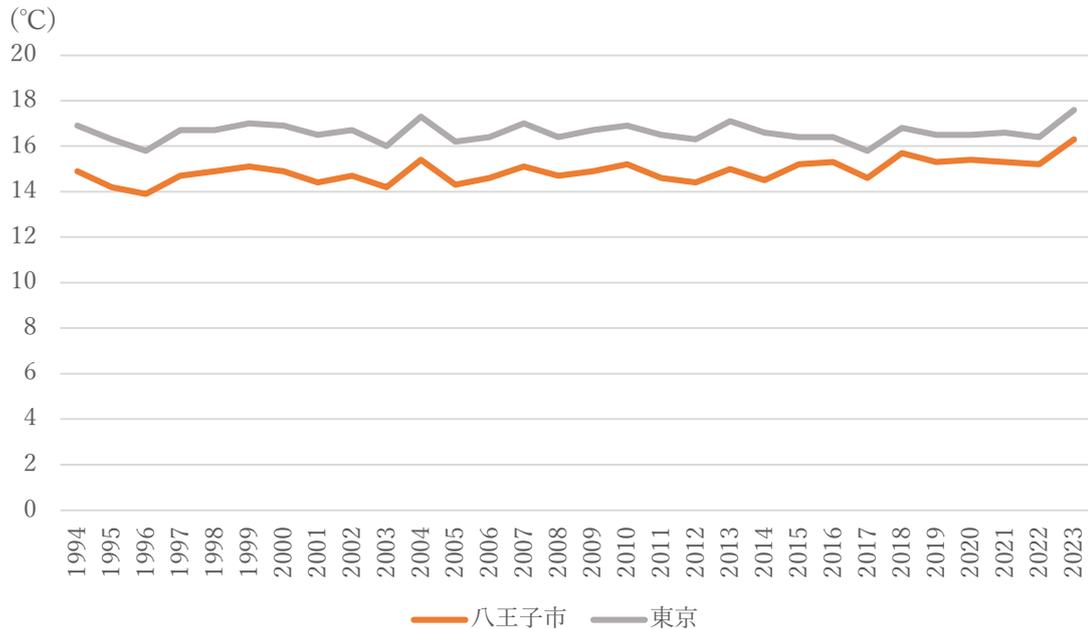


図：八王子市と都心の月別平均降水量の推移（出典：気象庁気象データ）

(2) 過去約 30 年のデータによる気温、降水量の変化

① 年平均気温の変化

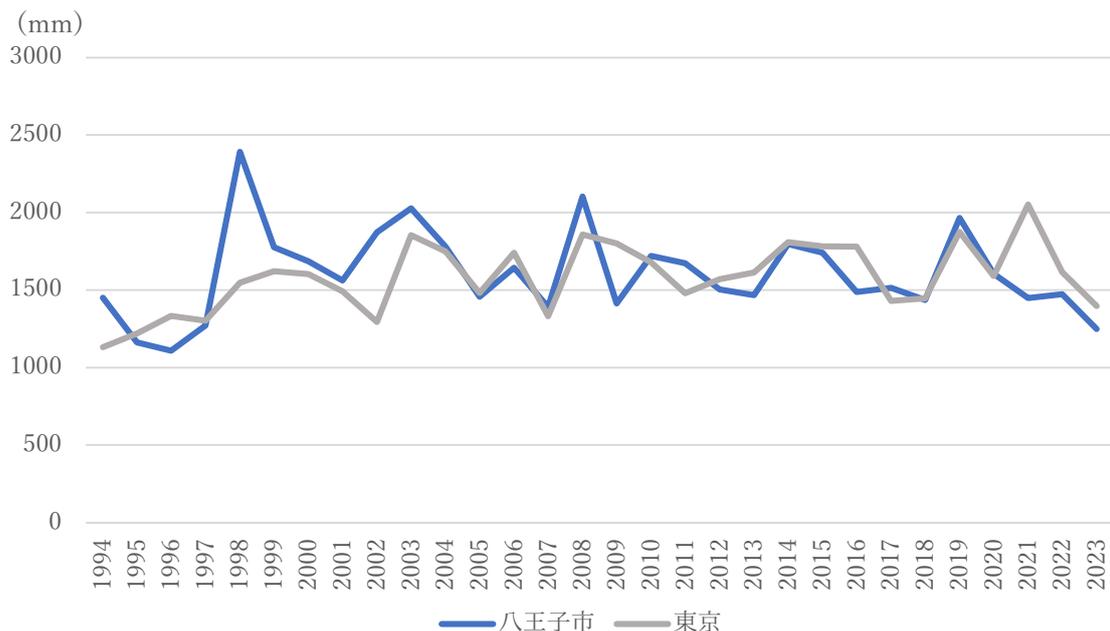
過去約 30 年の年平均気温は、都心より平均気温で 2℃弱下回って推移しているが、2016 年頃から 1℃差になり、気温は上昇傾向にあるとともに、都心との差が小さくなっている傾向にある。



図：過去約 30 年の年平均気温の変化（出典：気象庁気象データ）

② 年間降水量の変化

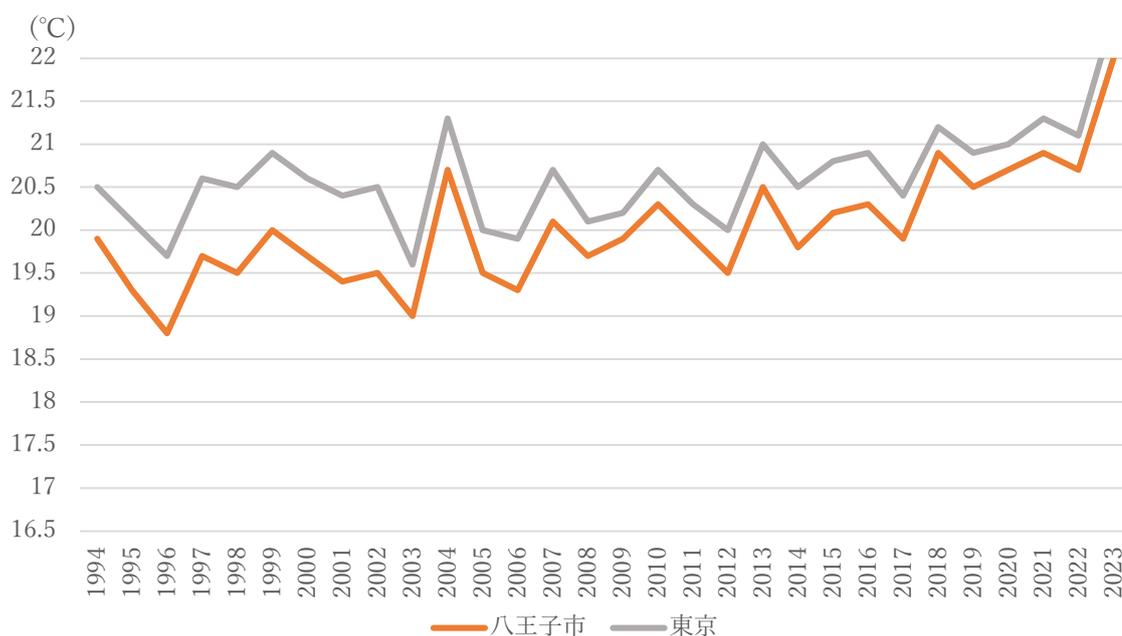
過去約 30 年の年間降水量は、全体的に都心との大きな違いは見られないが、1998 年は都心を大きく上回って多くなっている。東京管区気象台のホームページによると、1998 年 9 月中旬に八王子市付近を通過した台風第 5 号が発生した記録が記されていることから、1998 年の大きな差異は台風第 5 号が影響していると考えられる。



図：過去約 30 年の年間降水量の変化（出典：気象庁気象データ）

③ 1994～2023 年の日最高気温の変化

計画地周辺の日最高気温の変化をしてみると、2004 年より 20℃を頻繁に超えるようになり、日最高気温は、都心と同様に、上昇傾向を示している。



図：過去約 30 年の日最高気温の変化（出典：気象庁気象データ）

以上のように計画地周辺は、都心とともに、年平均気温、日最高気温が、この過去 30 年で上昇傾向を示している。降水量についても、台風の状況により各年の変動は大きいですが、都心部とともに、全体的に上昇傾向を示している。

気温、降水量の上昇は、地球規模の気候変動による温暖化、都市のヒートアイランド現象などの要因によるものと指摘されているが、今後の整備計画においては、夏場の高温に対する対策、および集中豪雨等に対する対策などに配慮する必要がある。

5章の資料

5.1 保存・管理の現状と課題 の補足資料

(1) 遺構調査の実施記録

滝山城跡を含む滝山公園において、昭和57年度（1982）以降に実施された調査を整理すると下表である。滝山城跡の調査の機会は限られており、いまだ史跡の全容解明には至っていない。

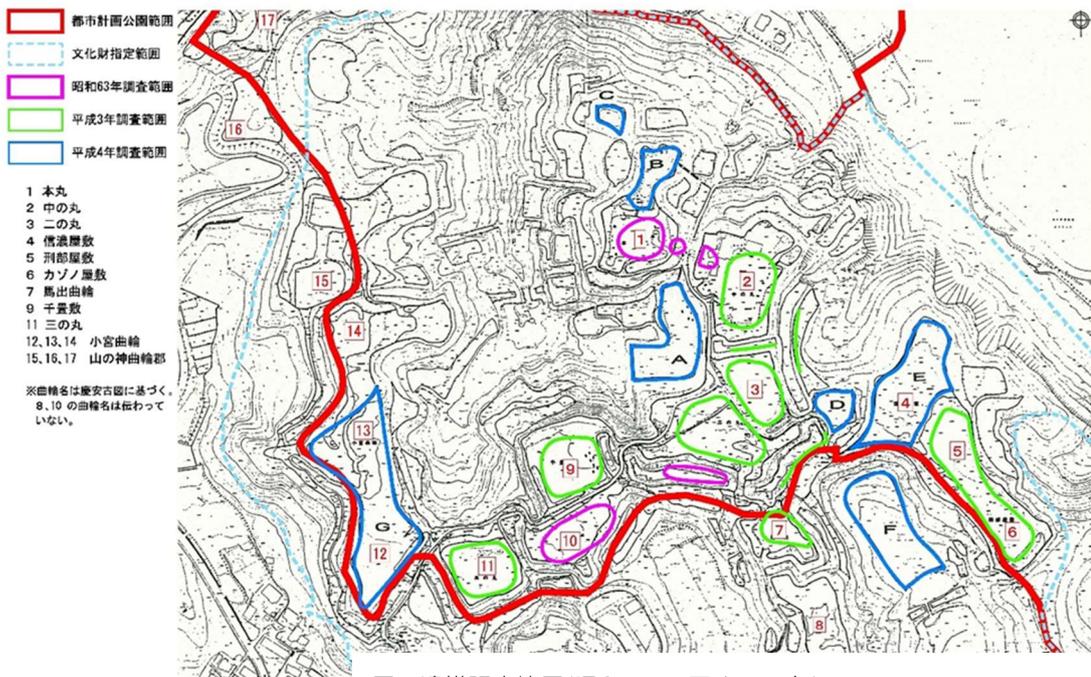
遺構調査に関わる資料は、「八王子市埋蔵文化財年報」「八王子城跡Ⅴ～Ⅷ」（ともに八王子市教育委員会）とともに、各遺構調査委託報告書（東京都西部公園緑地事務所）にて掲載されている。

表 主な遺構調査の実施記録

昭和57年度（1982）	「千畳敷」など2地点での試掘調査の実施
昭和58年度（1983）	「本丸」と「中の丸」を結ぶ引橋の架け換え工事に伴って、橋台・橋脚等の遺構確認を目的とした調査の実施
昭和59年度（1984）	「中の丸」への水道管理設工事・防火用貯水槽設置工事に伴う遺構の確認調査の実施
昭和63年度（1988）※	自然公園内における史跡整備保存に有用な基礎的資料を得るため、遺構を大きく破壊することなく遺構の概要を把握するための遺構調査（地下レーダー探査）。（次図の範囲で実施）
平成3年度（1991）※	
平成4年度（1992）※	
平成7年（1995）	「中の丸」にある便所改築工事に伴う遺構の確認調査の実施
平成8年（1996）	史跡整備に向けた本丸虎口における遺構確認の調査の実施

出典：『新八王子市史（資料編2 中世）』p.799 に※を加筆

以下は、地下レーダー探査の調査範囲図である。



図：遺構調査範囲(昭和63、平成3.4年)

出典：「滝山公園遺構調査委託報告書（その2）（その3）」に加筆

(2) 地点ごとの遺構調査の概要

① 中の丸南方の曲輪

昭和57年度(1982)に「本丸」「中の丸」「二の丸」に囲まれた、一段下位の平坦地の試掘調査が行われ、溝状遺構が検出されている。遺物は青磁碗のほか、卵大の鉄滓二点、韃の羽口が出土している。

② 千畳敷

通称「千畳敷」は、50×50mの台形を呈する平坦面である。昭和57年度(1982)、2×4mの試掘坑を20箇所設定し、その結果、全体に表土は浅く、30cm前後でローム層に達することが確認されている。このうち16箇所の試掘坑から、掘立建物跡の柱穴が確認されたと報告されている。しかし、その後の踏査で、直径80～120cmの、柱穴状の落ち込みの大半が、加住丘陵の関東ローム層に特徴的にみられる「穴あきローム」という自然な落ち込み穴であることが確認されたため、これらが全て人為的に掘られたものかどうかは再検討が必要である。ここからは、焼土に伴って、茶入れと思われる鉄釉陶器の破片が出土している。

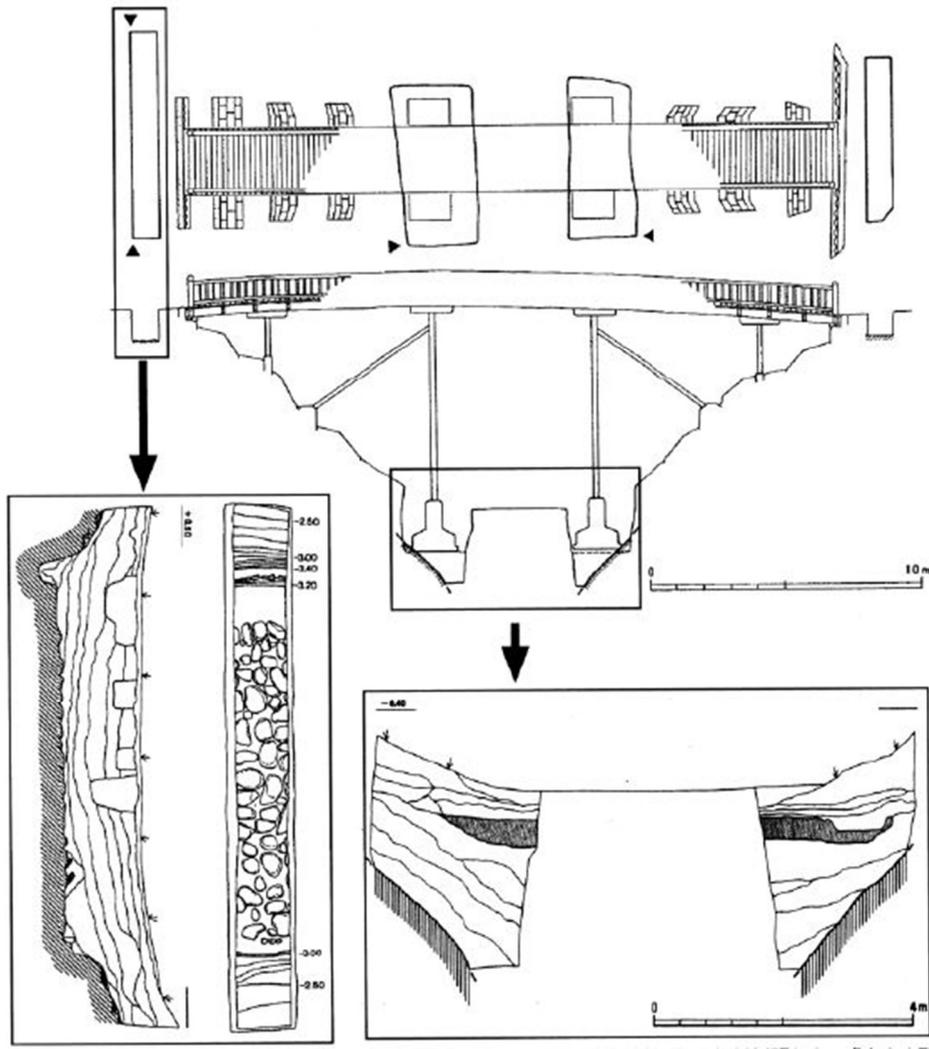
③ 引橋地点

昭和58年度(1983)に、既存の橋脚の基礎部分と、「本丸」「中の丸」両側の橋台部分が発掘されている。橋脚基礎部分の壁の観察では、ローム層の地山を彫り込んだ空堀が確認された。この空堀の傾斜は約50度と急で、堀底まではさらに相当の深さが予想された。「本丸」と「中の丸」との間は、人工的に掘り切られたものと判断できそうである。

橋台部分については、本丸側地表下110cmで敷石の通路が確認された。その後の本丸虎口の意向確認調査の結果、石敷き通路の全容が明らかになっている(後述)。

「中の丸」側では、地表下50～80cmでローム層を固めた遺構面が検出された。遺物は少なく、「本丸」側の橋台部でかわらけの破片と釘2点、橋脚基礎部分で陶器の破片が出土したにすぎない。

出典：『新八王子市史(資料編2中世)』p.800-802



引橋架けかえ工事に伴う確認調査

出典：『新八王子市史（資料編2中世）』p.800-802

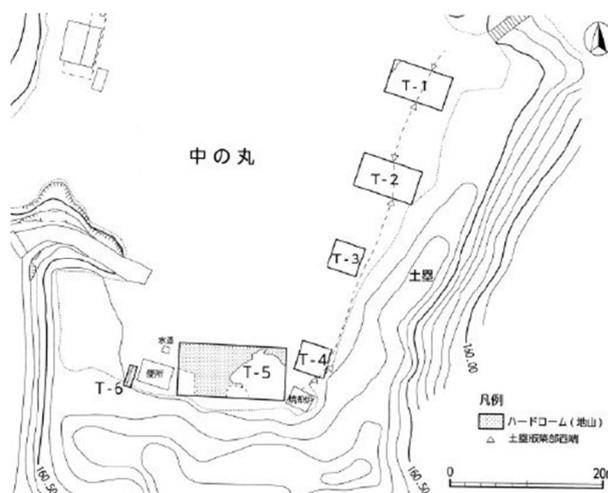
④ 中の丸

昭和59年度（1984）に、「中の丸」中央部と南方土塁の真北付近が試掘されている。「中の丸」中央部に設定された試掘坑からは、多数の柱穴が確認されているが、これも「穴あきローム」の可能性を否定できない。この試掘坑からは、直径23mmの土玉が出土している。南方土塁の真北では1.6×1.5mの範囲にローム層を固めた土間状遺構が検出され、攪乱坑からは鉛製の鉄砲玉、灰釉陶器の壺の破片が出土している。

平成7年度（1995）には、「中の丸」の東辺と南辺に沿うように、六つの試掘坑が設けられている。この調査により、「中の丸」はローム層を削平し、急激に落ち込む丘陵の端部ではローム層・ローム層と黒褐色土の混土層・黒褐色土で盛土し、平坦面を造り出していることが判明した。また、第1・2・4試掘坑では、版築された土層の痕跡から、土塁の西側の裾が推定されている。南側土塁の真北に設定された第5試掘坑では、硬化面上に焼土跡が2箇所確認されたほか、地山のローム層を削平した面が検出され、そこから柱穴状あるいは土坑状の落ち込みが15基確認されている。このうちの数基を精査した結果、堆積土は非常に締まり、粘性が強いこと、そして平面形、断面形も不整形を呈しており、人為的なものではないと判断された。これが先述した「穴あきローム」で、これを契機に過去の調査所見が見直されることとなった。ちなみに、加住丘陵内の別地点の切り通しでは、ローム層中に長さ2～3mもの連続した穴あきロームが観察できる。「穴あきローム」は、加住丘陵周辺ではよく見られる現象と言える。

遺物は調査面積に比して少なく、わずかに第一トレンチから常滑窯の甕胴部破片、第5トレンチから鉄釉天目茶碗や小皿の破片が出土したにすぎない。

出典：『新八王子市史（資料編2中世）』p.801-804



中の丸確認調査試掘坑位置図



盛土が確認できる第4試掘坑

⑤ 本丸虎口

「本丸」虎口は、「本丸」に向かって三方が土塁に囲まれた枡形虎口を呈している。ここでは、全面が石敷きされた通路が発掘されている。石敷き通路の検出は、引橋側では現地表より約 1.2m 下であったが、「本丸」に近づくにつれ次第に浅くなり、「本丸」平坦部ではわずか 5cm の深さであった。

石敷き通路の全体構造は次の通りである。引橋を渡った地点では、約 5.4m の幅があり、三段の段差を経て 11.7m 直進する。ここで右に屈曲すると、3m に幅員を減じており、傾斜しながら 8.7m 進むと、3.2×2.4m の踊り場があり、さらに左に折れる。ここから五段の階段を登りながら 10.8m 続き、本丸平坦部に至る。この間、通路幅はいったん約 2m と狭くなるが、その先では再び 3m となっている。

この石敷き通路には排水溝が設けられている。引橋を渡った地点では通路の左側に沿っているが、右へ屈曲する部分から暗渠となって土塁の中に潜っている。通路が左へ屈曲すると再び暗渠から出て、石敷きを横断して通路右側の側溝となっている。

なお、通路や側溝に使用された礫は加工されておらず、この付近の多摩川から採集された河原石と推定される。

また、石敷き通路が右に屈曲する部分から、大小の礫が通路をふさぐような状態で出土している。その数は約 2000、大きなものは 50 ほどであった。

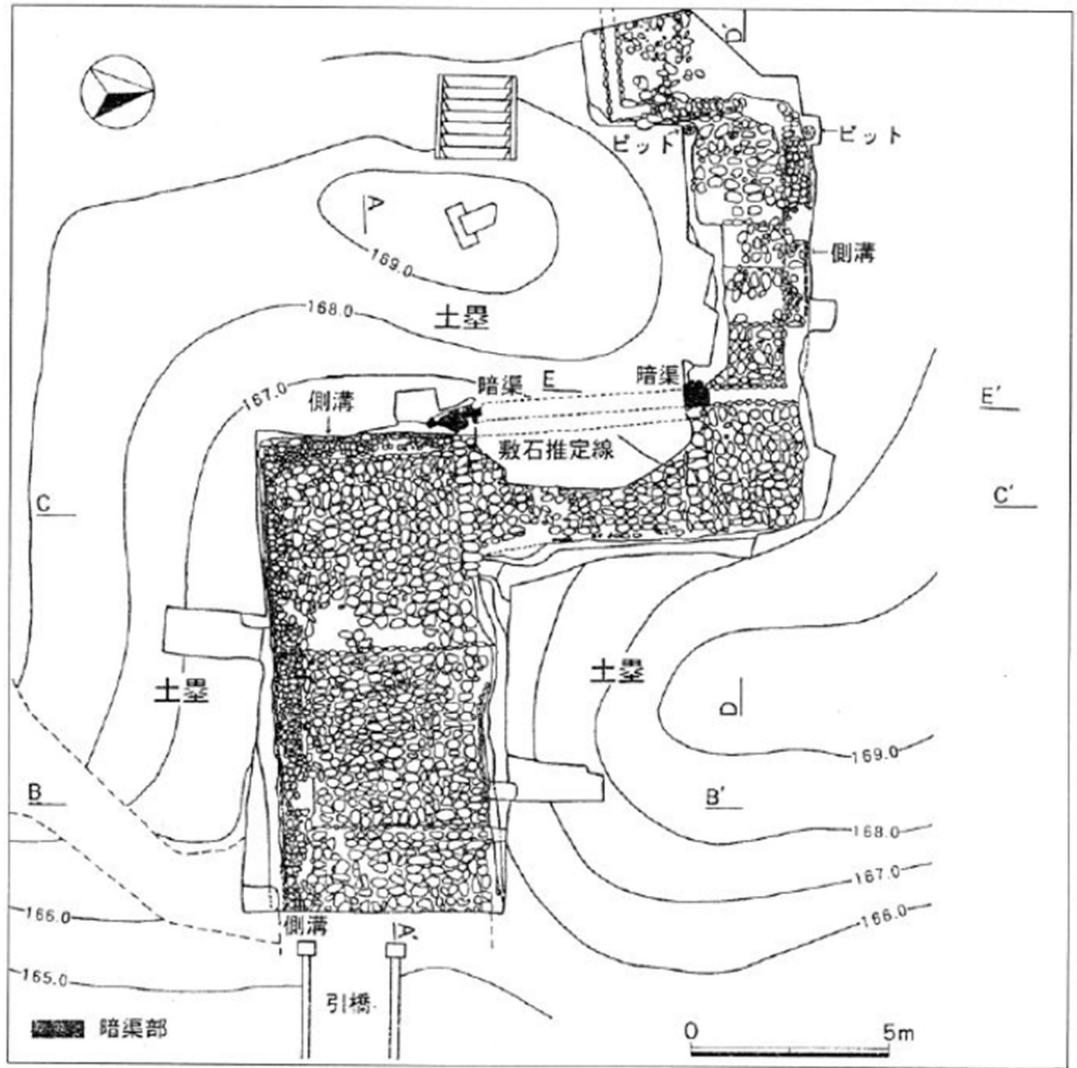
本丸虎口では、土塁の切開調査も実施されている。地表から 50～70cm には崩落土や腐植土等が堆積し、その下層にローム土と黒色土が交互に何十層も突き固められた、いわゆる版築が確認されている。

虎口部分からの出土遺物はわずかであり、城が機能していた時期と同時代の遺物は皆無といえる。廃棄された大量の礫の中に、1 点だけ五輪塔の地輪に相当する四角い切石が混じって出土しているが、刻銘等は認められなかった。

出典：『新八王子市史（資料編 2 中世）』p.804-806



図：虎口の石敷通路

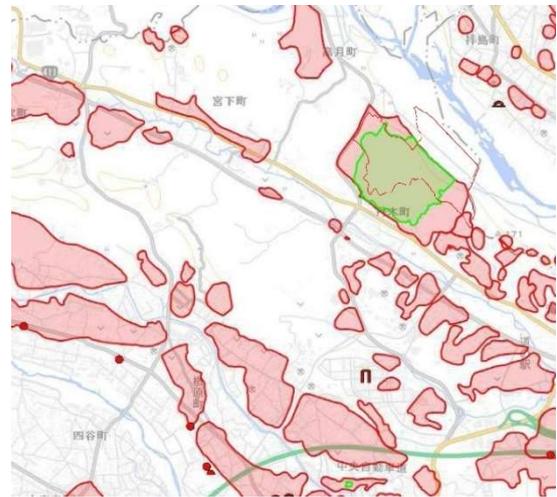


図：虎口の実測図

(3) 遺跡登録

滝山城跡は、遺跡として東京都教育委員会にて以下の通り、遺跡登録されている。

遺跡番号	55
遺跡名	滝山城跡
所在地	八王子市 高月町 加住町一丁目 丹木町一丁目 丹木町二丁目 丹木町三丁目
時代	中世
種別	城館
主な遺構/概要	[中世]本丸 千畳敷 二の丸 三の丸 掘立柱建物 土間状遺構 敷石遺構 堀 曲輪 整地面
主な出土品	陶磁器 カワラケ 鉄砲玉 釘 羽口 土玉 鉄滓



凡 例

赤線で囲った範囲が遺跡

緑線で囲った範囲が史跡

図： 東京都内における遺跡（埋蔵文化財包蔵地）の分布状況
（遺跡番号 55 滝山城跡）

出典：「東京都遺跡地図情報インターネット提供サービス」

史資料文献

① 史資料等の傾向分析

A 調査の概要

滝山城跡に関わる史資料等の収集については、八王子市郷土資料館（八王子市教育センター内）、八王子博物館、加住市民センター、都立小宮公園サービスセンター、みどりの図書館東京グリーンアーカイブス及び東京都教育庁において所蔵・販売された文献資料を中心に調査を行った。また、東京都建設局にて保管する既往報告書等についても収集・整理した。

滝山城跡に関わる催しや各種イベント等の案内パンフレットや冊子類は、現地及びWEBを中心に収集した。

B 史資料等（書籍・資料）一覧表の作成

収集した書籍・資料等は、以下のカテゴリーで分類し、発行年代（初版）順に整理した。

歴史に関する資料	：滝山城跡の歴史に関わる文献・資料
修復・整備に関する資料	：工事録、工事台帳、しゅん工図、遺構調査に関わる文献・資料
保存・管理に関する資料	：滝山城跡の保存・管理に関わる文献・資料
利用に関する資料	：催しの記録、行幸や著名人の来園記録や資料
その他関連資料	：地元市やボランティア、NPO団体等作成の冊子資料
調査・計画・設計に関する資料	：関連調査や上位計画（国・都・市）等

収集した書籍・資料等は、以下の内容について一覧表形式にて整理した。

書籍・資料名	：書籍・資料等の名称
発行・出版社	：発行・出版社を明記。発行の掲載がないものは著者・編集者を明記
電話番号	：発行・出版社の問合せ先（掲載許可の確認先）
所蔵場所	：当調査での入手先を明記
年代	：初版の発行日を明記
主な記載内容	：主たる記載内容を抽出し明記
掲載許可	：報告書への掲載許可の有無を明記

なお、一覧表は別添後述する。

C 史資料等（書籍・資料）の収集・傾向分析

滝山城跡にかかわる史資料においては、『新編武蔵風土記稿』（1957）、『武蔵名勝図会』（1967）並びに『日本城郭大系』（第5巻）（1979）の記述を元に引用する書籍・資料が複数みられる。しかし、上記史資料は史実として明らかにはなっていない。今後の調査・研究に委ねられる。

「『新編武蔵風土記稿』の記述は江戸時代からの伝承であるから、必ずしも史実を伝えているとはいえない」

（引用抜粋 『新八王子市史（通史編 2 中世）』（2016）p.325）

史実的な記述（滝山城跡の歴史や遺構の記録、北条氏照の足跡等）については、市史編さん専門部会中世部会（八王子市総合経営部経営計画課内）で権威付けられた『新八王子市史（資料編 2 中世）』（2014）及び『新八王子市史（通史編 2 中世）』（2016）（ともに八王子市）において整理されている。

「修復・整備」に関して、工事録、工事台帳、しゅん工図等の工事に関わる資料は主に小宮公園サービスセンター並びにみどりの図書館東京グリーンアーカイブスにて収集した。遺構調査に関わる資料は、「八王子市埋蔵文化財年報」「八王子城跡Ⅴ～Ⅷ」（ともに八王子市教育委員会）とともに、各遺構調査委託報告書（東京都西部公園緑地事務所）にて収集した。

「保存・管理」に関して、管理主体である指定管理者（西武・多摩部の公園パートナーズ）による管理計画実施報告書（令和 2 年度）及び管理者ヒアリングにて収集した。

「利用」に関しては、イベント等の催しは指定管理者とともに、滝山城跡で活動するNPO 団体（滝山城址群・自然と歴史を守る会）発行のパンフレット、冊子等が多く、現地や公共施設等での収集に加え、WEB調査にて収集した。

行幸、著名人の来園記録について、WEB調査では確認できなかった。今後の調査に委ねることとする。

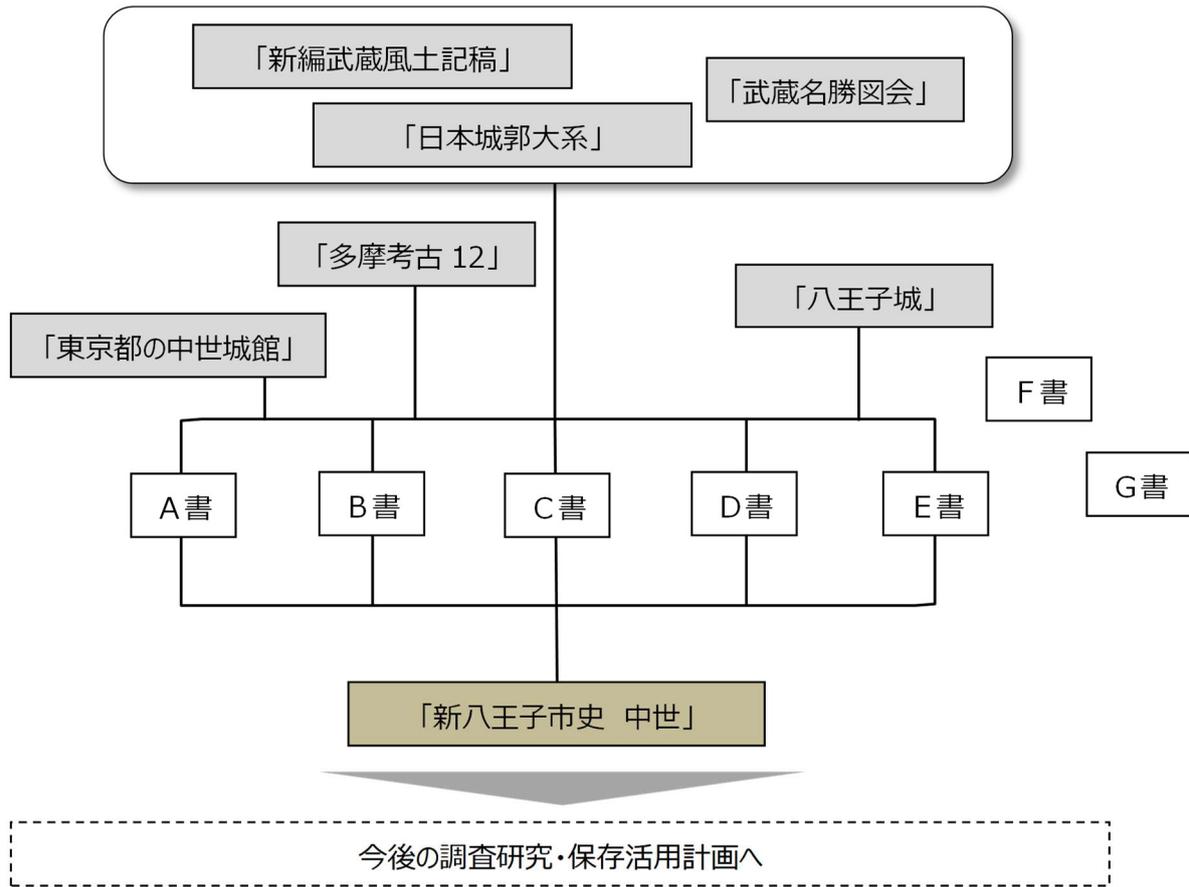
「調査・計画・設計に関する資料」に関して、関連計画は概ねWEB調査にて収集可能であった。既往計画については都担当課より収集した。

D 史資料と出典の調査・整理

古地図や絵図等の史資料の内容と出典について調査を行った。

「滝山城跡見取図」のような古地図において、作者が複数みられる場合は、双方を掲載の上、出典を明記した。

なお、史資料の出典元情報は、各種調査及び関係者ヒアリング等を踏まえた想定とする旨を注釈付きで記載した。



図： 史資料等の傾向フロー

② 分野別の整理

A 歴史

- ・ 「歴史」に関する諸資料として、滝山城跡や滝山城下、その周辺に関する史実や成立、北条氏の関りや系譜等を述べた文献・資料を収集した。
- ・ 各資料は、以下に分類・整理した。
 - 「滝山城跡・北条氏照に関する資料」
 - 「滝山公園の実写記録」
 - 「滝山城址関連図面等（都保管資料）」
 - 「官報」

B 修復・整備

- ・ 「修復・整備」に関する諸資料として、これまでに滝山公園で実施された工事に関する記録として工事録、工事台帳、しゅん工図や、遺構調査に関わる文献・資料、公園化の経緯等を収集した。
- ・ 各資料は、以下に分類・整理した。
 - 「工事録・工事台帳」
 - 「設計図」
 - 「竣工図」
 - 「公文書類」
 - 「遺構の実態把握の調査」
 - 「遺構発掘調査に関する報告書」
 - 「遺構に関する情報等」
 - 「公園化の経緯等」

C 保存・管理

- ・ 「保存・管理」に関する諸資料として、滝山公園、滝山城跡の保存や管理に関わる文献・資料を収集した。資料として、指定管理者の管理報告書、用地区分・地籍関係を収集した。
- ・ 各資料は、以下に分類・整理した。
 - 「管理報告書」
 - 「用地区分・地籍関係」

D 利用に関する記録

- ・ 「利用」に関する諸資料として、滝山公園や滝山城跡で実施された催しの記録、行幸や著名人の来園記録や資料を収集した。
- ・ 各資料は、以下に分類・整理した。
 - 「催しの記録」
 - 「施設利用記録」

- ・ なお、「行幸や著名人の来園記録」については、現段階で明らかになっていない。引き続き調査を行うものとする。

E その他

- ・ 「その他」関連資料として、地元自治体（八王子市）やボランティア、NPO 団体などが作成した冊子、パンフレット等の諸資料を収集した。
- ・ 各資料は、以下に分類・整理した。
 - 「滝山城跡の解説」
 - 「公園案内・散策マップ等」
 - 「八王子城・北条氏照」
 - 「地域紹介・観光案内等」
 - 「関連施設・事業等」

F 調査・計画・設計に関する資料

- ・ 「調査・計画・設計に関する資料」として、滝山公園や滝山城跡に関連する調査報告や関連上位計画（国、東京都、八王子市）等の文献、資料を収集した。
- ・ 各資料は、以下に分類・整理した。
 - 「関連調査等」
 - 「主な関連上位計画」
 - 「史跡等に関する手引き等」

G 史資料と出典

- ・ 主たる史資料について、前述した文献資料より引用した。史資料は、「絵図・古地図類」「遺構発掘類」「印判状類」「竣工図・設計図」で分類し、史資料の出典元とともに掲載した。
- ・ 特に、滝山城跡の縄張り図については、調査研究が重ねられる中、各年代・作者によって作図され、解明が進められている段階である。
- ・ なお、史資料の出典元情報は、各種調査及び関係者ヒアリング等を踏まえた想定とする。
- ・ 所蔵場所は、文献資料に掲載された史資料の場合は文献の所蔵先、図面類の場合は、原図の所蔵先を掲載した。

③ 図像資料一覧

■ 図像資料

NO	資料名	書籍名	発行・出版	発行年代（和暦）		所蔵場所
				和暦	西暦	
	A. 絵図・古地図類					
1	江戸時代の滝山城跡本丸跡からの景観	「武蔵名勝図会」	慶友社	昭和42年	1967/1/31	八王子市郷土資料館
2	滝山古城跡の鳥観絵図	「武蔵名勝図会」	慶友社	昭和42年	1967/1/31	八王子市郷土資料館
3	近世に描かれた滝山城跡	「新編武蔵風土記稿」 巻百七				
4	滝山城古図（石井千城蔵）	「北条氏照と八王子城」	八王子市教育委員会	平成2年	1990/7/22	八王子博物館
		「八王子城主・北条氏照-氏照文章から見た関東の戦国-」 P282	財団法人たましん地域文化財団	平成6年	1994/12/15	八王子博物館
5	滝山城跡図	「八王子市史 古代～中世」	八王子市			八王子市郷土資料館
6	滝山城要図	「日本城郭大系 第5巻」P43	新人物往来社	昭和54年	1979/8/15	八王子市郷土資料館
7	滝山城跡見取図	図説中世城郭辞典第一巻 北海道 東北 関東	新人物往来社	昭和62年	1987/4/25	八王子市郷土資料館
8	滝山城跡見取図	「多摩考古12」	多摩考古学研究会	昭和47年	1972/6/30	八王子市郷土資料館
9	滝山城跡縄張り図	「東京都の中世城館 東京都教育委員会編」P113	戎光祥出版	平成25年	2013/8/10	東京都教育庁
10	滝山城推定復元図	「東京都の中世城館 東京都教育委員会編」P114	戎光祥出版	平成25年	2013/8/10	東京都教育庁
11	滝山城推定復元俯瞰図（八王子市高月町・丹木町）西から	「東京都の中世城館 東京都教育委員会編」P115	戎光祥出版	平成25年	2013/8/10	東京都教育庁
12	滝山城跡縄張り想定図	「現況遺構調査レポート 滝山公園空中写真測量に伴う遺構等にかかわる監理業務」	文化財保存計画協会	昭和63年	1988/3	緑の図書館 東京グリーンアーカイブス
13	滝山城跡遺構想定図	「現況遺構調査レポート 滝山公園空中写真測量に伴う遺構等にかかわる監理業務」	文化財保存計画協会	昭和63年	1988/3	緑の図書館 東京グリーンアーカイブス
14	全体遺構調査図	「現況遺構調査レポート 滝山公園空中写真測量に伴う遺構等にかかわる監理業務」	文化財保存計画協会	昭和63年	1988/3	緑の図書館 東京グリーンアーカイブス
15	主要通路図	「現況遺構調査レポート 滝山公園空中写真測量に伴う遺構等にかかわる監理業務」	文化財保存計画協会	昭和63年	1988/3	緑の図書館 東京グリーンアーカイブス
16	その他遺構分布図	「現況遺構調査レポート 滝山公園空中写真測量に伴う遺構等にかかわる監理業務」	文化財保存計画協会	昭和63年	1988/3	緑の図書館 東京グリーンアーカイブス
17	曲輪土塁等分布図	「現況遺構調査レポート 滝山公園空中写真測量に伴う遺構等にかかわる監理業務」	文化財保存計画協会	昭和63年	1988/3	緑の図書館 東京グリーンアーカイブス
18	堀・池等分布図	「現況遺構調査レポート 滝山公園空中写真測量に伴う遺構等にかかわる監理業務」	文化財保存計画協会	昭和63年	1988/3	緑の図書館 東京グリーンアーカイブス
19	滝山城鳥観図	よみがえる滝山城	揺籃社	平成19年	2007/11/3	
20	慶安図					個人蔵
21	滝山城古城図（「武州龍山之城」）					八王子市郷土資料館
22	浅野文庫「諸国古城之図」のうち「武蔵 滝山」					広島市立中央図書館（浅野文庫）

※絵図・古地図類No.20～22は本編2章に掲載

NO	資料名	書籍名	発行・出版	発行年代（和暦）		所蔵場所
				和暦	西暦	
	B. 遺構・発掘類					
1	滝山城跡本丸虎口平面図、断面図	「八王子市埋蔵文化財年報-平成六～十一年度-」	八王子市教育委員会			八王子市郷土資料館
2	滝山城跡本丸虎口の発掘写真	「八王子市埋蔵文化財年報-平成六～十一年度-」	八王子市教育委員会			八王子市郷土資料館
3	中の丸確認調査試掘杭位置図	「八王子市埋蔵文化財年報-平成六～十一年度-」	八王子市教育委員会			八王子市郷土資料館
4	中の丸第4試掘杭（写真）、第1試掘断面図	「八王子市埋蔵文化財年報-平成六～十一年度-」	八王子市教育委員会			八王子市郷土資料館
5	引橋架けかえ工事に伴う確認調査	八王子城跡V～Ⅷ	八王子市教育委員会			八王子市郷土資料館

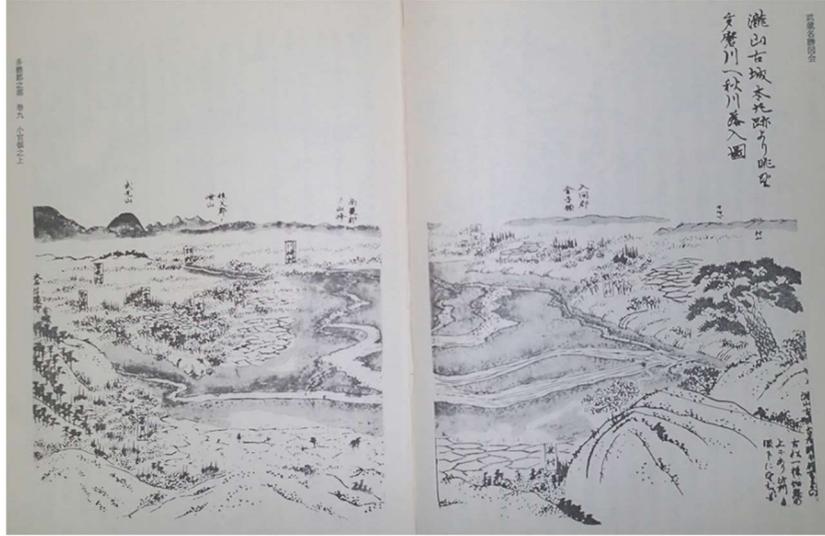
C.印判状類						
1	北条氏照印判状（宮本信行氏所蔵）	「北条氏照と八王子城」	八王子市教育委員会	平成2年	1990/7/22	八王子博物館
2	北条氏照印判状（安楽寺所蔵）	「北条氏照と八王子城」	八王子市教育委員会	平成2年	1990/7/22	八王子博物館
3	北条氏照印判状（青梅市郷土博物館所蔵並本文書）	「北条氏照と八王子城」	八王子市教育委員会	平成2年	1990/7/22	八王子博物館
4	北条氏照印判状（青梅市郷土博物館所蔵並本文書）	「北条氏照と八王子城」	八王子市教育委員会	平成2年	1990/7/22	八王子博物館
5	北条氏照印判状	「戦国遺文」後北条氏編第2巻	東京堂出版	平成2年	1990/9/1	

NO	資料名	書籍名	発行・出版	発行年代（和暦）		所蔵場所	備考
				和暦	西暦		
D.竣工図・設計図							
1	引橋改築比較表	滝山公園引橋改築設計委託	東京都西部公園緑地事務所	昭和57年	1982/1/1	東京グリーンアーカイブス	
2	引橋改築設計図	滝山公園引橋改築設計委託	東京都西部公園緑地事務所	昭和57年	1982/1/1	東京グリーンアーカイブス	
3	引橋改築設計図	滝山公園引橋改築設計委託	東京都西部公園緑地事務所	昭和57年	1982/1/1	東京グリーンアーカイブス	

④ 図像資料

A 絵図・古地図類

1. 江戸時代の滝山城跡本丸跡からの景観



pp.418-419

資料名（書籍名）	『武蔵名勝図会』	発行	慶友社	発行日	1967/1/31
所蔵場所	八王子市郷土資料館				
主な記載内容	本丸から高月城方面の眺望。当時は本丸に大木の松があったことをうかがわせる。				

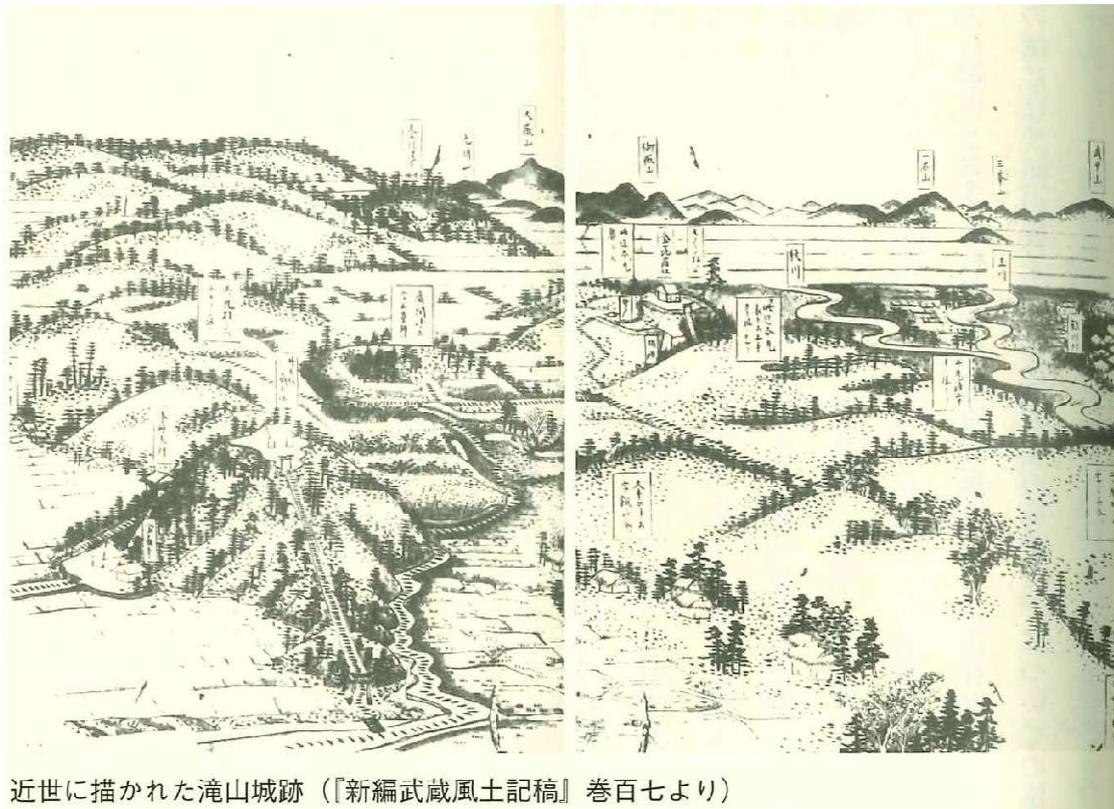
2. 滝山古城跡の鳥観絵図



p.405

資料名（書籍名）	『武蔵名勝図会』	発行	慶友社	発行日	1967/1/31
所蔵場所	八王子市郷土資料館				
主な記載内容					

3. 近世に描かれた滝山城跡

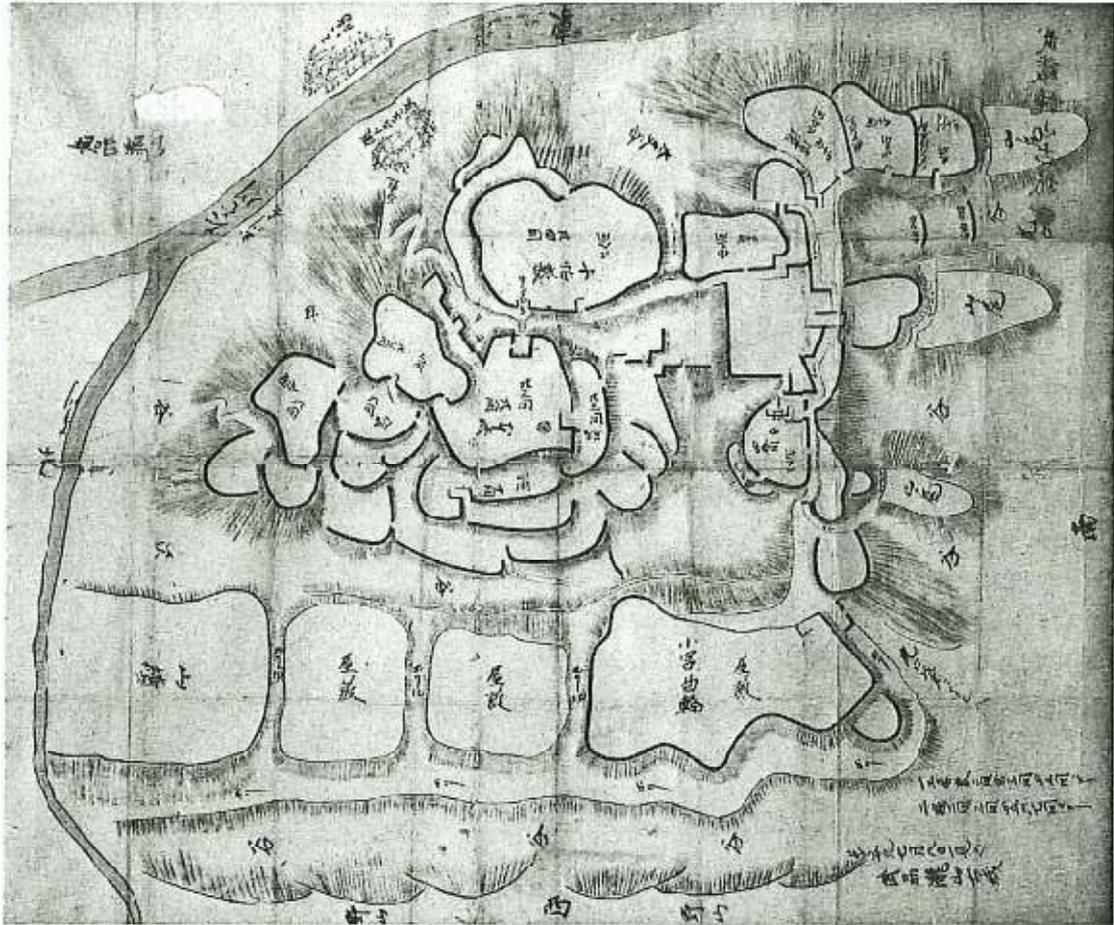


近世に描かれた滝山城跡（『新編武蔵風土記稿』巻百七より）

※図引用：『新八王子市史 通史編2 中世』p.279 に引用図有り（図所蔵は東京都教育委員会と明記）

資料名（書籍名）	『新編武蔵風土記稿』 巻百七	発行		発行日	
所蔵場所					
主な記載内容					

4. 滝山城古図（石井千城蔵）



資料名（書籍名）	『北条氏照と八王子城』	発行	八王子市教育委員会	発行日	1990/7/22
	『八王子城主・北条氏照-氏照文章から見た関東の戦国-』 p.282		財団法人たましん地域文化財団		1994/12/15
所蔵場所	八王子博物館				
主な記載内容					

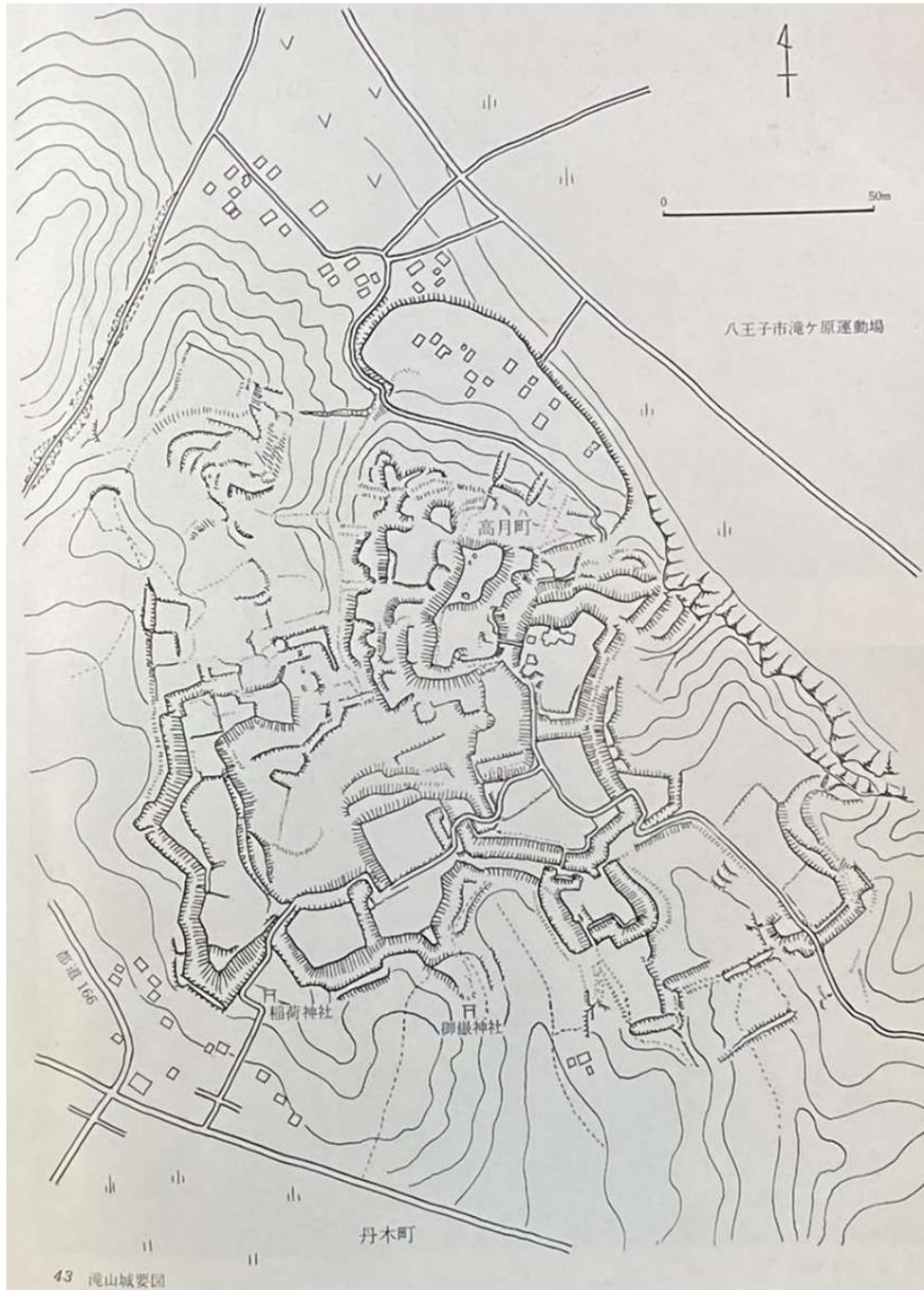
5. 滝山城跡図



p.418

資料名(書籍名)	『八王子市史 古代～中世』	発行	八王子市	発行日	
所蔵場所	八王子市郷土資料館				
主な記載内容	おもに皇国地誌による と明記有				

6. 滝山城要図



資料名（書籍名）	『日本城郭大系 第5巻』p.43	発行	新人物往来社	発行日	1979/8/15
所蔵場所	八王子市郷土資料館				
主な記載内容	作者不明				

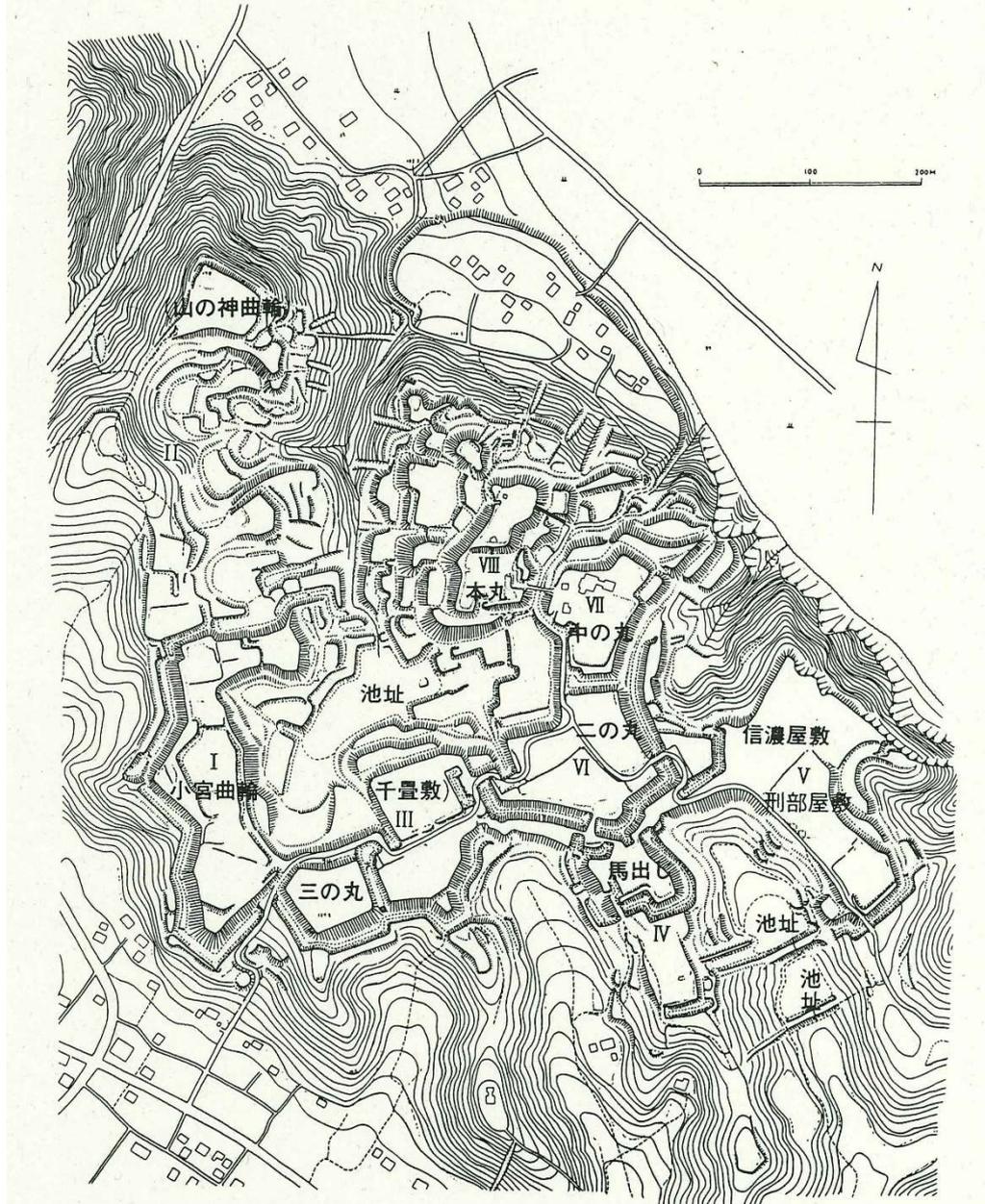
7. 滝山城跡見取図



滝山城図（八巻孝夫作図、1960年6月調査、「東京都都市計画図1:2500、昭和55年3月修正実測図」の成果を利用した）

資料名（書籍名）	『図説中世城郭辞典 第一巻 北海道 東北 関東』	発行	新人物往来社	発行日	1987/4/25
所蔵場所	八王子市郷土資料館				
主な記載内容	八巻孝夫作図、1960年6月調査、「東京都都市計画図1:2500、昭和55年3月修正実測図」の成果を利用				

8. 滝山城跡見取図



※図引用：「滝山城跡確認調査概要報告書（平成7年）」p.5 に引用図有り（図所蔵は「八王子城」（1983）より転載と明記）

※図：「滝山公園遺構調査委託報告書（昭和63年）」p.3 に一部改変図有り（図所蔵は『多摩考古12』より転載 一部加除筆と明記）

資料名（書籍名）	『多摩考古12』	発行	多摩考古学研究会	発行日	1972/6/30
所蔵場所	八王子市郷土資料館				
主な記載内容	本田昇氏作図、渡辺忠胤氏写				

9. 滝山城跡縄張図



第35図 滝山城跡縄張図 (S=1/5000)

※図：『新八王子市史 資料編 2 中世』 p.797 に一部改変図有り（図所蔵は東京都教育委員会と明記）

※図：『新八王子市史 通史編 2 中世』 p.316 に一部改変図有り（図所蔵は東京都教育委員会『東京都の中世城館 主要城館編』（2006）より作成と明記）

資料名（書籍名）	『東京都の中世城館 東京都教育委員会 編』 p.113	発行	戎光祥出版	発行日	2013/8/10
所蔵場所	東京都教育庁				
主な記載内容	※本書は「主要城館編」を改めて編集し、刊行したもの。				

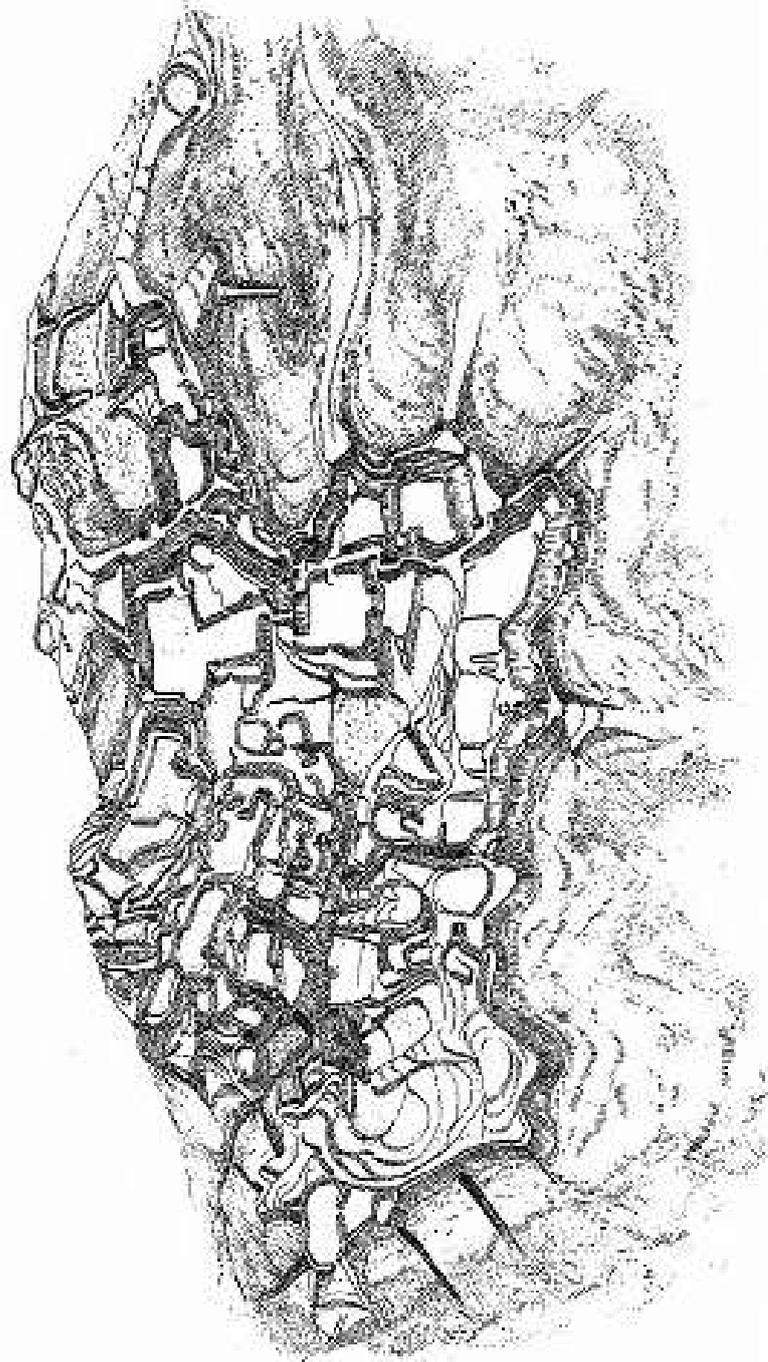
10. 滝山城推定復元図



第36図 滝山城推定復元図 (S=1/5000)

資料名（書籍名）	『東京都の中世城館 東京都教育委員会 編』 p.114	発行	戎光祥出版	発行日	2013/8/10
所蔵場所	東京都教育庁				
主な記載内容					

11. 滝山城推定復元俯瞰図（八王子市高月町・丹木町）西から



第37図 滝山城推定復元俯瞰図（八王子市高月町・丹木町）西から

資料名（書籍名）	『東京都の中世城館 東京都教育委員会 編』 p.115	発行	戎光祥出版	発行日	2013/8/10
所蔵場所	東京都教育庁				
主な記載内容					

12. 滝山城跡縄張想定図



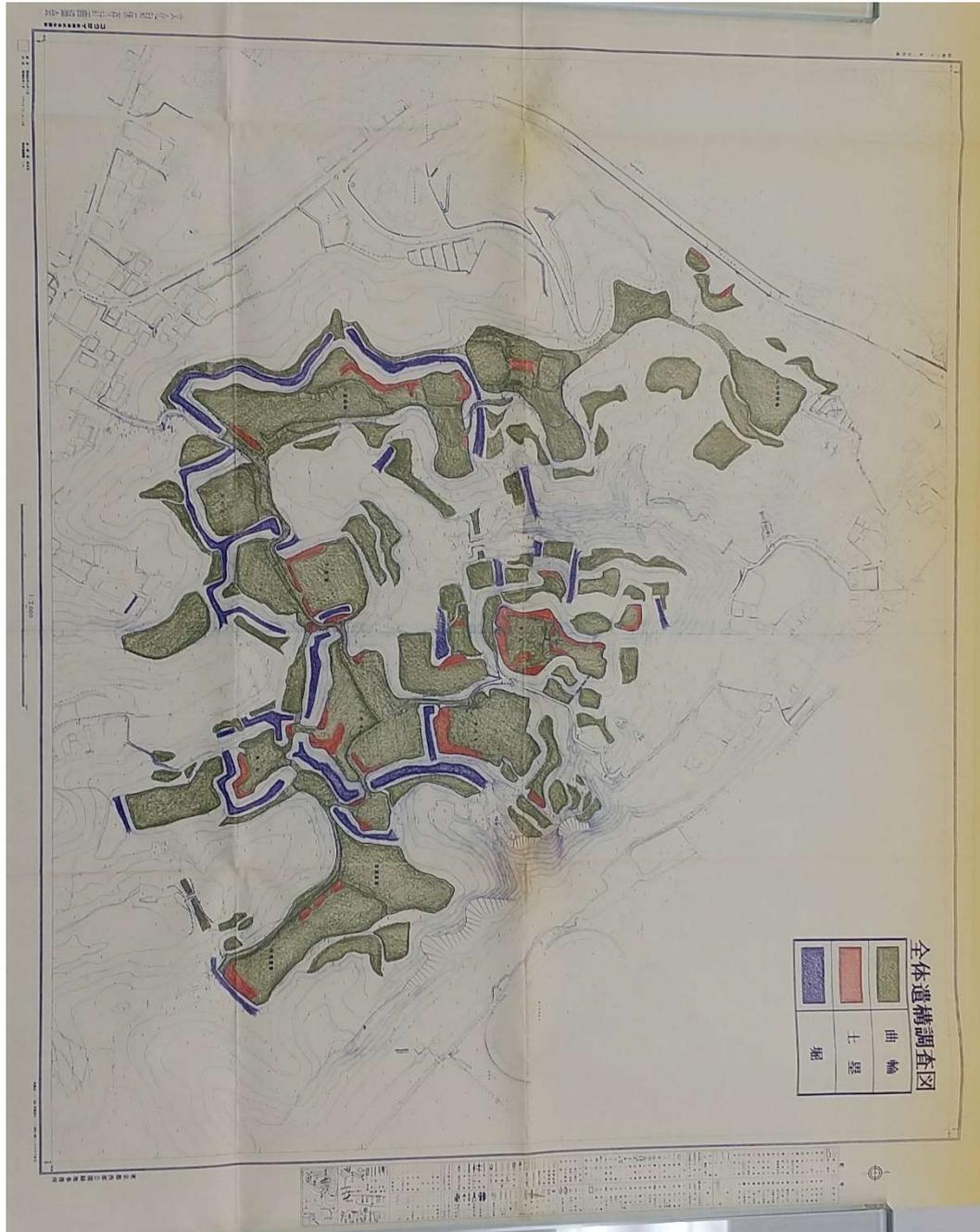
資料名（書籍名）	「現況遺構調査レポート 滝山公園空中写真測量に伴う遺構等にかかわる監理業務」	発行	文化財保存計画協会	発行日	1988年3月
所蔵場所	緑の図書館 東京グリーンアーカイブス				
主な記載内容	昭和62年（1987）文化財保存計画協会策定				

13. 滝山城跡遺構想定図



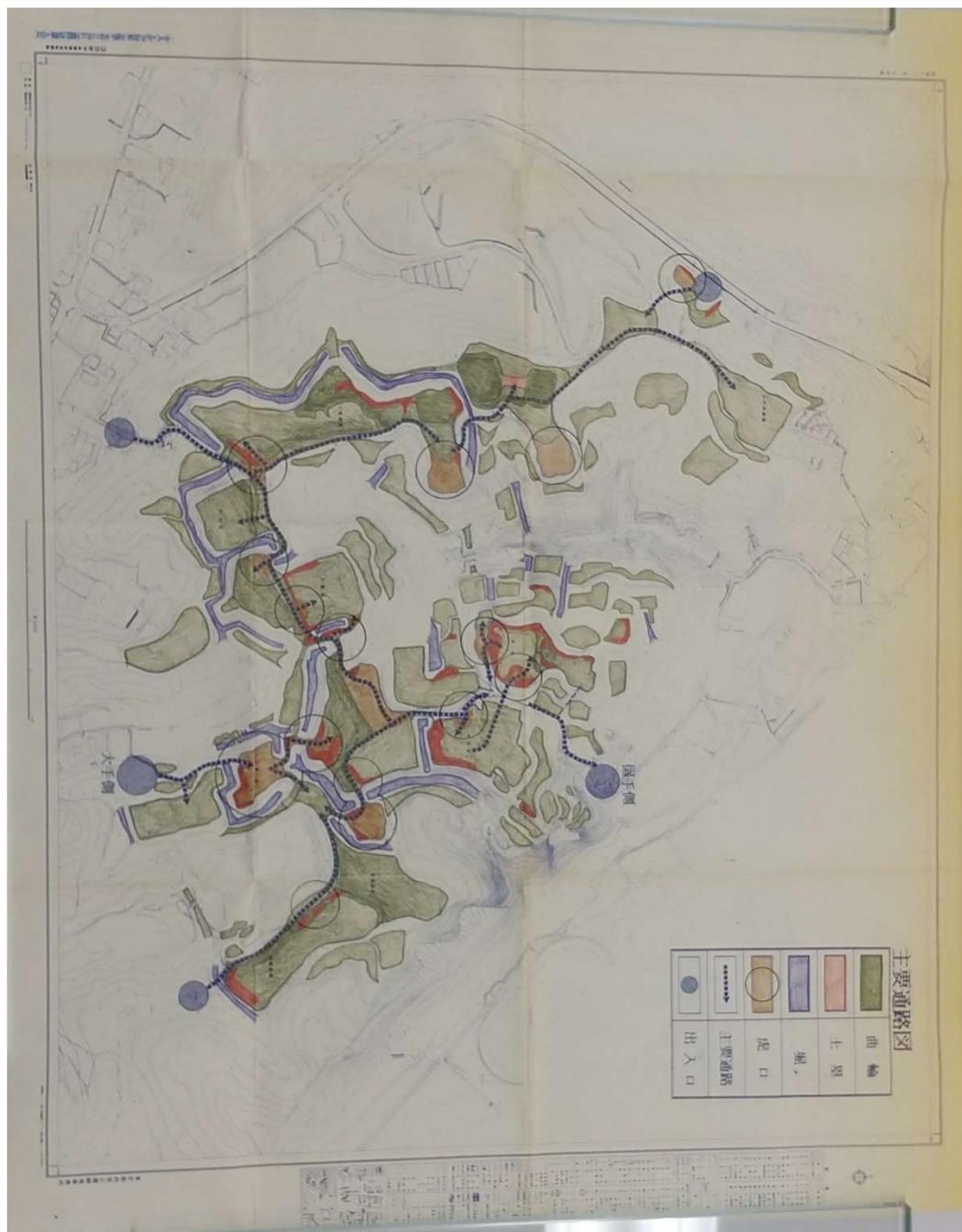
資料名（書籍名）	「現況遺構調査レポート 滝山公園空中写真測量に伴う遺構等にかかわる監理業務」	発行	文化財保存計画協会	発行日	1988年3月
所蔵場所	緑の図書館 東京グリーンアーカイブス				
主な記載内容	空中写真測量を基にした遺構配置想定図				

14. 全体遺構調査図



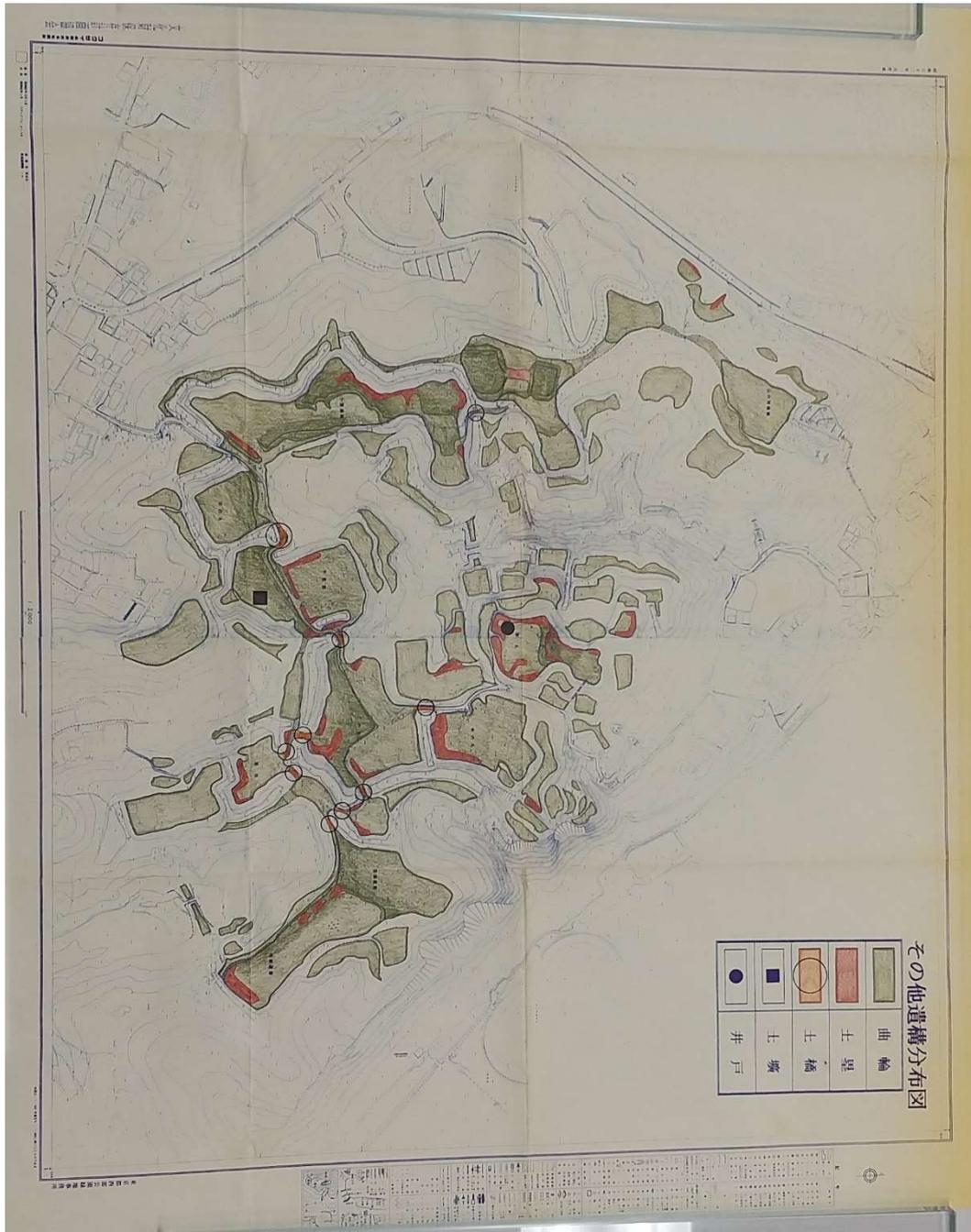
資料名（書籍名）	「現況遺構調査レポート 滝山公園空中写真測量に伴う遺構等にかかわる監理業務」	発行	文化財保存計画協会	発行日	1988年3月
所蔵場所	緑の図書館 東京グリーンアーカイブス				
主な記載内容	空中写真測量を基にした遺構配置図				

15. 主要通路図



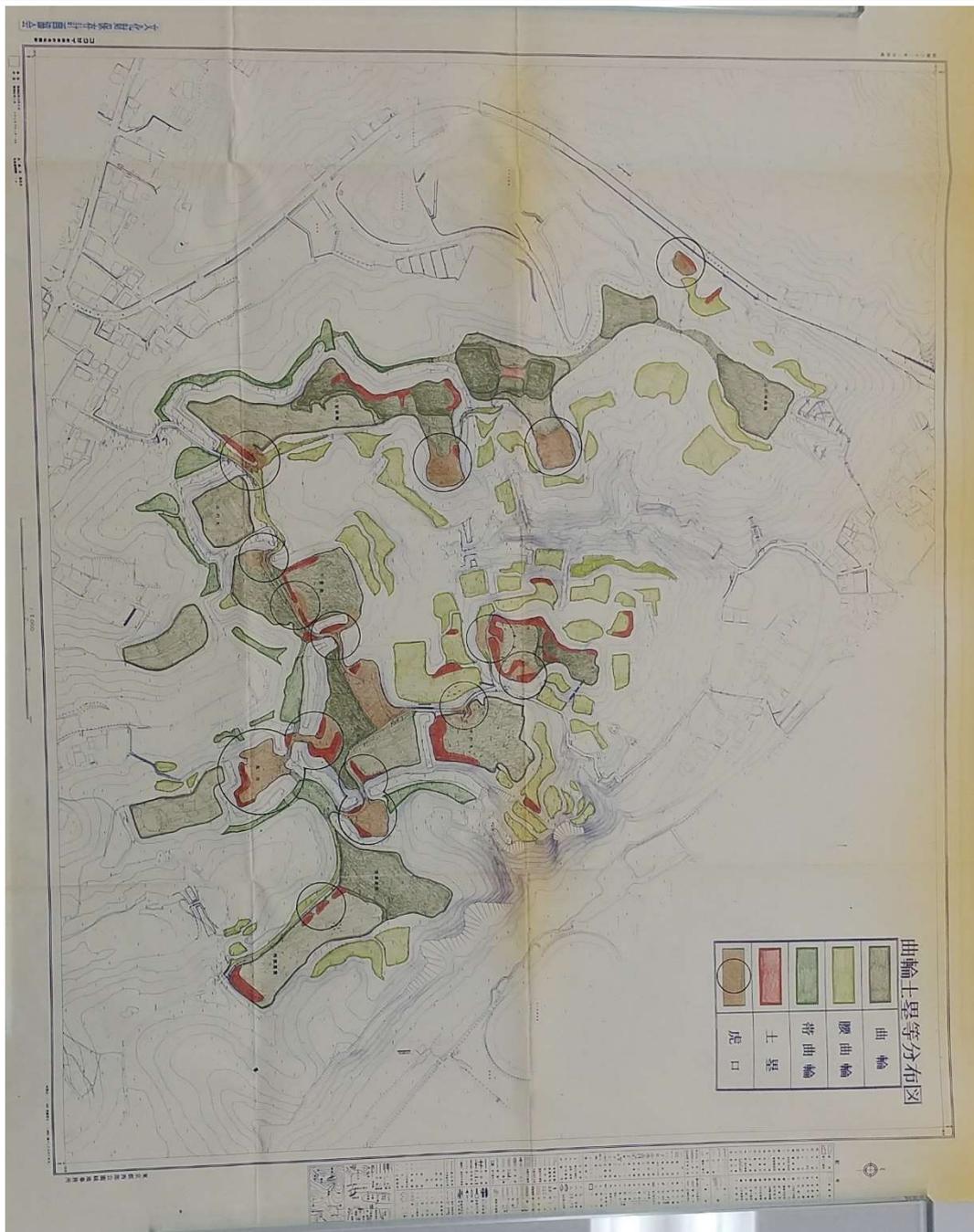
資料名（書籍名）	「現況遺構調査レポート 滝山公園空中写真測量に伴う遺構等にかかわる監理業務」	発行	文化財保存計画協会	発行日	1988年3月
所蔵場所	緑の図書館 東京グリーンアーカイブス				
主な記載内容	空中写真測量を基にした遺構配置図				

16. その他遺構分布図



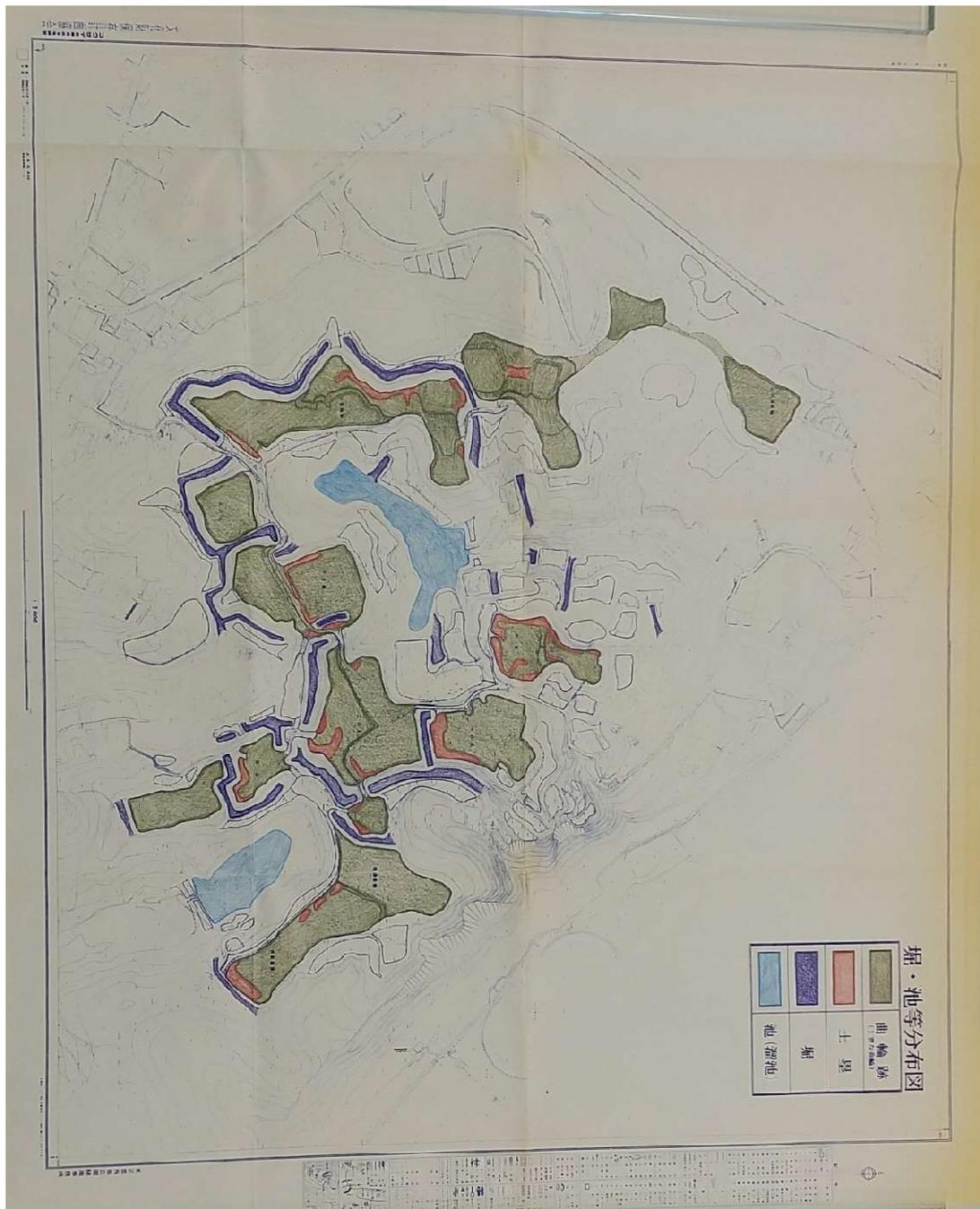
資料名（書籍名）	「現況遺構調査レポート 滝山公園空中写真測量に伴う遺構等にかかわる監理業務」	発行	文化財保存計画協会	発行日	1988年3月
所蔵場所	緑の図書館 東京グリーンアーカイブス				
主な記載内容	空中写真測量を基にした遺構配置図				

17. 曲輪土塁等分布図



資料名（書籍名）	「現況遺構調査レポート 滝山公園空中写真測量に伴う遺構等にかかわる監理業務」	発行	文化財保存計画協会	発行日	1988年3月
所蔵場所	緑の図書館 東京グリーンアーカイブス				
主な記載内容	空中写真測量を基にした遺構配置図				

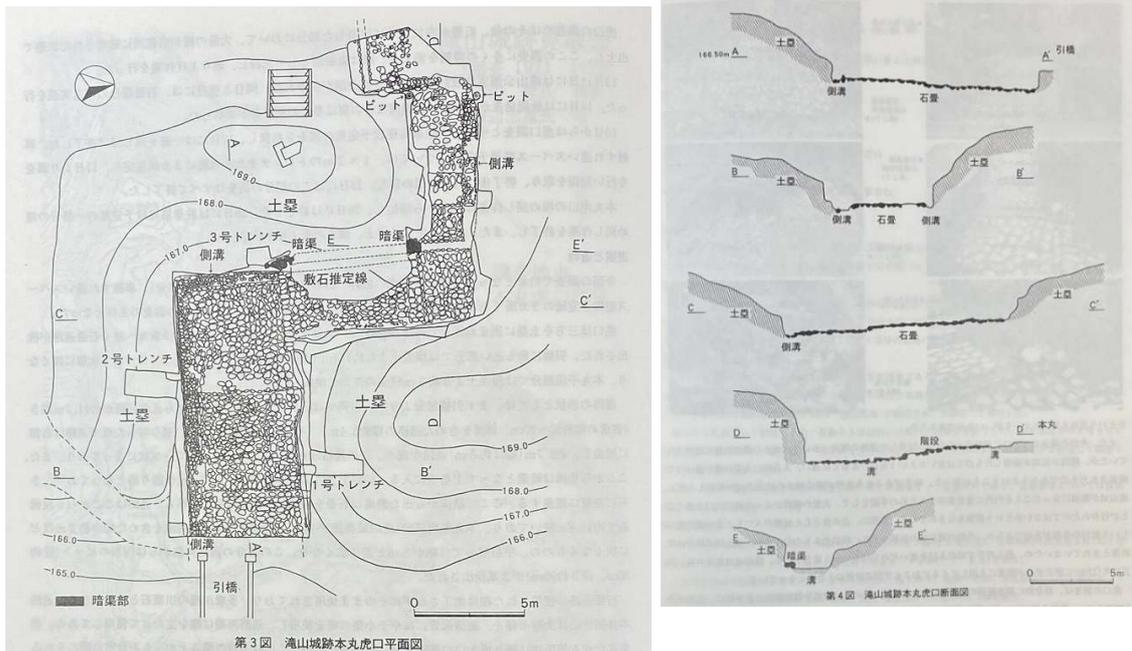
18. 堀・池等分布図



資料名（書籍名）	「現況遺構調査レポート 滝山公園空中写真測量に伴う遺構等にかかわる監理業務」	発行	文化財保存計画協会	発行日	1988年3月
所蔵場所	緑の図書館 東京グリーンアーカイブス				
主な記載内容	空中写真測量を基にした遺構配置図				

B 遺構・発掘類

1. 滝山城跡本丸虎口平面図、断面図

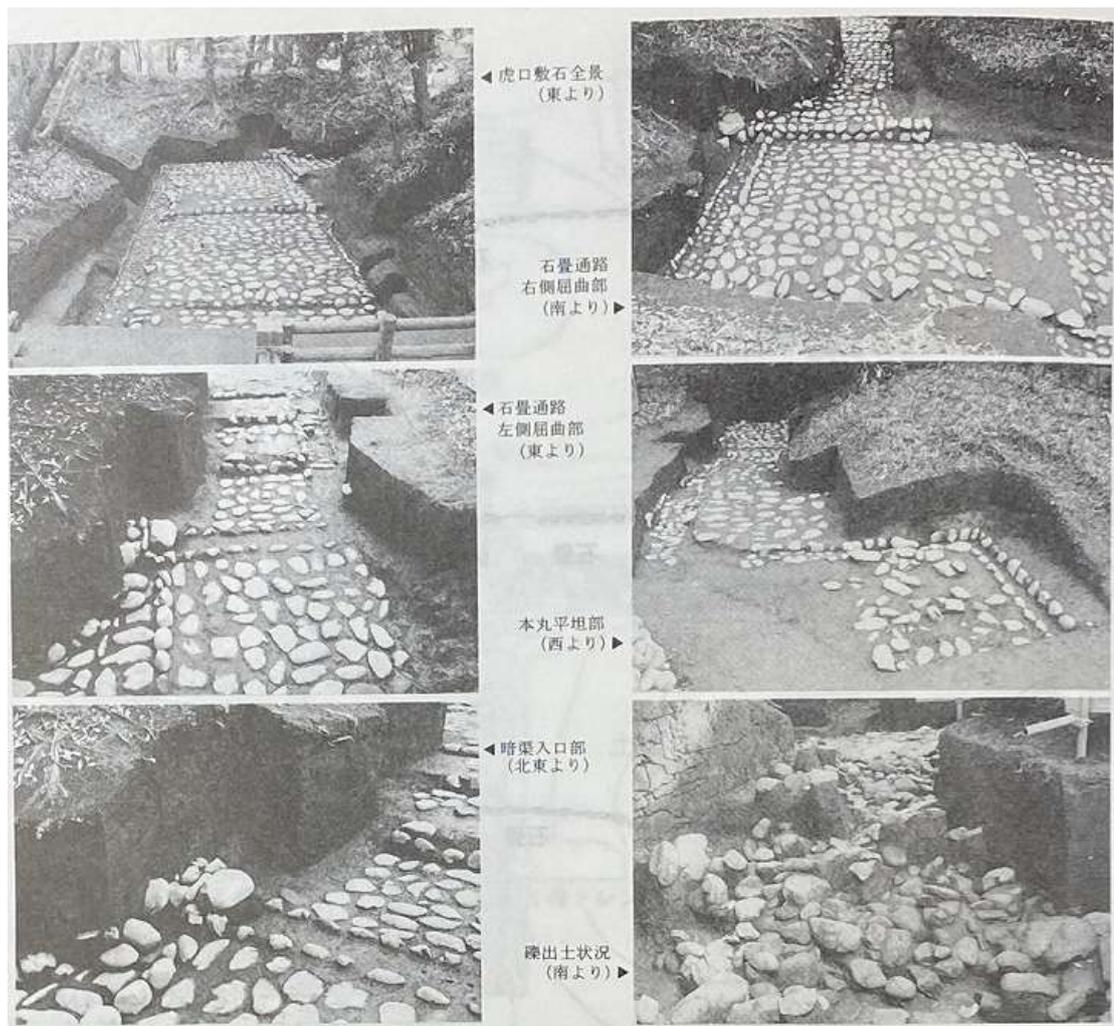


※『新八王子市史（資料編 2 中世）』p.803 に一部改変図有り（図所蔵は八王子市教育委員会生涯学習スポーツ部文化財課所蔵と明記）

資料名（書籍名）	「八王子市埋蔵文化財年報 -平成六～十一年度-」	発行	八王子市教育委員会	発行日	
所蔵場所	八王子市郷土資料館				
主な記載内容	「中の丸」から引橋を渡ると土塁に囲まれた虎口がある。屈曲した通路の全面が石敷きされていた。平成八年（1996）史跡整備に向けた遺構確認の発掘調査で発見された。				

文出典：『新八王子市史（資料編 2 中世）』p.804、
『新八王子市史（通史編 2 中世）』p.320 抜粋

2. 滝山城跡本丸虎口の発掘写真

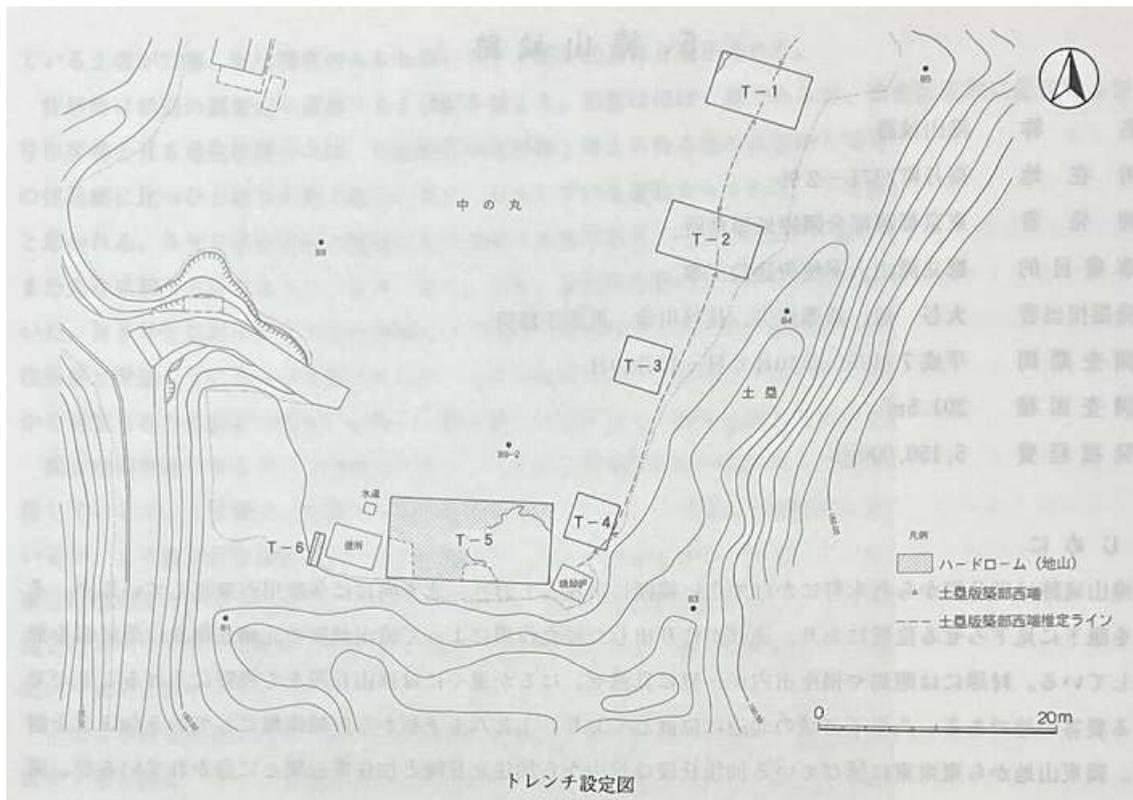


※『新八王子市史資料編 2 中世』p.804.805 に引用有り (図所蔵は八王子市教育委員会生涯学習スポーツ部文化財課所蔵と明記)

資料名 (書籍名)	「八王子市埋蔵文化財年報 -平成六～十一年度-」	発行	八王子市教育委員会	発行日	
所蔵場所	八王子市郷土資料館				
主な記載内容	石敷き通路は現地表面の約 1m 下で確認され、桁形内は約 5.4m の幅で奥行きは 11.7m、三段の段差が作られ、正面の土壁に突きあたったところで右折する。石敷きの石は加工されておらず、多摩川で採取した河原石が敷き詰められたものと推定されている。				

文出典：『新八王子市史 (通史編 2 中世)』p.320 抜粋

3. 中の丸確認調査試掘坑位置図

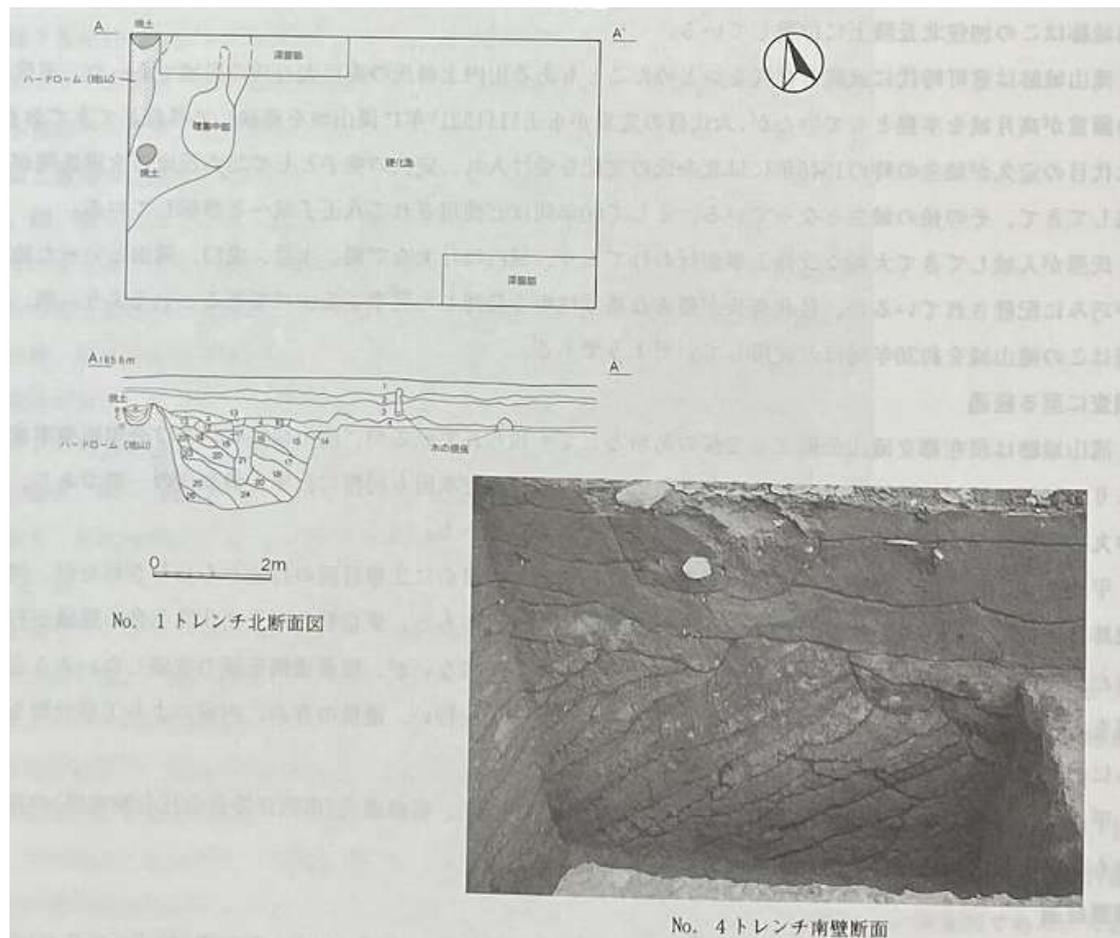


※『新八王子市史資料編 2 中世』p.801 に引用有り（図出典は「東京都八王子市 史跡 滝山城跡内便所改築事業報告書」東京都建設局西武公園緑地事務所（1997）と明記）

資料名（書籍名）	「八王子市埋蔵文化財年報 -平成六～十一年度-」	発行	八王子市教育委員会	発行日	
所蔵場所	八王子市郷土資料館				
主な記載内容	平成7年度の調査では6つの試掘坑（T-1～6）が設けられた。第1・2・4試掘坑で土塁の裾が確認されている。				

文出典：『新八王子市史（資料編 2 中世）』p.801 抜粋

4. 中の丸第4試掘坑（写真）、第1試掘断面図

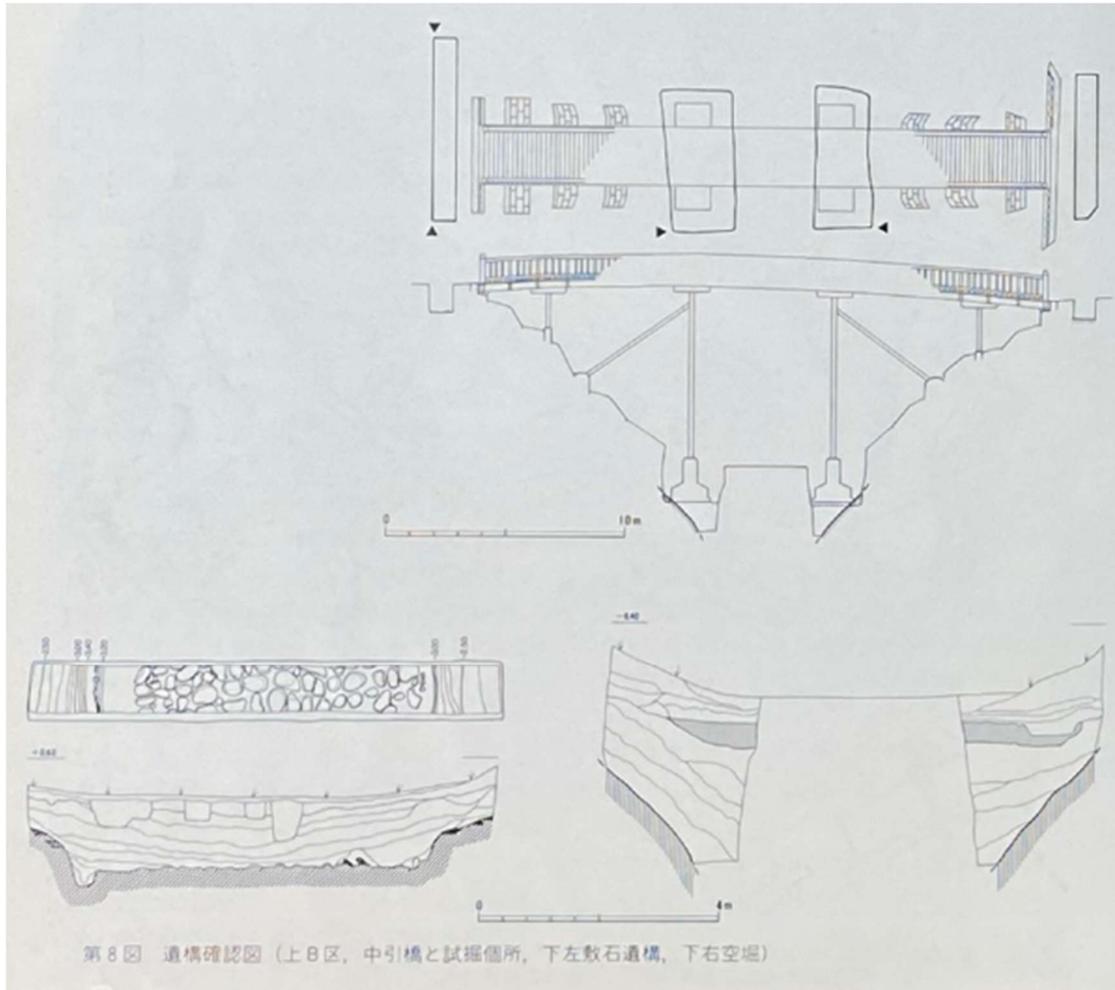


※右下写真（NO.4 トレンチ南壁断面）：『新八王子市史（資料編 2 中世）』p.802 に引用有り（図出典は「東京都八王子市 史跡滝山城跡内便所改築事業報告書」東京都建設局西武公園緑地事務所（1997）と明記）

資料名（書籍名）	「八王子市埋蔵文化財年報 -平成六～十一年度-」	発行	八王子市教育委員会	発行日	
所蔵場所	八王子市郷土資料館				
主な記載内容	中の丸第 4 試掘坑南壁深掘り部の断面から、斜面に盛土し、平坦面を造り出していることが確認されている。				

文出典：『新八王子市史（資料編 2 中世）』p.802 抜粋

5. 引橋架けかえ工事に伴う確認調査



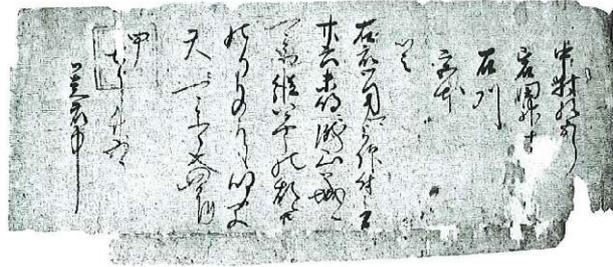
※『新八王子市史（資料編2 中世）』p.800 に一部改変図有り（図所蔵は八王子市教育委員会生涯学習スポーツ部文化財課所蔵と明記）

資料名（書籍名）	八王子城跡V～Ⅷ	発行	八王子市教育委員会	発行日	
所蔵場所	八王子市郷土資料館				
主な記載内容	「本丸」と「中の丸」の間に空堀があることが判明した。「本丸」側の橋台部では石敷き道路が検出された。				

文引用：『新八王子市史（資料編2 中世）』p.800

C 印判状類

1. 北条氏照印判状（宮本信行氏所蔵）

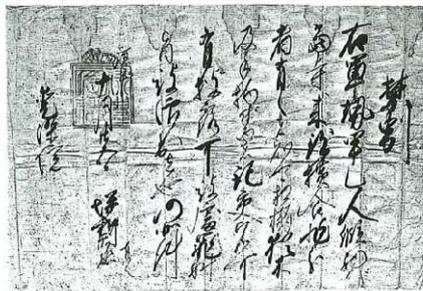


北条氏照印判状（宮本信行氏所蔵）

中村弥五郎
岩田神十郎
石川
宮本
以上
右、御用可被仰付之間
廿六未明、滝山御城、
可參候、縦いかやうの恒候共
のりものにて、明日早
天可參候也、仍如件、
申
七月廿五日
御走衆中
氏照が多摩郡戸倉の中村以下
四名に対して、七月廿六日未明
に滝山城に参じることを命じた
ものである。申年から元龜三年
（一五七二）あるいは天正十二
年（一五八二）の文書と思われ
るが、前者ならば「印文未詳」
の初見、後者なら滝山城が見え
る最後のものとなる。

資料名（書籍名）	『北条氏照と八王子城』	発行	八王子市教育委員会	発行日	1990/7/22
所蔵場所	八王子博物館				
主な記載内容	北条氏照の領国経営と外交に関する印判状。氏照が多摩郡戸倉の中村以下四名に対して、七月廿六日未明に滝山城に参じることを命じたもの。				

2. 北条氏照印判状（安楽寺所蔵）



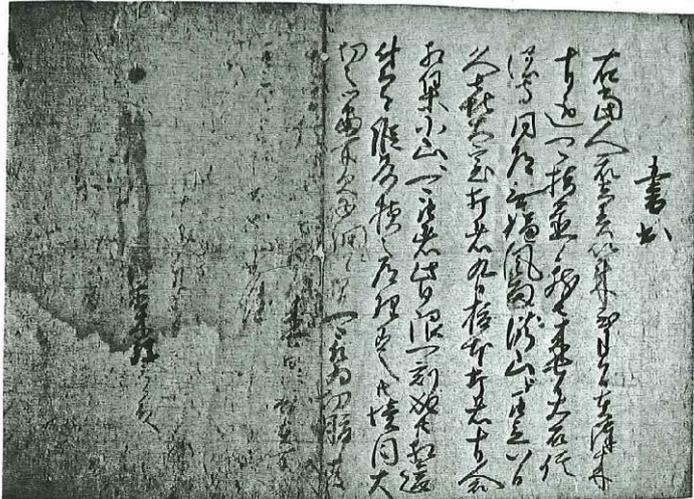
北条氏照印判状（安楽寺所蔵）

元龜元年（一五七〇）、北条氏が愛染院における乱暴振藉や違法行為を禁じた文書で、堺和刑部丞が命をうけて愛染院に下している。愛染院とは安楽寺のことである。元龜元年は武田勢と戦った滝山合戦の翌年であり、領内はまだその影響が残っていた。北条氏は寺社を通じて領内の安定をはかるため保護政策をとったが、この文書はその一例を示すものである。

禁制
右軍勢甲乙人、假初も富
寺來致廣合非分者有之者、
則可相擯、猶不及手柄、
付留者、記交名可有披露、
可被處罪科旨被仰出者也、
仍如件、
元龜元年
庚午
十月廿五日 堺和刑部丞
安楽寺

資料名（書籍名）	『北条氏照と八王子城』	発行	八王子市教育委員会	発行日	1990/7/22
所蔵場所	八王子博物館				
主な記載内容					

3. 北条氏照印判状（青梅市郷土博物館所蔵並木文書）



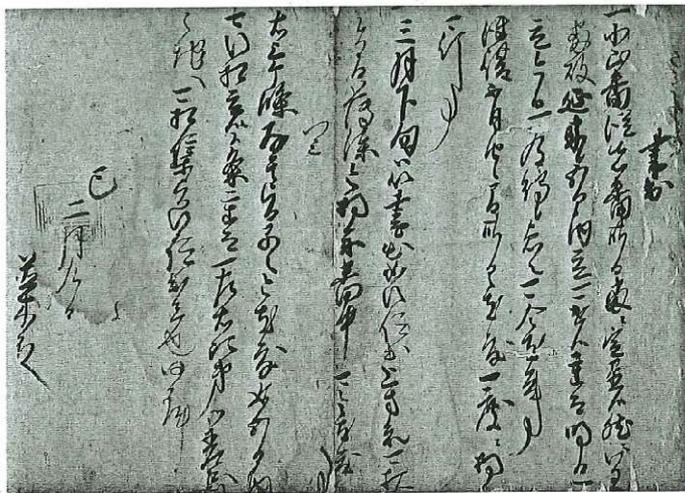
北条氏照印判状（青梅市郷土博物館所蔵並木文書）
書出

右当人衆去春以來至于今日在陣、来十日迄可指置候、就着来七日大石信濃守同道、無嫌風雨滝山を罷立、八日久喜・大室打着、九日榎本打着、十日人衆相集、小山へ可罷着、此日既一刻成其相違付而者、縱如何様之通理有之共境目大切之御番所欠子細二候間、可被為切腹候故、其旨信濃守〇子細を来七日二〇在所罷立〇者也、如件

（天正六年）
（未印也）
十月廿六日
並木弥七郎殿

資料名（書籍名）	『北条氏照と八王子城』	発行	八王子市教育委員会	発行日	1990/7/22
所蔵場所	八王子博物館				
主な記載内容					

4. 北条氏照印判状（青梅市郷土博物館所蔵並木文書）



北条氏照印判状（青梅市郷土博物館所蔵並木文書）
書出

一 小山番從先番廿日番、定置候、然八王〇一番故延来候、五日之内立可遣候、重而明日可立、今日可為袖候、急三可令支度事、一往後不自由候間、卅日之支度一度二持〇可行事

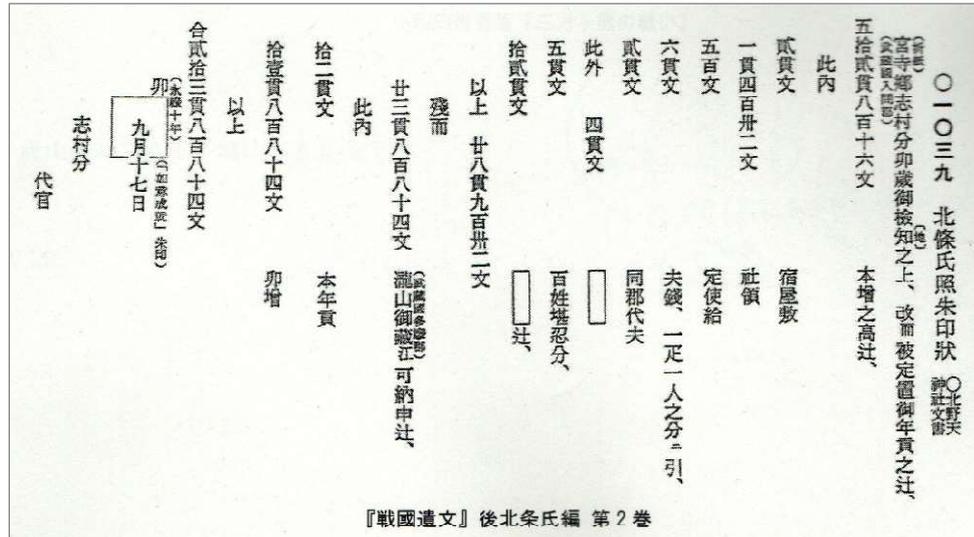
一 三月下旬、以書出如被仰出、上方衆可打合候間、薄淡令持參番中可令支度事

以上

右三々衆存其旨、早々令支度、必五日以内可被相着候衆、重而一左右次第御要因之地（可相集皆被仰出者也、仍如件、天正九年）
（印文未達）
二月九日
並木殿

資料名（書籍名）	『北条氏照と八王子城』	発行	八王子市教育委員会	発行日	1990/7/22
所蔵場所	八王子博物館				
主な記載内容	天正六年（1578）、氏照が並木弥七郎に対し、大石信濃守照輝とともに、十一月七日に滝山城をたち、八日に久喜、大室、九日に榎本に着き、十日には小山に着陣することを命じたもの。				

5. 北条氏照朱印状



資料名（書籍名）	『戦国遺文 後北条氏編 第2巻』	発行	東京堂出版	発行日	1990/9/1
所蔵場所					
主な記載内容	「滝山」の名がみえる初見は永祿10年（1567）の当朱印状である。				

D 竣工図・設計図

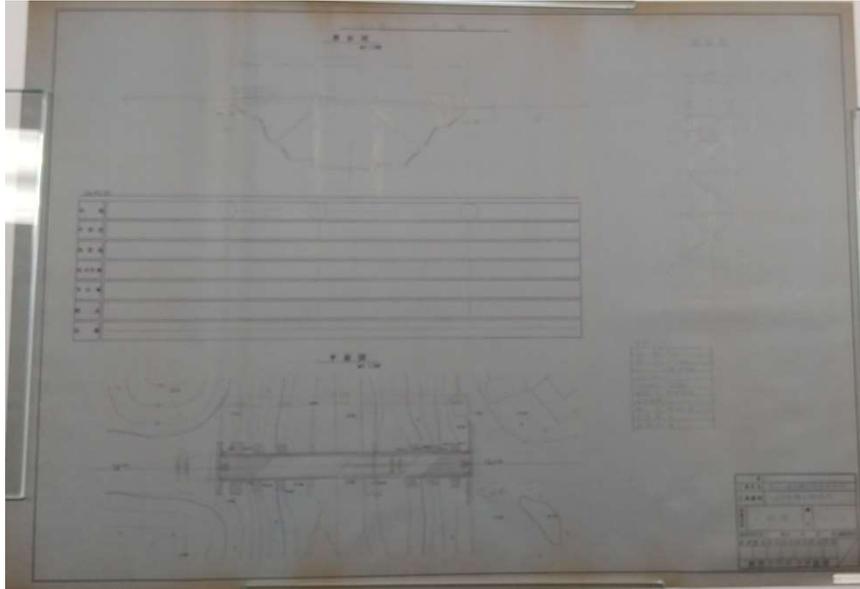
1. 引橋改築比較表

比 較 表

側面図	断面図	工事費	経済性	美 観	池工性	維持管理	利 便
		上段工 1/14.2 円 下段工 4.7 円 合計 1/18.9 円	5 割中費 2割中	町工の美観、対して木橋の 木橋の美観、対して木橋の 美観に劣る。	柱上段等の組立ての 工上段の組立ての 工上段の組立ての 工上段の組立ての	5 割中費 2割中 5 割中費 2割中 5 割中費 2割中	橋脚の組立て、対して 橋脚の組立て、対して 橋脚の組立て、対して
		上段工 1/11.5 円 下段工 4.5 円 合計 1/16.0 円	5 割中費 2割中	町工の美観、対して木橋の 木橋の美観、対して木橋の 美観に劣る。	橋脚の組立て、対して 橋脚の組立て、対して 橋脚の組立て、対して	5 割中費 2割中 5 割中費 2割中 5 割中費 2割中	橋脚の組立て、対して 橋脚の組立て、対して 橋脚の組立て、対して
		上段工 1/14.2 円 下段工 4.7 円 合計 1/18.9 円	5 割中費 2割中	町工の美観、対して木橋の 木橋の美観、対して木橋の 美観に劣る。	橋脚の組立て、対して 橋脚の組立て、対して 橋脚の組立て、対して	5 割中費 2割中 5 割中費 2割中 5 割中費 2割中	橋脚の組立て、対して 橋脚の組立て、対して 橋脚の組立て、対して

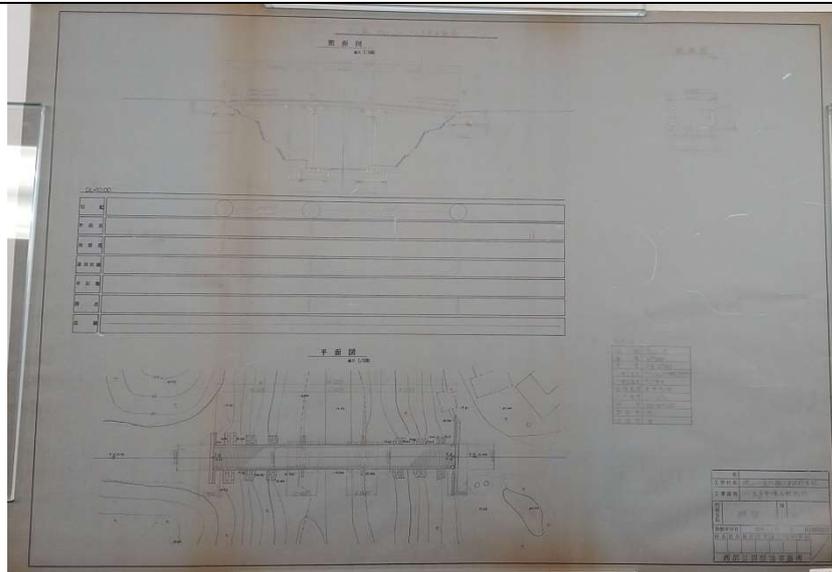
資料名（書籍名）	滝山公園引橋改築設計委託	発行	東京都西部公園緑地事務所	発行日	1982/ 1/ 1
所蔵場所	東京グリーンアーカイブス				
主な記載内容	木橋、プレテンション PC 単純床版橋、単純非合成鉄桁橋 の比較				

2. 引橋改築設計図



資料名（書籍名）	滝山公園引橋改築設計委託	発行	東京都西部公園緑地事務所	発行日	1982/ 1/ 1
所蔵場所	東京グリーンアーカイブス				
主な記載内容	木橋				

3. 引橋改築設計図



資料名（書籍名）	滝山公園引橋改築設計委託	発行	東京都西部公園緑地事務所	発行日	1982/ 1/ 1
所蔵場所	東京グリーンアーカイブス				
主な記載内容	プレテンションPC 単純床版橋				

⑤ 写真（絵葉書含む）

1. 滝山公園某所（場所不明）					
					
出典資料名 （書籍名）	滝山公園写真集	発行		発行 日	1981/ 11
所蔵場所	東京グリーンアーカイブス	撮影 時期	1981/ 11		
主な記載内容					

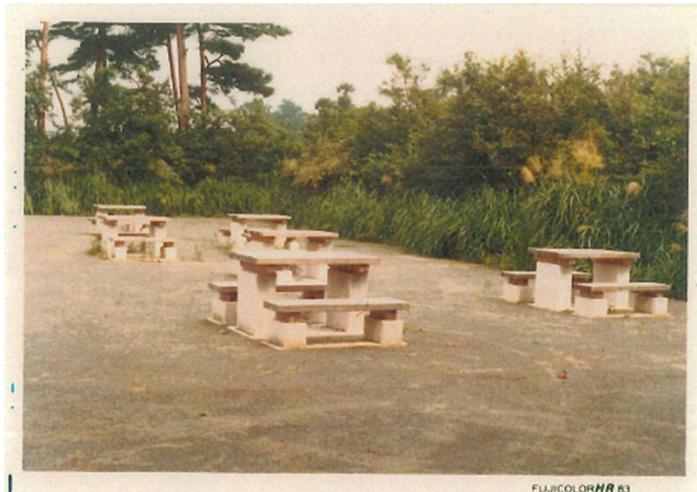
2. 滝山公園某所（場所不明）



FUJICOLORHR 83



FUJICOLORHR 83



FUJICOLORHR 83

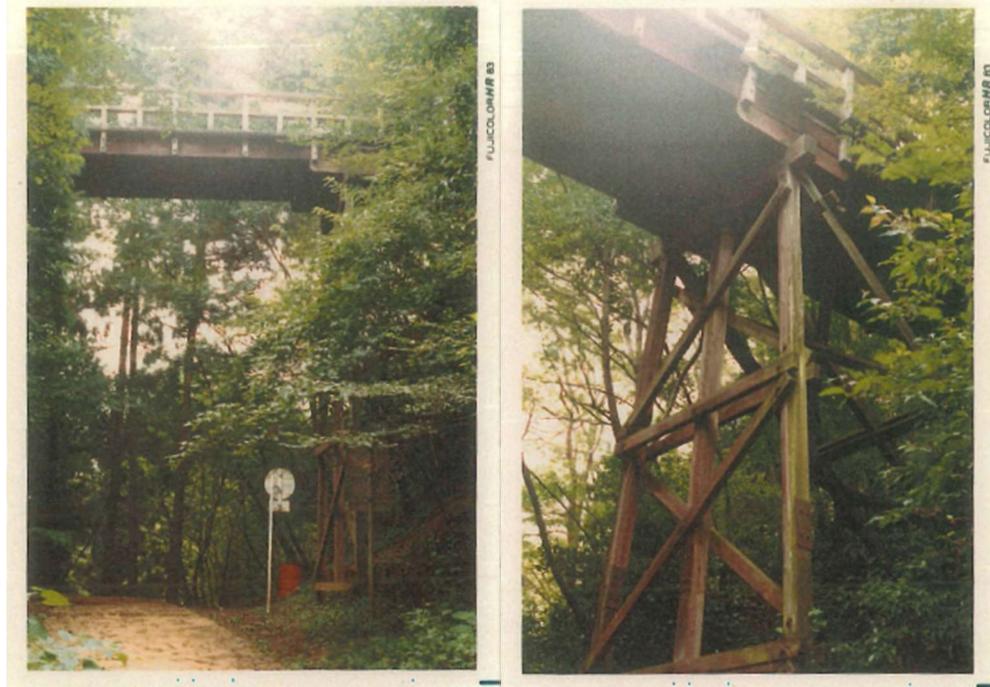
出典資料名 (書籍名)	滝山公園写真集	発行		発行 日	1981/ 11
所蔵場所	東京グリーンアーカイブス	撮影 時期	1981/ 11		
主な記載内容					

3. 滝山公園某所（場所不明）



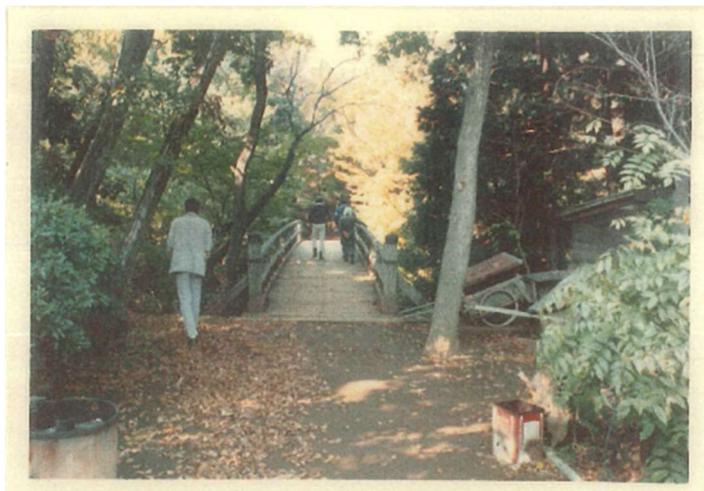
出典資料名 （書籍名）	滝山公園写真集	発行		発行日	1981/ 11
所蔵場所	東京グリーンアー カイクス	撮影 時期	1981/ 11		
主な記載内容					

4. ひき橋 改修前



出典資料名 （書籍名）	滝山公園写真集	発行		発行日	1981/ 11
所蔵場所	東京グリーンアーカ イクス	撮影 時期	1983/ 9		
主な記載内容	ひき橋 改修前				

5. ひき橋 57年度改築設計委託予定



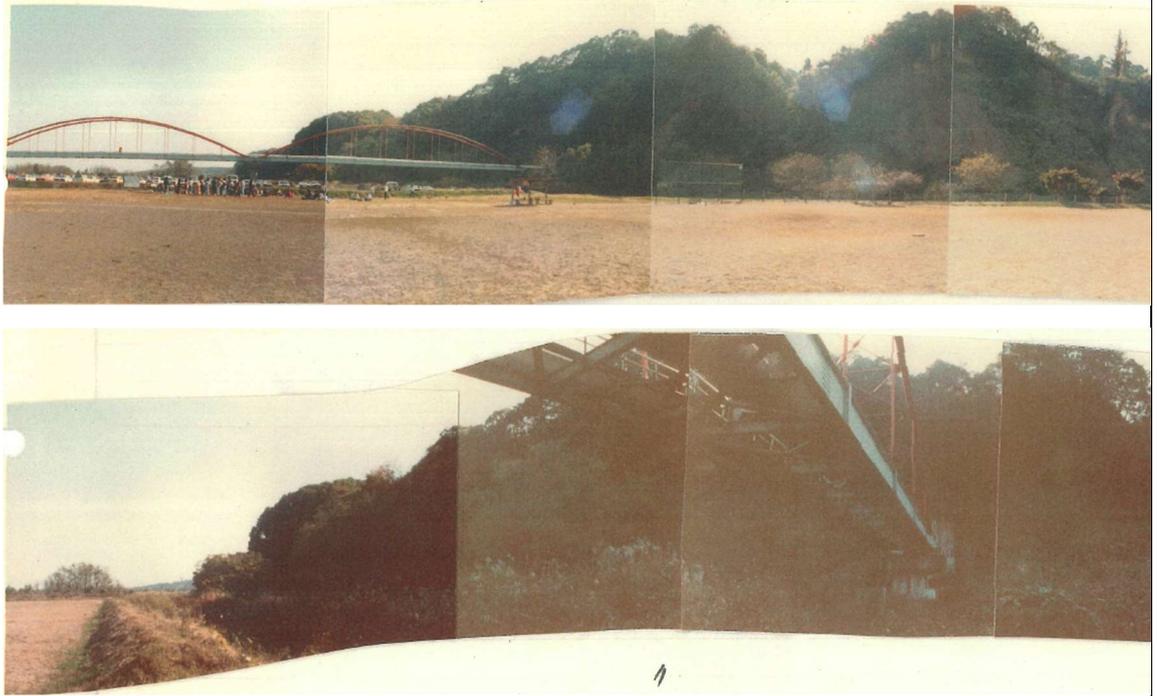
出典資料名 (書籍名)	滝山公園写真集	発行		発行日	1981/ 11
所蔵場所	東京グリーンアーカイブス	撮影 時期	1981/ 11		
主な記載内容	ひき橋 57年度改築設計委託予定				

6. 土砂崩落



出典資料名 (書籍名)	滝山公園写真集	発行		発行日	1981/ 11
所蔵場所	東京グリーンアーカイブス	撮影 時期	1981/ 11		
主な記載内容	土砂崩落				

7. 八王子市営グラウンドよりの全景



出典資料名 (書籍名)	滝山公園写真集	発行		発行日	1981/ 11
所蔵場所	東京グリーンアー カイブス	撮影時 期	1981/ 11		
主な記載内容	八王子市営グラウンドよりの全景				

8. 八王子市所有 本丸跡



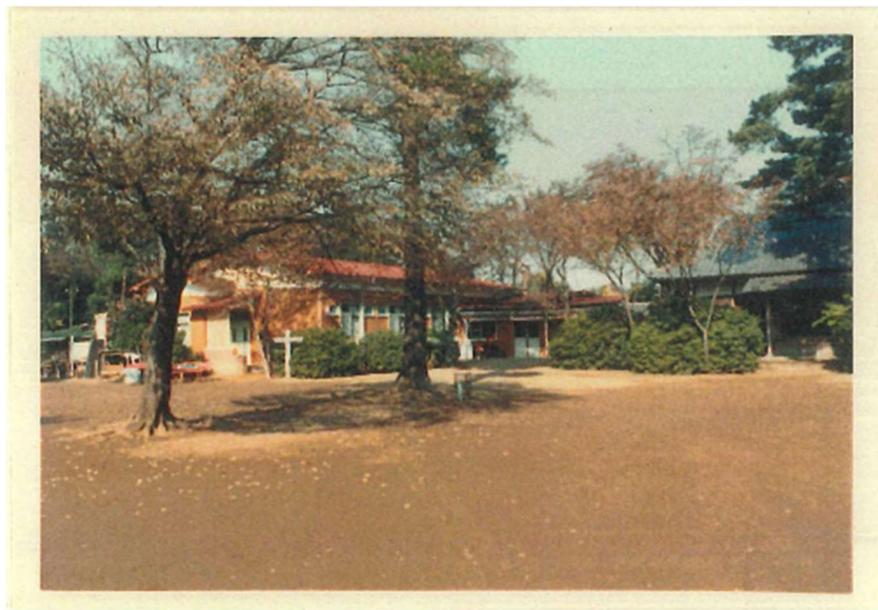
出典資料名 (書籍名)	滝山公園写真集	発行		発行日	1981/ 11
所蔵場所	東京グリーンアー カイブス	撮影時 期	1981/ 11		
主な記載内容	八王子市所有 本丸跡				

9. 都所有 千畳敷 57年度整備予定



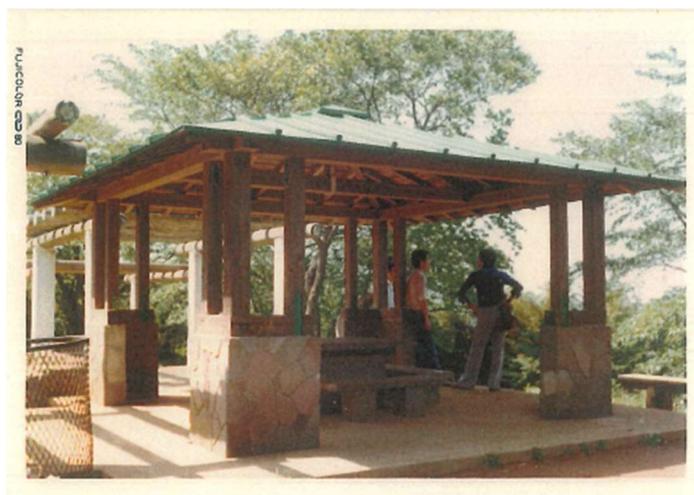
出典資料名 (書籍名)	滝山公園写真集	発行		発行日	1981/ 11
所蔵場所	東京グリーンアー カイクス	撮影時 期	1981/ 11		
主な記載内容	都所有 千畳敷 57年度整備予定				

10. 八王子市営 国民宿舎



出典資料名 (書籍名)	滝山公園写真集	発行		発行日	1981/ 11
所蔵場所	東京グリーンアーカ イクス	撮影 時期	1981/ 11		
主な記載内容	八王子市営 国民宿舎				

11. 中の丸 パーゴラ・東屋



出典資料名 (書籍名)	自然公園写真集	発行		発行日	
所蔵場所	東京グリーンアーカイブス	撮影 時期	1980/ 8		
主な記載内容					

12. トイレ



出典資料名 (書籍名)	自然公園写真集	発行		発行日	
所蔵場所	東京グリーンアーカイブス	撮影 時期	1980/ 8		
主な記載内容					

13. トイレ



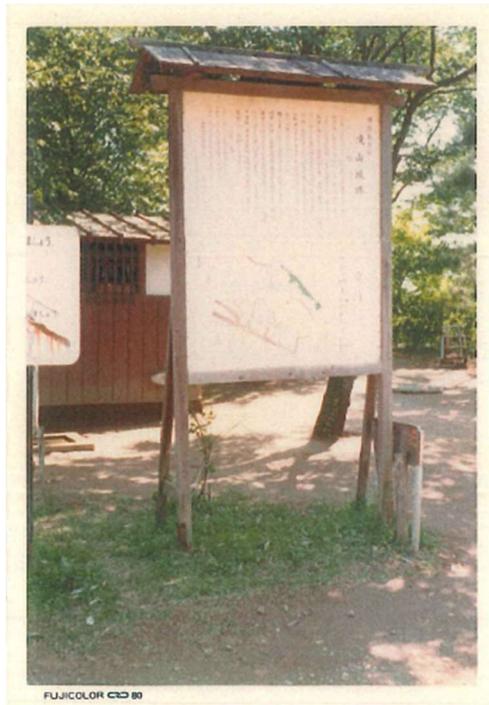
出典資料名 (書籍名)	自然公園写真集	発行		発行日	
所蔵場所	東京グリーンアーカイブス	撮影 時期	1980/ 8		
主な記載内容					

14. サイン



出典資料名 (書籍名)	自然公園写真集	発行		発行日	
所蔵場所	東京グリーンアーカイブス	撮影 時期	1980/ 8		
主な記載内容					

15. サイン



出典資料名 (書籍名)	自然公園写真集	発行		発行日	
所蔵場所	東京グリーンアーカイブス	撮影 時期	1980/ 8		
主な記載内容					

16. 焼却炉



出典資料名 (書籍名)	自然公園写真集	発行		発行日	
所蔵場所	東京グリーンアーカイブス	撮影 時期	1980/ 8		
主な記載内容					

17. ひき橋



出典資料名 (書籍名)	自然公園写真集	発行		発行日	
所蔵場所	東京グリーンアーカイブス	撮影 時期	1980/ 8		
主な記載内容					

18. ひき橋 橋脚



出典資料名 (書籍名)	自然公園写真集	発行		発行日	
所蔵場所	東京グリーンアーカイブス	撮影 時期	1980/ 8		
主な記載内容					

19. 千畳敷



出典資料名 (書籍名)	自然公園写真集	発行		発行日	
所蔵場所	東京グリーンアーカイブス	撮影 時期	1982/ 6		
主な記載内容	千畳敷				

20. ひき橋から下を望む景



出典資料名 (書籍名)	自然公園写真集	発行		発行日	
所蔵場所	東京グリーンアーカイブス	撮影 時期	1982/ 6		
主な記載内容					

21. (場所不明)



出典資料名 (書籍名)	自然公園写真集	発行		発行日	
所蔵場所	東京グリーンアーカイブス	撮影 時期	1982/ 6		
主な記載内容	情報が乏しく場所不明				

22. (場所不明)



出典資料名 (書籍名)	自然公園写真集	発行		発行日	
所蔵場所	東京グリーンアーカイブス	撮影時期	1982/ 6		
主な記載内容	情報が乏しく場所不明				

23. (場所不明)



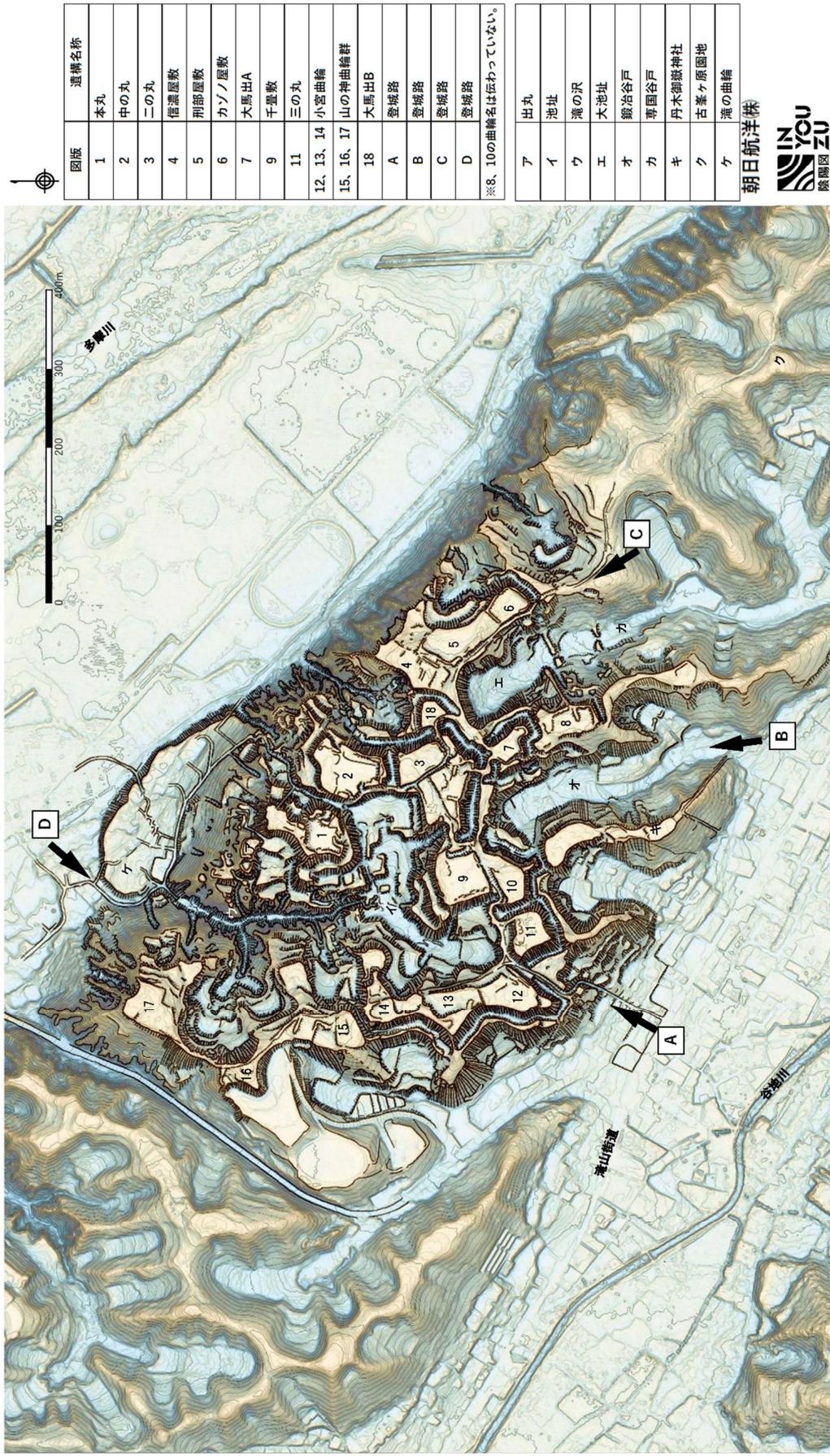
出典資料名 (書籍名)	自然公園写真集	発行		発行日	
所蔵場所	東京グリーンアーカイブス	撮影時期	1982/ 6		
主な記載内容	情報が乏しく場所不明				

24. (場所不明)



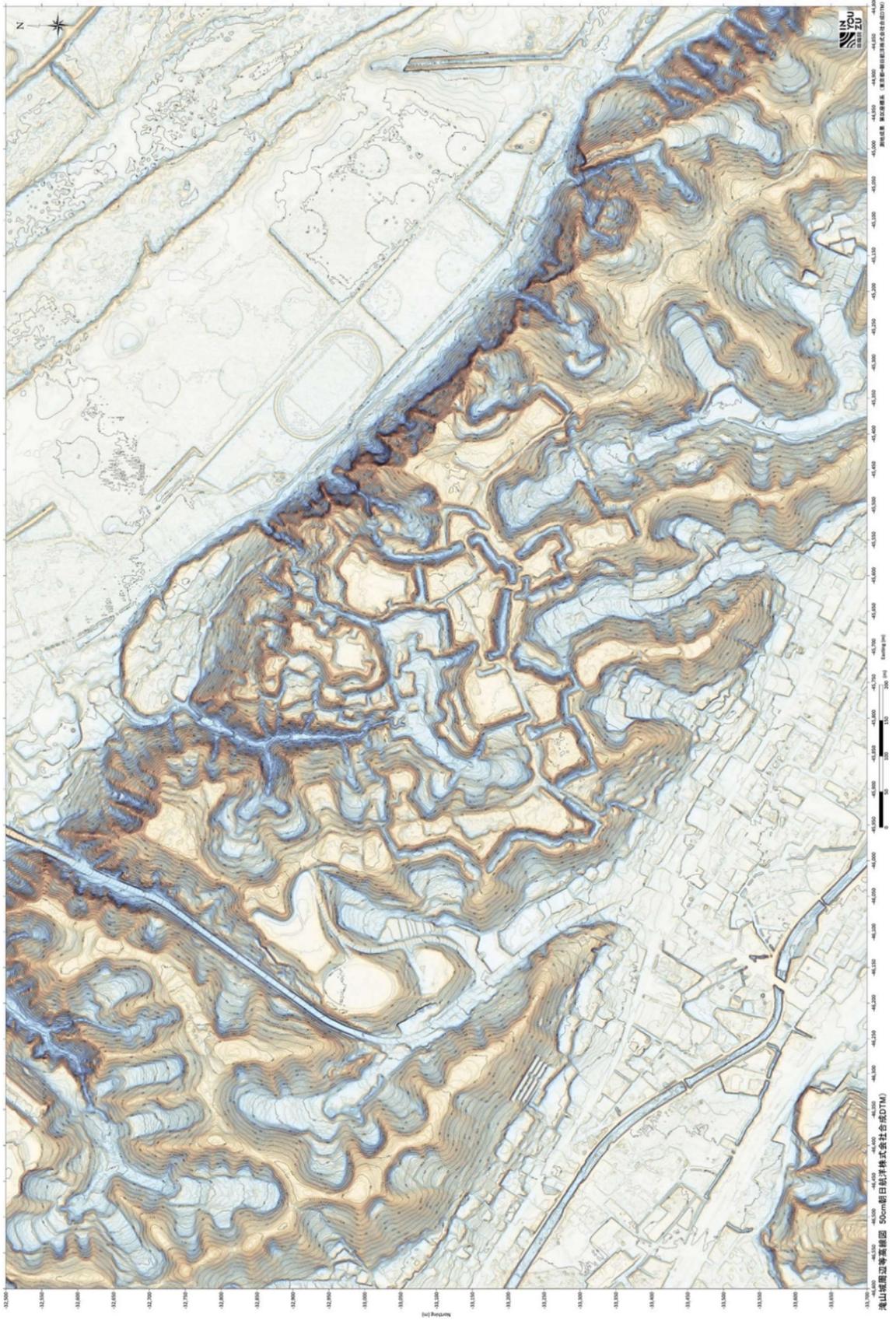
出典資料名 (書籍名)	自然公園写真集	発行		発行日	
所蔵場所	東京グリーンアーカイブス	撮影 時期	1982/ 6		
主な記載内容	情報が乏しく場所不明				

滝山城縄張図



出典：朝日航洋（凡例、記号、多摩川、滝山街道、谷地川の文字を加筆）

滝山城陰陽図（50cm 等高線図合成陰陽図）



出典：朝日航洋